API リファレンス

AWS Lambda



API バージョン 2015-03-31

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS Lambda: API リファレンス

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、お客様に混乱を招く可能性がある態様、または Amazon の信用を傷つけたり、失わせたりする態様において、Amazon のものではない製品またはサービスに関連して使用してはなりません。Amazon が所有していない他のすべての商標は、それぞれの所有者の所有物であり、Amazon と提携、接続、または後援されている場合とされていない場合があります。

Table of Contents

ようこそ 1
SDK を使用する場合の証明書のエラー 1
アクション 3
AddLayerVersionPermission 6
リクエストの構文 6
URI リクエストパラメータ 6
リクエストボディ 7
レスポンスの構文 8
レスポンス要素 8
エラー 9
以下の資料も参照してください。 10
AddPermission 11
リクエストの構文 11
URI リクエストパラメータ 11
リクエストボディ 12
レスポンスの構文 15
レスポンス要素 15
エラー 15
以下の資料も参照してください。 16
CreateAlias 18
リクエストの構文 18
URI リクエストパラメータ 18
リクエストボディ 19
レスポンスの構文 20
レスポンス要素 20
エラー 21
以下の資料も参照してください。 22
CreateCodeSigningConfig 24
リクエストの構文 24
URI リクエストパラメータ 24
リクエストボディ 24
レスポンスの構文 25
レスポンス要素 25
エラー 26

以下の資料も参照してください。 26
CreateEventSourceMapping 27
リクエストの構文 28
URI リクエストパラメータ 29
リクエストボディ 29
レスポンスの構文 36
レスポンス要素 37
エラー 43
以下の資料も参照してください。 44
CreateFunction 45
リクエストの構文 46
URI リクエストパラメータ 47
リクエストボディ 48
レスポンスの構文 54
レスポンス要素 56
エラー 62
以下の資料も参照してください。 64
CreateFunctionUrlConfig 65
リクエストの構文 65
URI リクエストパラメータ 65
リクエストボディ 66
レスポンスの構文 67
レスポンス要素 67
エラー 69
以下の資料も参照してください。 69
DeleteAlias 71
リクエストの構文 71
URI リクエストパラメータ 71
リクエストボディ 72
レスポンスの構文 72
レスポンス要素 72
エラー 72
以下の資料も参照してください。 73
DeleteCodeSigningConfig 74
リクエストの構文 74
URI リクエストパラメータ 74

リクエストボディ 74
レスポンスの構文 74
レスポンス要素 74
エラー 74
以下の資料も参照してください。 75
DeleteEventSourceMapping 76
リクエストの構文 76
URI リクエストパラメータ 76
リクエストボディ 76
レスポンスの構文 76
レスポンス要素 78
エラー 83
以下の資料も参照してください。 84
DeleteFunction 86
リクエストの構文 86
URI リクエストパラメータ 86
リクエストボディ 87
レスポンスの構文 87
レスポンス要素 87
エラー 87
以下の資料も参照してください。 88
DeleteFunctionCodeSigningConfig 89
リクエストの構文 89
URI リクエストパラメータ 89
リクエストボディ 89
レスポンスの構文 89
レスポンス要素 90
エラー 90
以下の資料も参照してください。 91
DeleteFunctionConcurrency 92
リクエストの構文 92
URI リクエストパラメータ 92
リクエストボディ 92
レスポンスの構文 92
レスポンス要素 93
エラー 93

以下の資料も参照してください。 93
DeleteFunctionEventInvokeConfig 95
リクエストの構文 95
URI リクエストパラメータ 95
リクエストボディ 96
レスポンスの構文 96
レスポンス要素 96
エラー 96
以下の資料も参照してください。 97
DeleteFunctionUrlConfig 98
リクエストの構文 98
URI リクエストパラメータ 98
リクエストボディ 99
レスポンスの構文 99
レスポンス要素 99
エラー 99
以下の資料も参照してください。 100
DeleteLayerVersion 101
リクエストの構文 101
URI リクエストパラメータ 101
リクエストボディ 101
レスポンスの構文 101
レスポンス要素 102
エラー 102
以下の資料も参照してください。 102
DeleteProvisionedConcurrencyConfig 103
リクエストの構文 103
URI リクエストパラメータ 103
リクエストボディ 104
レスポンスの構文 104
レスポンス要素 104
エラー 104
以下の資料も参照してください。 105
GetAccountSettings 106
リクエストの構文 106
URI リクエストパラメータ 106

リクエストボディ 106
レスポンスの構文 106
レスポンス要素 106
エラー 107
以下の資料も参照してください。 107
GetAlias 109
リクエストの構文 109
URI リクエストパラメータ 109
リクエストボディ 110
レスポンスの構文 110
レスポンス要素 110
エラー 111
以下の資料も参照してください。 112
GetCodeSigningConfig 113
リクエストの構文 113
URI リクエストパラメータ 113
リクエストボディ 113
レスポンスの構文 113
レスポンス要素 114
エラー 114
以下の資料も参照してください。 114
GetEventSourceMapping 116
リクエストの構文 116
URI リクエストパラメータ 116
リクエストボディ 116
レスポンスの構文 116
レスポンス要素 118
エラー 123
以下の資料も参照してください。 124
GetFunction 125
リクエストの構文 125
URI リクエストパラメータ 125
リクエストボディ 126
レスポンスの構文 126
レスポンス要素 128
エラー 129

以下の資料も参照してください。 130
GetFunctionCodeSigningConfig 131
リクエストの構文 131
URI リクエストパラメータ 131
リクエストボディ 131
レスポンスの構文 131
レスポンス要素 132
エラー 133
以下の資料も参照してください。 133
GetFunctionConcurrency 135
リクエストの構文 135
URI リクエストパラメータ 135
リクエストボディ 135
レスポンスの構文 135
レスポンス要素 136
エラー 136
以下の資料も参照してください。 137
GetFunctionConfiguration 138
リクエストの構文 138
URI リクエストパラメータ 138
リクエストボディ 139
レスポンスの構文 139
レスポンス要素 141
エラー 148
以下の資料も参照してください。 148
GetFunctionEventInvokeConfig 150
リクエストの構文 150
URI リクエストパラメータ 150
リクエストボディ 151
レスポンスの構文 151
レスポンス要素 151
エラー 152
以下の資料も参照してください。 153
GetFunctionUrlConfig 154
リクエストの構文 154
URI リクエストパラメータ 154

リクエストボディ 155
レスポンスの構文 155
レスポンス要素 155
エラー 157
以下の資料も参照してください。 157
GetLayerVersion 159
リクエストの構文 159
URI リクエストパラメータ 159
リクエストボディ 159
レスポンスの構文 159
レスポンス要素 160
エラー 162
以下の資料も参照してください。 163
GetLayerVersionByArn 164
リクエストの構文 164
URI リクエストパラメータ 164
リクエストボディ 164
レスポンスの構文 164
レスポンス要素 165
エラー 167
以下の資料も参照してください。 167
GetLayerVersionPolicy 169
リクエストの構文 169
URI リクエストパラメータ 169
リクエストボディ 169
レスポンスの構文 169
レスポンス要素 170
エラー 170
以下の資料も参照してください。 171
GetPolicy 172
リクエストの構文 172
URI リクエストパラメータ 172
リクエストボディ 173
レスポンスの構文 173
レスポンス要素 173
エラー 173

以下の資料も参照してください。 174
GetProvisionedConcurrencyConfig 175
リクエストの構文 175
URI リクエストパラメータ 175
リクエストボディ 176
レスポンスの構文 176
レスポンス要素 176
エラー 177
以下の資料も参照してください。 178
GetRuntimeManagementConfig 179
リクエストの構文 179
URI リクエストパラメータ 179
リクエストボディ 180
レスポンスの構文 180
レスポンス要素 180
エラー 181
以下の資料も参照してください。 181
Invoke 183
リクエストの構文 183
URI リクエストパラメータ 184
リクエストボディ 185
レスポンスの構文 185
レスポンス要素 186
エラー 186
以下の資料も参照してください。 191
InvokeAsync 192
リクエストの構文 192
URI リクエストパラメータ 192
リクエストボディ 193
レスポンスの構文 193
レスポンス要素 193
エラー 193
以下の資料も参照してください。 194
InvokeWithResponseStream 195
リクエストの構文 195
URI リクエストパラメータ 195

リクエストボディ 196
レスポンスの構文 197
レスポンス要素 197
エラー 198
以下の資料も参照してください。 202
ListAliases 204
リクエストの構文 204
URI リクエストパラメータ 204
リクエストボディ 205
レスポンスの構文 205
レスポンス要素 205
エラー 206
以下の資料も参照してください。 206
ListCodeSigningConfigs 208
リクエストの構文 208
URI リクエストパラメータ 208
リクエストボディ 208
レスポンスの構文 208
レスポンス要素 209
エラー 209
以下の資料も参照してください。 210
ListEventSourceMappings 211
リクエストの構文 211
URI リクエストパラメータ 211
リクエストボディ 212
レスポンスの構文 212
レスポンス要素 214
エラー 214
以下の資料も参照してください。 215
ListFunctionEventInvokeConfigs 216
リクエストの構文 216
URI リクエストパラメータ 216
リクエストボディ 217
レスポンスの構文 217
レスポンス要素 217
エラー 218

以下の資料も参照してください。 218
ListFunctions 220
リクエストの構文 220
URI リクエストパラメータ 220
リクエストボディ 221
レスポンスの構文 221
レスポンス要素 223
エラー 224
以下の資料も参照してください。 224
ListFunctionsByCodeSigningConfig 226
リクエストの構文 226
URI リクエストパラメータ 226
リクエストボディ 226
レスポンスの構文 226
レスポンス要素 227
エラー 227
以下の資料も参照してください。 228
ListFunctionUrlConfigs 229
リクエストの構文 229
URI リクエストパラメータ 229
リクエストボディ 230
レスポンスの構文 230
レスポンス要素 230
エラー 231
以下の資料も参照してください。 231
ListLayers 233
リクエストの構文 233
URI リクエストパラメータ 233
リクエストボディ 234
レスポンスの構文 234
レスポンス要素 234
エラー 235
以下の資料も参照してください。 235
ListLayerVersions 237
リクエストの構文 237
URI リクエストパラメータ 237

リクエストボディ 238
レスポンスの構文 238
レスポンス要素 239
エラー 239
以下の資料も参照してください。 240
ListProvisionedConcurrencyConfigs 241
リクエストの構文 241
URI リクエストパラメータ 241
リクエストボディ 242
レスポンスの構文 242
レスポンス要素 242
エラー 243
以下の資料も参照してください。 243
ListTags 245
リクエストの構文 245
URI リクエストパラメータ 245
リクエストボディ 245
レスポンスの構文 245
レスポンス要素 245
エラー 246
以下の資料も参照してください。 246
ListVersionsByFunction 248
リクエストの構文 248
URI リクエストパラメータ 248
リクエストボディ 249
レスポンスの構文 249
レスポンス要素 251
エラー 252
以下の資料も参照してください。 252
PublishLayerVersion 254
リクエストの構文 254
URI リクエストパラメータ 254
リクエストボディ 255
レスポンスの構文 256
レスポンス要素 257
エラー 259

以下の資料も参照してください。 259
PublishVersion 261
リクエストの構文 261
URI リクエストパラメータ 261
リクエストボディ 262
レスポンスの構文 262
レスポンス要素 265
エラー 271
以下の資料も参照してください。 272
PutFunctionCodeSigningConfig 274
リクエストの構文 274
URI リクエストパラメータ 274
リクエストボディ 274
レスポンスの構文 275
レスポンス要素 275
エラー 276
以下の資料も参照してください。 277
PutFunctionConcurrency 278
リクエストの構文 278
URI リクエストパラメータ 278
リクエストボディ 279
レスポンスの構文 279
レスポンス要素 279
エラー 280
以下の資料も参照してください。 280
PutFunctionEventInvokeConfig 282
リクエストの構文 282
URI リクエストパラメータ 282
リクエストボディ 283
レスポンスの構文 284
レスポンス要素 285
エラー 286
以下の資料も参照してください。 286
PutProvisionedConcurrencyConfig 288
リクエストの構文 288
URI リクエストパラメータ 288

リクエストボディ 289
レスポンスの構文 289
レスポンス要素 289
エラー 291
以下の資料も参照してください。 291
PutRuntimeManagementConfig 293
リクエストの構文 293
URI リクエストパラメータ 293
リクエストボディ 294
レスポンスの構文 295
レスポンス要素 295
エラー 296
以下の資料も参照してください。 297
RemoveLayerVersionPermission 298
リクエストの構文 298
URI リクエストパラメータ 298
リクエストボディ 299
レスポンスの構文 299
レスポンス要素 299
エラー 299
以下の資料も参照してください。 300
RemovePermission 301
リクエストの構文 301
URI リクエストパラメータ 301
リクエストボディ 302
レスポンスの構文 302
レスポンス要素 302
エラー 302
以下の資料も参照してください。 303
TagResource 304
リクエストの構文 304
URI リクエストパラメータ 304
リクエストボディ 304
レスポンスの構文 305
レスポンス要素 305
エラー 305

以下の資料も参照してください。 306
UntagResource 307
リクエストの構文 307
URI リクエストパラメータ 307
リクエストボディ 307
レスポンスの構文 307
レスポンス要素 307
エラー 308
以下の資料も参照してください。 308
UpdateAlias 310
リクエストの構文 310
URI リクエストパラメータ 310
リクエストボディ 311
レスポンスの構文 312
レスポンス要素 312
エラー 313
以下の資料も参照してください。 314
UpdateCodeSigningConfig 316
リクエストの構文 316
URI リクエストパラメータ 316
リクエストボディ 316
レスポンスの構文 317
レスポンス要素 318
エラー 318
以下の資料も参照してください。 318
UpdateEventSourceMapping 320
リクエストの構文 321
URI リクエストパラメータ 322
リクエストボディ 322
レスポンスの構文 327
レスポンス要素 328
エラー 334
以下の資料も参照してください。 335
UpdateFunctionCode 336
リクエストの構文 336
URI リクエストパラメータ 337

リクエストボディ 337
レスポンスの構文 339
レスポンス要素 342
エラー 348
以下の資料も参照してください。 350
UpdateFunctionConfiguration 351
リクエストの構文 351
URI リクエストパラメータ 352
リクエストボディ 353
レスポンスの構文 357
レスポンス要素 360
エラー 366
以下の資料も参照してください。 367
UpdateFunctionEventInvokeConfig 369
リクエストの構文 369
URI リクエストパラメータ 369
リクエストボディ 370
レスポンスの構文 371
レスポンス要素 371
エラー 372
以下の資料も参照してください。 373
UpdateFunctionUrlConfig 375
リクエストの構文 375
URI リクエストパラメータ 375
リクエストボディ 376
レスポンスの構文 377
レスポンス要素 377
エラー 379
以下の資料も参照してください。 380
データ型 381
AccountLimit 384
目次 384
以下の資料も参照してください。 385
AccountUsage 386
目次 386
以下の資料も参照してください。 386

AliasConfiguration ... 387
目次 ... 387
以下の資料も参照してください。 ... 388
AliasRoutingConfiguration ... 389
目次 ... 389
以下の資料も参照してください。 ... 389
AllowedPublishers ... 390
目次 ... 390
以下の資料も参照してください。 ... 390
AmazonManagedKafkaEventSourceConfig ... 391
目次 ... 391
以下の資料も参照してください。 ... 391
CodeSigningConfig ... 392
目次 ... 392
以下の資料も参照してください。 ... 393
CodeSigningPolicies ... 394
目次 ... 394
以下の資料も参照してください。 ... 394
Concurrency ... 395
目次 ... 395
以下の資料も参照してください。 ... 395
Cors ... 396
目次 ... 396
以下の資料も参照してください。 ... 398
DeadLetterConfig ... 399
目次 ... 399
以下の資料も参照してください。 ... 399
DestinationConfig ... 400
目次 ... 400
以下の資料も参照してください。 ... 400
DocumentDBEventSourceConfig ... 401
目次 ... 401
以下の資料も参照してください。 ... 402
Environment ... 403
目次 ... 403
以下の資料も参照してください。 ... 403

EnvironmentError 404
目次 404
以下の資料も参照してください。 404
EnvironmentResponse 405
目次 405
以下の資料も参照してください。 405
EphemeralStorage 406
目次 406
以下の資料も参照してください。 406
EventSourceMappingConfiguration 407
目次 407
以下の資料も参照してください。 413
FileSystemConfig 415
目次 415
以下の資料も参照してください。 415
Filter 417
目次 417
以下の資料も参照してください。 417
FilterCriteria 418
内容 418
以下の資料も参照してください。 418
FunctionCode 419
目次 419
以下の資料も参照してください。 420
FunctionCodeLocation 421
目次 421
以下の資料も参照してください。 421
FunctionConfiguration 423
目次 423
以下の資料も参照してください。 431
FunctionEventInvokeConfig 432
目次 432
以下の資料も参照してください。 433
FunctionUrlConfig 434
目次 434
以下の資料も参照してください。 435

ImageConfig 437
目次 437
以下の資料も参照してください。 437
ImageConfigError 439
目次 439
以下の資料も参照してください。 439
ImageConfigResponse 440
目次 440
以下の資料も参照してください。 440
InvokeResponseStreamUpdate 441
目次 441
以下の資料も参照してください。 441
InvokeWithResponseStreamCompleteEvent 442
目次 442
以下の資料も参照してください。 442
InvokeWithResponseStreamResponseEvent 443
目次 443
以下の資料も参照してください。 443
Layer 444
目次 444
以下の資料も参照してください。 445
LayersListItem 446
目次 446
以下の資料も参照してください。 446
LayerVersionContentInput 448
目次 448
以下の資料も参照してください。 449
LayerVersionContentOutput 450
目次 450
以下の資料も参照してください。 451
LayerVersionsListItem 452
目次 452
以下の資料も参照してください。 454
LoggingConfig 455
目次 455
以下の資料も参照してください。 456

OnFailure 457
目次 457
以下の資料も参照してください。 457
OnSuccess 458
目次 458
以下の資料も参照してください。 458
ProvisionedConcurrencyConfigListItem 459
目次 459
以下の資料も参照してください。 460
RuntimeVersionConfig 461
内容 461
以下の資料も参照してください。 461
RuntimeVersionError 462
目次 462
以下の資料も参照してください。 462
ScalingConfig 463
目次 463
以下の資料も参照してください。 463
SelfManagedEventSource 464
目次 464
以下の資料も参照してください。 464
SelfManagedKafkaEventSourceConfig 465
目次 465
以下の資料も参照してください。 465
SnapStart 466
目次 466
以下の資料も参照してください。 466
SnapStartResponse 467
目次 467
以下の資料も参照してください。 467
SourceAccessConfiguration 468
目次 468
以下の資料も参照してください。 469
TracingConfig 470
目次 470
以下の資料も参照してください。 470

TracingConfigResponse 471
目次 471
以下の資料も参照してください。 471
VpcConfig 472
目次 472
以下の資料も参照してください。 472
VpcConfigResponse 474
目次 474
以下の資料も参照してください。 475
共通パラメータ 476
共通エラー 479

ようこそ

このセクションには、AWS Lambda API リファレンスドキュメントが含まれています。アプリケーションから直接 API にリクエストを行う代わりに、AWS Software Development Kit (SDK) のいずれかをプログラミング言語に使用することをお勧めします。AWS SDK は、リクエスト認証、シリアル化、接続管理を実行します。AWS SDK を使用しない場合は、署名を指定してリクエストを認証する必要があります。AWS Lambda は署名バージョン 4 をサポートしています。詳細については、「Amazon Web Services 全般のリファレンス」の「署名バージョン 4 の署名プロセス」を参照してください。

SDK を使用する場合の証明書のエラー

AWS SDK では、使用するコンピュータの CA 証明書が使用されるため、AWS サーバー上の証明書が変更されると、SDK を使用する際に接続エラーが発生する可能性があります。このようなエラーは、コンピュータ上の CA 証明書とオペレーティングシステムを最新の状態にしておくことで回避できます。ユーザーが自分のコンピュータを管理していない企業環境でこの問題が発生した場合は、必要に応じて管理者から支援を得て更新プロセスを行う必要があります。以下のリストは、オペレーティングシステムと Java の最小バージョンを示しています。

- 2005 年 1 月以降の更新プログラムがインストールされた Microsoft Windows バージョンでは、必要な CA が信頼リストに 1 つ以上含まれています。
- Mac OS X 10.4 with Java for Mac OS X 10.4 Release 5 (2007 年 2 月)、Mac OS X 10.5 (2007 年 10 月)、および以降のバージョンでは、必要な CA が信頼リストに 1 つ以上含まれています。
- Red Hat Enterprise Linux 5 (2007 年 3 月)、6、7、および CentOS 5、6、および 7 では、必要な CA がデフォルトの CA 信頼リストに 1 つ以上含まれています。
- Java 1.4.2_12 (2006 年 5 月)、5 Update 2 (2005 年 3 月)、および以降のすべてのバージョン (Java 6 (2006 年 12 月)、7、8 を含む) では、必要な CA がデフォルトの CA 信頼リストに 1 つ以上含まれています。

AWS Lambda 管理コンソールまたは AWS Lambda API エンドポイントにアクセスする場合、ブラウザを介するかプログラムで、クライアントマシンが以下のいずれかの CA をサポートすることを確認する必要があります。

- Amazon Root CA 1
- Starfield Services Root Certificate Authority - G2

- Starfield Class 2 Certification Authority

最初の 2 つの機関からのルート証明書は Amazon Trust Services から入手できますが、もっと簡単なソリューションは、コンピュータを最新の状態にしておくことです。ACM から提供される証明書の詳細については、「AWS Certificate Manager に関するよくある質問」を参照してください。

アクション

以下のアクションがサポートされています:

- AddLayerVersionPermission
- AddPermission
- CreateAlias
- CreateCodeSigningConfig
- CreateEventSourceMapping
- CreateFunction
- CreateFunctionUrlConfig
- DeleteAlias
- DeleteCodeSigningConfig
- DeleteEventSourceMapping
- DeleteFunction
- DeleteFunctionCodeSigningConfig
- DeleteFunctionConcurrency
- DeleteFunctionEventInvokeConfig
- DeleteFunctionUrlConfig
- DeleteLayerVersion
- DeleteProvisionedConcurrencyConfig
- GetAccountSettings
- GetAlias
- GetCodeSigningConfig
- GetEventSourceMapping
- GetFunction
- GetFunctionCodeSigningConfig
- GetFunctionConcurrency
- GetFunctionConfiguration
- GetFunctionEventInvokeConfig
- GetFunctionUrlConfig

- GetLayerVersion
- GetLayerVersionByArn
- GetLayerVersionPolicy
- GetPolicy
- GetProvisionedConcurrencyConfig
- GetRuntimeManagementConfig
- Invoke
- InvokeAsync
- InvokeWithResponseStream
- ListAliases
- ListCodeSigningConfigs
- ListEventSourceMappings
- ListFunctionEventInvokeConfigs
- ListFunctions
- ListFunctionsByCodeSigningConfig
- ListFunctionUrlConfigs
- ListLayers
- ListLayerVersions
- ListProvisionedConcurrencyConfigs
- ListTags
- ListVersionsByFunction
- PublishLayerVersion
- PublishVersion
- PutFunctionCodeSigningConfig
- PutFunctionConcurrency
- PutFunctionEventInvokeConfig
- PutProvisionedConcurrencyConfig
- PutRuntimeManagementConfig
- RemoveLayerVersionPermission
- RemovePermission

- TagResource
- UntagResource
- UpdateAlias
- UpdateCodeSigningConfig
- UpdateEventSourceMapping
- UpdateFunctionCode
- UpdateFunctionConfiguration
- UpdateFunctionEventInvokeConfig
- UpdateFunctionUrlConfig

AddLayerVersionPermission

AWS Lambda レイヤーのバージョンのリソースベースポリシーに許可を追加します。レイヤーの使用に関するアクセス許可を他のアカウントに付与するには、このアクションを使用します。アクセス許可は、組織内の 1 つのアカウント、すべてのアカウント、またはすべての AWS アカウントに付与することができます。

許可を取り消すには、追加時に指定したステートメント ID で RemoveLayerVersionPermission を呼び出します。

リクエストの構文

```
POST /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber/policy?RevisionId=RevisionId
 HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "Action": "string",
   "OrganizationId": "string",
   "Principal": "string",
   "StatementId": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+)|[a-zA-Z0-9-_]+`

必須: はい

RevisionId

リビジョン ID が指定した ID と一致する場合にのみ、ポリシーを更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたポリシーを変更しないようにします。

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Action

レイヤーへのアクセスを許可する API アクション。例えば、`lambda:GetLayerVersion` です。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 22 です。

Pattern: `lambda:GetLayerVersion`

必須: はい

OrganizationId

プリンシパルを * に設定して、指定された組織のすべてのアカウントにアクセス許可を付与します。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 34 です。

Pattern: `o-[a-z0-9]{10,32}`

必須: いいえ

Principal

組織内のすべてのアカウント、またはすべての AWS アカウント (`organizationId` が指定されていない場合) にレイヤーの使用のためのアクセス許可を付与するためのアカウント ID、または *。後者の場合、本当にすべての AWS アカウントにこのレイヤー使用のためのアクセス許可を付与するかどうかを確認してください。

型: 文字列

Pattern: `\d{12}|\*|arn:(aws[a-zA-Z-]*):iam::\d{12}:root`

必須: はい

StatementId

同じレイヤーバージョンの他のポリシーと区別する識別子。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 100 です。

Pattern: `([a-zA-Z0-9-_]+)`

必須：はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
   "RevisionId": "string",
   "Statement": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

RevisionId

ポリシーの現在のリビジョンにおける一意の識別子。

型: 文字列

Statement

アクセス許可ステートメント。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PolicyLengthExceededException

リソースのアクセス許可ポリシーが大きすぎます。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。`GetFunction` または `GetAlias` API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

AddPermission

関数を使用するための許可を、AWS のサービス、AWS アカウント、または AWS 組織に付与します。関数レベルでポリシーを適用したり、1 つのバージョンまたはエイリアスへのアクセスを制限する修飾子を指定したりすることができます。修飾子を使用する場合は、バージョンの完全な Amazon リソースネーム (ARN) またはエイリアスを使用して関数を呼び出す必要があります。注: Lambda では、バージョン $LATEST へのポリシーの追加をサポートしていません。

別のアカウントにアクセス許可を付与するには、アカウント ID を `Principal` として指定します。AWS Organizations で定義されている組織にアクセス許可を付与するには、組織 ID を `PrincipalOrgID` として指定します。AWS のサービスの場合、プリンシパルはサービスが定義するドメインスタイルの識別子で、`s3.amazonaws.com` や `sns.amazonaws.com` などになります。AWS のサービスの場合、関連付けられたリソースの ARN を `SourceArn` として指定することもできます。ソースを指定せずにアクセス許可をサービスプリンシパルに付与した場合は、他のアカウントが Lambda 関数を呼び出すようにそのアカウントのリソースを設定する可能性があります。

この操作は、関数のリソースベースの許可ポリシーにステートメントを追加します。詳細については、「Lambda でのリソースベースのポリシーの使用」を参照してください。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions/FunctionName/policy?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "Action": "string",
   "EventSourceToken": "string",
   "FunctionUrlAuthType": "string",
   "Principal": "string",
   "PrincipalOrgID": "string",
   "RevisionId": "string",
   "SourceAccount": "string",
   "SourceArn": "string",
   "StatementId": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョンまたはエイリアスを指定して、関数の公開済みバージョンにアクセス許可を追加します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Action

プリンシパルが関数で使用できるアクション。例えば、`lambda:InvokeFunction`、`lambda:GetFunction` などです。

型: 文字列

Pattern: `(lambda:[*]|lambda:[a-zA-Z]+|[*])`

必須: はい

EventSourceToken

Alexa Smart Home 関数の場合は、呼び出し元が提供する必要があるトークンです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

パターン: `[a-zA-Z0-9._\-]+`

必須: いいえ

FunctionUrlAuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、`AWS_IAM` に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に `NONE` を設定します。詳細については、「Security and auth model for Lambda function URLs」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `NONE | AWS_IAM`

必須 : いいえ

Principal

関数を呼び出す AWS のサービスまたは AWS アカウントです。サービスを指定する場合は、`SourceArn` または `SourceAccount` を使用して、そのサービスを使用して関数を呼び出すことができるユーザーを制限します。

型: 文字列

Pattern: `[^\s]+`

必須: はい

PrincipalOrgID

AWS Organizations での組織の識別子。これを使用して、この組織の下にあるすべての AWS アカウントに許可を付与します。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 12 です。最大長は 34 です。

パターン: `^o-[a-z0-9]{10,32}$`

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、ポリシーを更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたポリシーを変更しないようにします。

型: 文字列

必須: いいえ

SourceAccount

AWS のサービスの場合は、リソースを所有する AWS アカウントの ID です。これを `SourceArn` とともに使用して、指定されたアカウントがリソースを所有することを確実にします。Amazon S3 バケットは、その所有者によって削除され、別のアカウントによって再作成される可能性があります。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 12 です。

Pattern: `\d{12}`

必須: いいえ

SourceArn

AWS のサービスの場合は、関数を呼び出す AWS リソースの ARN です。たとえば、Amazon S3 バケットまたは Amazon SNS トピックです。

Lambda は、`StringLike` 演算子を使用して比較を設定することに注意してください。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

StatementId

ステートメントを同じポリシー内の他のステートメントと区別するステートメント識別子。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 100 です。

Pattern: ([a-zA-Z0-9-_]+)

必須：はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
   "Statement": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Statement

関数ポリシーに追加されるアクセス許可ステートメント。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PolicyLengthExceededException

リソースのアクセス許可ポリシーが大きすぎます。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。`GetFunction` または `GetAlias` API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

CreateAlias

Lambda 関数バージョンのエイリアスを作成します。エイリアスを使用して、別のバージョンを呼び出すために更新できる関数識別子をクライアントに提供します。

エイリアスをマッピングして、2 つのバージョン間で呼び出しリクエストを分割することもできます。RoutingConfig パラメータを使用して、2 番目のバージョンとそのバージョンが受信する呼び出しリクエストの割合を指定します。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "Description": "string",
   "FunctionVersion": "string",
   "Name": "string",
   "RoutingConfig": {
      "AdditionalVersionWeights": {
         "string" : number
      }
   }
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

Pattern: `(\$LATEST|[0-9]+)`

必須: はい

Name

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)`

必須: はい

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

タイプ: AliasRoutingConfiguration オブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
   "AliasArn": "string",
   "Description": "string",
   "FunctionVersion": "string",
   "Name": "string",
   "RevisionId": "string",
   "RoutingConfig": {
      "AdditionalVersionWeights": {
         "string" : number
      }
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AliasArn

エイリアスの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

Name

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)`

RevisionId

エイリアスを更新するときに変更される一意の識別子。

型: 文字列

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

型: AliasRoutingConfiguration オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

CreateCodeSigningConfig

コード署名の設定を作成します。コード署名の設定では、アクセス許可済みの署名プロファイルのリストと、デプロイ検証チェックが失敗した場合に実行するコード署名検証ポリシーを定義します。

リクエストの構文

```
POST /2020-04-22/code-signing-configs/ HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "AllowedPublishers": {
      "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
   },
   "CodeSigningPolicies": {
      "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
   },
   "Description": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは URI パラメータを使用しません。

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

AllowedPublishers

このコード署名の設定用署名プロファイル。

タイプ: AllowedPublishers オブジェクト

必須: はい

CodeSigningPolicies

コード署名ポリシーは、検証チェックが失敗した場合に実行するアクションを定義します。

タイプ: CodeSigningPolicies オブジェクト

必須: いいえ

Description

このコード署名の設定用の記述名。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
   "CodeSigningConfig": {
      "AllowedPublishers": {
         "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
      },
      "CodeSigningConfigArn": "string",
      "CodeSigningConfigId": "string",
      "CodeSigningPolicies": {
         "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
      },
      "Description": "string",
      "LastModified": "string"
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfig

コード署名の設定。

型: CodeSigningConfig オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

CreateEventSourceMapping

イベントソースと AWS Lambda 関数間のマッピングを作成します。Lambda は、イベントソースから項目を読み込み、関数を呼び出します。

さまざまなイベントソースの設定方法の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- Amazon DynamoDB Streams
- Amazon Kinesis
- Amazon SQS
- Amazon MQ と RabbitMQ
- Amazon MSK
- Apache Kafka
- Amazon DocumentDB

以下のエラー処理オプションは、ストリーミングソース (DynamoDB および Kinesis) でのみ使用できます。

- `BisectBatchOnFunctionError` – 関数がエラーを返す場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。
- `DestinationConfig` – 廃棄されたレコードを Amazon SQS キューまたは Amazon SNS トピックに送信します。
- `MaximumRecordAgeInSeconds` – 指定された経過期間よりも古いレコードを廃棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。
- `MaximumRetryAttempts` – 指定された再試行数の後でレコードを廃棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。
- `ParallelizationFactor` – 各シャードからの複数のバッチを同時に処理します。

各イベントソースに適用される設定パラメータについては、次のトピックを参照してください。

- Amazon DynamoDB Streams
- Amazon Kinesis
- Amazon SQS

- Amazon MQ と RabbitMQ
- Amazon MSK
- Apache Kafka
- Amazon DocumentDB

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/event-source-mappings/ HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
      "ConsumerGroupId": "string"
   },
   "BatchSize": number,
   "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "DocumentDBEventSourceConfig": {
      "CollectionName": "string",
      "DatabaseName": "string",
      "FullDocument": "string"
   },
   "Enabled": boolean,
   "EventSourceArn": "string",
   "FilterCriteria": {
      "Filters": [
         {
            "Pattern": "string"
         }
      ]
   },
   "FunctionName": "string",
   "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
   "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
```

```
    "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
    "MaximumRetryAttempts": number,
    "ParallelizationFactor": number,
    "Queues": [ "string" ],
    "ScalingConfig": {
       "MaximumConcurrency": number
    },
    "SelfManagedEventSource": {
       "Endpoints": {
          "string" : [ "string" ]
       }
    },
    "SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
       "ConsumerGroupId": "string"
    },
    "SourceAccessConfigurations": [
       {
          "Type": "string",
          "URI": "string"
       }
    ],
    "StartingPosition": "string",
    "StartingPositionTimestamp": number,
    "Topics": [ "string" ],
    "TumblingWindowInSeconds": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは URI パラメータを使用しません。

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: AmazonManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

必須: いいえ

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを単一の呼び出しで関数に渡します。

- Amazon Kinesis – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon DynamoDB Streams – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon Simple Queue Service – デフォルトで 10。標準キューの場合、最大値は 10,000 です。FIFO キューの場合、最大値は 10 です。
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka - デフォルトで 100。最大 10,000。
- セルフマネージド型の Apache Kafka – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon MQ (ActiveMQ と RabbitMQ) – デフォルトで 100。最大 10,000。
- DocumentDB – デフォルトは 100 です。最大 10,000。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

BisectBatchOnFunctionError

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。

型: ブール

必須: いいえ

DestinationConfig

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Kafka のみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: DestinationConfig オブジェクト

必須: いいえ

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: DocumentDBEventSourceConfig オブジェクト

必須: いいえ

Enabled

true の場合、イベントソースマッピングがアクティブになります。false の場合、Lambda がポーリングと呼び出しを一時停止します。

デフォルト: True

型: ブール

必須: いいえ

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

- Amazon Kinesis – データストリームまたはストリームコンシューマーの ARN。
- Amazon DynamoDB Streams – ストリームの ARN。
- Amazon Simple Queue Service – キューの ARN。
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka — クラスターの ARN または VPC 接続の ARN (クロスアカウントイベントソースマッピング用)。
- Amazon MQ – ブローカーの ARN。
- Amazon DocumentDB – DocumentDB 変更ストリームの ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

FilterCriteria

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、Lambda イベントフィルタリングを参照してください。

型: FilterCriteria オブジェクト

必須: いいえ

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – MyFunction。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- バージョンまたはエイリアス ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction:PROD。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

FunctionResponseTypes

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: ReportBatchItemFailures

必須 : いいえ

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。MaximumBatchingWindowInSeconds は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームとAmazon SQS イベントソースの場合、`BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 300 です。

必須: いいえ

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 604,800 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10 です。

必須: いいえ

Queues

(MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: [\s\S]*

必須: いいえ

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: ScalingConfig オブジェクト

必須: いいえ

SelfManagedEventSource

レコードを受信するセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: SelfManagedEventSource オブジェクト

必須: いいえ

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: SelfManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

必須: いいえ

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列またはイベントソースの保護に必要な VPC コンポーネント。

タイプ: SourceAccessConfiguration オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

必須: いいえ

StartingPosition

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

必須：いいえ

StartingPositionTimestamp

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

タイプ：タイムスタンプ

必須: いいえ

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: ^[^.]([a-zA-Z0-9\-_.]+)

必須: いいえ

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 900 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 202
Content-type: application/json

{
   "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
      "ConsumerGroupId": "string"
   },
   "BatchSize": number,
   "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "DocumentDBEventSourceConfig": {
      "CollectionName": "string",
      "DatabaseName": "string",
      "FullDocument": "string"
   },
   "EventSourceArn": "string",
   "FilterCriteria": {
      "Filters": [
         {
            "Pattern": "string"
```

```
            }
         ]
      },
      "FunctionArn": "string",
      "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
      "LastModified": number,
      "LastProcessingResult": "string",
      "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
      "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
      "MaximumRetryAttempts": number,
      "ParallelizationFactor": number,
      "Queues": [ "string" ],
      "ScalingConfig": {
         "MaximumConcurrency": number
      },
      "SelfManagedEventSource": {
         "Endpoints": {
            "string" : [ "string" ]
         }
      },
      "SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
         "ConsumerGroupId": "string"
      },
      "SourceAccessConfigurations": [
         {
            "Type": "string",
            "URI": "string"
         }
      ],
      "StartingPosition": "string",
      "StartingPositionTimestamp": number,
      "State": "string",
      "StateTransitionReason": "string",
      "Topics": [ "string" ],
      "TumblingWindowInSeconds": number,
      "UUID": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 202 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: AmazonManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを単一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

BisectBatchOnFunctionError

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は false です。

型: ブール

DestinationConfig

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: DestinationConfig オブジェクト

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: DocumentDBEventSourceConfig オブジェクト

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

FilterCriteria

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、Lambda イベントフィルタリングを参照してください。

型: FilterCriteria オブジェクト

FunctionArn

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionResponseTypes

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: `ReportBatchItemFailures`

LastModified

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

型: Timestamp

LastProcessingResult

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。MaximumBatchingWindowInSeconds は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。MaximumBatchingWindowInSeconds は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームとAmazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 300 です。

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

> **Note**
>
> 最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 604,800 です。

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限

の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 10,000 です。

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10 です。

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: ScalingConfig オブジェクト

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: SelfManagedEventSource オブジェクト

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: SelfManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: SourceAccessConfiguration オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

StartingPosition

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

StartingPositionTimestamp

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

型: Timestamp

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります: Creating、Enabling、Enabled、Disabling、Disabled、Updating、Deleting。

型: 文字列

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: ^[^.]([a-zA-Z0-9\-_.]+)

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 900 です。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

CreateFunction

Lambda 関数を作成します。関数を作成するには、デプロイパッケージと実行ロールが必要です。デプロイパッケージは、関数コードを含む .zip ファイルアーカイブまたはコンテナイメージです。実行ロールは、ログストリーミングのための Amazon CloudWatch Logs などの AWS のサービスと、リクエストトレーシングのための AWS X-Ray を使用する許可を関数に付与します。

デプロイパッケージがコンテナイメージの場合は、パッケージタイプを `Image` に設定します。コンテナイメージの場合、コードプロパティに Amazon ECR レジストリのコンテナイメージの URI を含める必要があります。ハンドラープロパティとランタイムプロパティを指定する必要はありません。

デプロイパッケージが.zip ファイルアーカイブの場合は、パッケージタイプを `Zip` に設定します。.zip ファイルアーカイブの場合、コードプロパティは .zip ファイルの場所を指定します。ハンドラープロパティとランタイムプロパティも指定する必要があります。デプロイパッケージのコードは、関数 (`x86-64` または `arm64`) のターゲット命令セットアーキテクチャと互換性を持たせる必要があります。アーキテクチャを指定しない場合、デフォルト値は `x86-64` になります。

関数を作成すると、Lambda はその関数のインスタンスとそのサポートリソースをプロビジョニングします。関数を VPC に接続する場合、このプロセスには 1 分ほどかかる場合があります。この間は、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。GetFunctionConfiguration からのレスポンスの `State`、`StateReason`、`StateReasonCode` フィールドは、関数の呼び出し準備ができていることを示します。詳細については、「Lambda 関数の状態」を参照してください。

関数には未公開バージョンがあり、公開バージョンやエイリアスを持つことができます。関数のコードと設定を更新すると、未公開バージョンが変更されます。公開バージョンは、変更不可能な関数コードと設定のスナップショットです。エイリアスは、バージョンにマップする名前付きリソースです。このリソースは、別のバージョンにマップするために変更できます。`Publish` パラメータを使用して、初期設定から関数のバージョン 1 を作成します。

その他のパラメーターを使用すると、バージョン固有の関数レベルの設定を構成できます。バージョン固有の設定は、後で UpdateFunctionConfiguration により変更できます。関数レベルの設定は、関数の未公開バージョンと公開バージョンの両方に適用され、タグ (TagResource) と関数ごとの同時実行制限 (PutFunctionConcurrency) を含みます。

デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、コード署名を使用できます。この関数のコード署名を有効にするには、コード署名構成の ARN を指定します。ユーザーが UpdateFunctionCode を使用してコードパッケージのデプロイを試みると、Lambda はそのコードパッケージに信頼できるパブリッシャーからの有効な署名があるかどうかをチェックします。code-

signing 設定には、この関数の信頼できる発行元を定義する一連の署名プロファイルが含まれています。

別の AWS アカウントまたは AWS のサービスが関数を呼び出す場合は、AddPermission を使用して、リソースベースの AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーを作成することで許可を付与します。関数レベル、バージョン、エイリアスでアクセス許可を付与できます。

関数を直接呼び出すには、Invoke を使用します。他の AWS のサービスのイベントに応答して関数を呼び出すには、イベントソースマッピング (CreateEventSourceMapping) を作成するか、他のサービスで関数トリガーを設定します。詳細については、「Lambda 関数の呼び出し」を参照してください。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "Architectures": [ "string" ],
   "Code": {
      "ImageUri": "string",
      "S3Bucket": "string",
      "S3Key": "string",
      "S3ObjectVersion": "string",
      "ZipFile": blob
   },
   "CodeSigningConfigArn": "string",
   "DeadLetterConfig": {
      "TargetArn": "string"
   },
   "Description": "string",
   "Environment": {
      "Variables": {
         "string" : "string"
      }
   },
   "EphemeralStorage": {
      "Size": number
   },
   "FileSystemConfigs": [
      {
         "Arn": "string",
```

```
            "LocalMountPath": "string"
         }
      ],
      "FunctionName": "string",
      "Handler": "string",
      "ImageConfig": {
         "Command": [ "string" ],
         "EntryPoint": [ "string" ],
         "WorkingDirectory": "string"
      },
      "KMSKeyArn": "string",
      "Layers": [ "string" ],
      "LoggingConfig": {
         "ApplicationLogLevel": "string",
         "LogFormat": "string",
         "LogGroup": "string",
         "SystemLogLevel": "string"
      },
      "MemorySize": number,
      "PackageType": "string",
      "Publish": boolean,
      "Role": "string",
      "Runtime": "string",
      "SnapStart": {
         "ApplyOn": "string"
      },
      "Tags": {
         "string" : "string"
      },
      "Timeout": number,
      "TracingConfig": {
         "Mode": "string"
      },
      "VpcConfig": {
         "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
         "SecurityGroupIds": [ "string" ],
         "SubnetIds": [ "string" ]
      }
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは URI パラメータを使用しません。

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。有効な値 (arm64 または x86_64) の 1 つを含む文字列配列を入力します。デフォルト値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

必須：いいえ

Code

関数のコード

型: FunctionCode オブジェクト

必須: はい

CodeSigningConfigArn

この関数のコード署名を有効にするには、コード署名設定の ARN を指定します。コード署名の設定には、一連の署名プロファイルが含まれており、このプロファイルにより、関数の信頼された発行元が定義されます。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

必須: いいえ

DeadLetterConfig

処理に失敗したときに Lambda が非同期イベントを送信するキューまたはトピックを指定する、デッドレターキュー設定です。詳細については、「デッドレターキュー」を参照してください。

型: DeadLetterConfig オブジェクト

必須: いいえ

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

Environment

実行中に関数コードからアクセス可能な環境変数

型: Environment オブジェクト

必須: いいえ

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

型: EphemeralStorage オブジェクト

必須: いいえ

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: FileSystemConfig オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

必須: いいえ

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。

- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Handler

関数を実行するために Lambda が呼び出すコード内のメソッドの名前です。デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ハンドラーが必要です。形式にはファイル名を含めます。ランタイムに応じて、名前空間や他の修飾子を含めることもできます。詳細については、「Lambda プログラミングモデル」を参照してください。

型: 文字列

長さの制限：最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

必須: いいえ

ImageConfig

コンテナイメージ Dockerfile の値を上書きするコンテナイメージの設定値です。

型: ImageConfig オブジェクト

必須: いいえ

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される、AWS Key Management Service (AWS KMS) カスタマーマネージドキーの ARN です。Lambda SnapStart を有効にすると、Lambda はこのキーを関数のスナップショットの暗号化にも使用します。コンテナイメージを使用して関数をデプロイする場合、Lambda はデプロイ時にこのキーを使用して関数を暗号化します。これは、Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) でコンテナイメージを保護するために使

用されるキーと同じキーではないことに注意してください。カスタマーマネージドキーを提供しない場合、Lambda はデフォルトのサービスキーを使用します。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

必須: いいえ

Layers

関数の実行環境に追加する関数レイヤーのリストです。その ARN ごとに各レイヤーを指定します (バージョンも含めます)。

型: 文字列の配列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+`

必須: いいえ

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

必須: いいえ

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量です。関数のメモリを増やすと、関数の CPU 割り当ても増えます。デフォルト値は 128 MB です。値には、1 MB の任意の倍数を指定できます。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 128 です。最大値は 10,240 です。

必須: いいえ

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは `Image` に設定し、.zip ファイルアーカイブでは `Zip` に設定します。

型: 文字列

有効な値: `Zip | Image`

必須 : いいえ

Publish

true に設定すると、作成中に関数の最初のバージョンが公開されます。

型: ブール値

必須: いいえ

Role

関数の実行ロールの Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

Pattern: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\-_/]+`

必須: はい

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21`

必須 : いいえ

SnapStart

関数の SnapStart 設定です。

型: SnapStart オブジェクト

必須: いいえ

Tags

関数に適用するタグのリスト

型: 文字列から文字列へのマッピング

必須: いいえ

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒)。デフォルト値は 3 秒です。最大許容値は 900 秒です。詳細については、「Lambda 実行環境」を参照してください。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 1 です。

必須: いいえ

TracingConfig

Mode を Active に設定し、X-Ray で着信リクエストのサブセットをサンプリングおよびトレースします。

型: TracingConfig オブジェクト

必須: いいえ

VpcConfig

VPC の AWS リソースへのネットワーク接続の場合は、VPC のセキュリティグループとサブネットのリストを指定します。関数を VPC に接続すると、関数はその VPC 経由でしかリソースとインターネットにアクセスできません。詳細については、「VPC 内のリソースにアクセスするように Lambda 関数を設定する」を参照してください。

型: VpcConfig オブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
   "Architectures": [ "string" ],
   "CodeSha256": "string",
   "CodeSize": number,
   "DeadLetterConfig": {
      "TargetArn": "string"
   },
   "Description": "string",
   "Environment": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "Variables": {
         "string" : "string"
      }
   },
   "EphemeralStorage": {
      "Size": number
   },
   "FileSystemConfigs": [
      {
         "Arn": "string",
         "LocalMountPath": "string"
      }
   ],
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionName": "string",
   "Handler": "string",
   "ImageConfigResponse": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "ImageConfig": {
         "Command": [ "string" ],
         "EntryPoint": [ "string" ],
         "WorkingDirectory": "string"
```

```
      }
   },
   "KMSKeyArn": "string",
   "LastModified": "string",
   "LastUpdateStatus": "string",
   "LastUpdateStatusReason": "string",
   "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
   "Layers": [
      {
         "Arn": "string",
         "CodeSize": number,
         "SigningJobArn": "string",
         "SigningProfileVersionArn": "string"
      }
   ],
   "LoggingConfig": {
      "ApplicationLogLevel": "string",
      "LogFormat": "string",
      "LogGroup": "string",
      "SystemLogLevel": "string"
   },
   "MasterArn": "string",
   "MemorySize": number,
   "PackageType": "string",
   "RevisionId": "string",
   "Role": "string",
   "Runtime": "string",
   "RuntimeVersionConfig": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "RuntimeVersionArn": "string"
   },
   "SigningJobArn": "string",
   "SigningProfileVersionArn": "string",
   "SnapStart": {
      "ApplyOn": "string",
      "OptimizationStatus": "string"
   },
   "State": "string",
   "StateReason": "string",
   "StateReasonCode": "string",
   "Timeout": number,
```

```
    "TracingConfig": {
       "Mode": "string"
    },
    "Version": "string",
    "VpcConfig": {
       "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
       "SecurityGroupIds": [ "string" ],
       "SubnetIds": [ "string" ],
       "VpcId": "string"
    }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値はx86_64です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

CodeSha256

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

CodeSize

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

DeadLetterConfig

関数のデッドレターキュー

型: DeadLetterConfig オブジェクト

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

Environment

関数の環境変数 AWS CloudTrail ログから除外。

型: EnvironmentResponse オブジェクト

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

型: EphemeralStorage オブジェクト

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: FileSystemConfig オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionName

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限：最大長は 128 です。

パターン: `[^\s]+`

ImageConfigResponse

関数のイメージ設定値

型: ImageConfigResponse オブジェクト

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。Lambda SnapStart を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

LastModified

関数が最後に更新された日付と時刻 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

LastUpdateStatus

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful | Failed | InProgress`

LastUpdateStatusReason

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

LastUpdateStatusReasonCode

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError`

Layers

関数のレイヤー

タイプ: Layer オブジェクトの配列

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\-_/]+

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: RuntimeVersionConfig オブジェクト

SigningJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

SnapStart

`ApplyOn` を `PublishedVersions` に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「Improving startup performance with Lambda SnapStart」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: SnapStartResponse オブジェクト

State

関数の現在の状態 状態が `Inactive` の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: `Pending | Active | Inactive | Failed`

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが `Creating` のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: `Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError`

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: TracingConfigResponse オブジェクト

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: VpcConfigResponse オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

CodeStorageExceededException

AWS アカウントが、最大合計コードサイズを超過しました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

CodeVerificationFailedException

コード署名が、署名の不一致または有効期限の検証チェックの 1 つ以上に失敗し、コード署名ポリシーが ENSORCE に設定されています。Lambda はデプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidCodeSignatureException

コード署名が整合性チェックに失敗しました。整合性チェックに失敗すると、Lambda は、コード署名ポリシーが WARN に設定されている場合でも、デプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

CreateFunctionUrlConfig

指定した設定パラメーターを使用して Lambda 関数 URL を作成します。関数 URL は、関数を呼び出すために使用する専用の HTTP エンドポイントです。

リクエストの構文

```
POST /2021-10-31/functions/FunctionName/url?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "AuthType": "string",
   "Cors": {
      "AllowCredentials": boolean,
      "AllowHeaders": [ "string" ],
      "AllowMethods": [ "string" ],
      "AllowOrigins": [ "string" ],
      "ExposeHeaders": [ "string" ],
      "MaxAge": number
   },
   "InvokeMode": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(^\$LATEST$)|((?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+))`

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、`AWS_IAM` に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に `NONE` を設定します。詳細については、「Security and auth model for Lambda function URLs」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `NONE | AWS_IAM`

必須: はい

Cors

関数 URL のための、Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 設定。

型: Cors オブジェクト

必須: いいえ

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- `BUFFERED` – これはデフォルトのオプションです。Lambda は `Invoke` API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。

- RESPONSE_STREAM — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は InvokeWithResponseStream API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「クォータ引き上げをリクエスト」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

必須：いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
   "AuthType": "string",
   "Cors": {
      "AllowCredentials": boolean,
      "AllowHeaders": [ "string" ],
      "AllowMethods": [ "string" ],
      "AllowOrigins": [ "string" ],
      "ExposeHeaders": [ "string" ],
      "MaxAge": number
   },
   "CreationTime": "string",
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionUrl": "string",
   "InvokeMode": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する

場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「Security and auth model for Lambda function URLs」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

Cors

関数 URL のための、Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 設定。

型: Cors オブジェクト

CreationTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示す関数 URL の作成時刻。

型: 文字列

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

FunctionUrl

関数の HTTP URL エンドポイント。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 40 です。最大長は 100 です。

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- BUFFERED – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。
- RESPONSE_STREAM — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は InvokeWithResponseStream API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「クォータ引き上げをリクエスト」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteAlias

Lambda 関数のエイリアスを削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases/Name HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Name

エイリアスの名前。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteCodeSigningConfig

コード署名の設定を削除します。コード署名の設定を削除できるのは、その設定がいずれの関数でも使用されていない場合のみです。

リクエストの構文

```
DELETE /2020-04-22/code-signing-configs/CodeSigningConfigArn HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteEventSourceMapping

イベントソースマッピングを削除します。マッピングの識別子は、ListEventSourceMappings の出力から取得できます。

イベントソースマッピングを削除すると、Deleting 状態になり、数秒間完全に削除されない場合があります。

リクエストの構文

```
DELETE /2015-03-31/event-source-mappings/UUID HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 202
Content-type: application/json

{
   "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
      "ConsumerGroupId": "string"
   },
   "BatchSize": number,
   "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
```

```
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "DocumentDBEventSourceConfig": {
      "CollectionName": "string",
      "DatabaseName": "string",
      "FullDocument": "string"
   },
   "EventSourceArn": "string",
   "FilterCriteria": {
      "Filters": [
         {
            "Pattern": "string"
         }
      ]
   },
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
   "LastModified": number,
   "LastProcessingResult": "string",
   "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
   "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number,
   "ParallelizationFactor": number,
   "Queues": [ "string" ],
   "ScalingConfig": {
      "MaximumConcurrency": number
   },
   "SelfManagedEventSource": {
      "Endpoints": {
         "string" : [ "string" ]
      }
   },
   "SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
      "ConsumerGroupId": "string"
   },
   "SourceAccessConfigurations": [
      {
         "Type": "string",
         "URI": "string"
      }
   ],
   "StartingPosition": "string",
```

```
    "StartingPositionTimestamp": number,
    "State": "string",
    "StateTransitionReason": "string",
    "Topics": [ "string" ],
    "TumblingWindowInSeconds": number,
    "UUID": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 202 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: AmazonManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを単一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

BisectBatchOnFunctionError

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は false です。

型: ブール

DestinationConfig

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: DestinationConfig オブジェクト

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: DocumentDBEventSourceConfig オブジェクト

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

FilterCriteria

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、Lambda イベントフィルタリングを参照してください。

型: FilterCriteria オブジェクト

FunctionArn

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionResponseTypes

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: `ReportBatchItemFailures`

LastModified

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

型: Timestamp

LastProcessingResult

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームとAmazon SQS イベントソースの場合、`BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 300 です。

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

> **Note**
>
> 最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 604,800 です。

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 10,000 です。

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10 です。

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: ScalingConfig オブジェクト

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: SelfManagedEventSource オブジェクト

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: SelfManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: SourceAccessConfiguration オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

StartingPosition

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

StartingPositionTimestamp

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

型: Timestamp

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります: `Creating`、`Enabling`、`Enabled`、`Disabling`、`Disabled`、`Updating`、`Deleting`。

型: 文字列

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: `^[^.]([a-zA-Z0-9\-_.]+)`

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 900 です。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceInUseException

オペレーションがリソースの可用性と競合しています。例えば、CREATING (作成中) 状態のイベントソースマッピングを更新しようとした、または現在 UPDATING (更新中) 状態のイベントソースマッピングを削除しようとした場合などです。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」

- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteFunction

Lambda 関数を削除します。関数の特定のバージョンを削除するには、Qualifier パラメータを使用します。それ以外の場合は、すべてのバージョンとエイリアスが削除されます。この場合、ユーザーが DeleteAlias に対する明示的な権限を持っている必要はありません。

関数を呼び出す Lambda イベントソースマッピングを削除するには、DeleteEventSourceMapping を使用します。関数を直接呼び出す AWS のサービスとリソースの場合は、最初にトリガーを設定したサービスでトリガーを削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2015-03-31/functions/FunctionName?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数またはバージョンの名前。

名前の形式

- 関数名 – my-function (名前のみ)、my-function:1 (バージョン付き)
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

Qualifier

削除するバージョンを指定します。エイリアスが参照するバージョンは削除できません。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード：400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteFunctionCodeSigningConfig

関数からコード署名設定を削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2020-06-30/functions/FunctionName/code-signing-config HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteFunctionConcurrency

関数から同時実行制限を削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2017-10-31/functions/FunctionName/concurrency HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteFunctionEventInvokeConfig

関数、バージョン、エイリアスの非同期呼び出しの設定を削除します。

非同期呼び出しのオプションを設定するには、PutFunctionEventInvokeConfig を使用します。

リクエストの構文

```
DELETE /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config?Qualifier=Qualifier
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 - `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN - `123456789012:function:my-function`

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteFunctionUrlConfig

Lambda 関数 URL を削除します。削除した関数 URL を、後で復旧することはできません。新しく作成する関数 URL には、前とは異なる URL アドレスが与えられます。

リクエストの構文

```
DELETE /2021-10-31/functions/FunctionName/url?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(^\$LATEST$)|((?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+))`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteLayerVersion

AWS Lambda レイヤーのバージョンを削除します。削除されたバージョンを表示したり、関数に追加したりすることはできません。関数の破損を避けるために、バージョンのコピーは、関数が参照しなくなるまで Lambda に残ります。

リクエストの構文

```
DELETE /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+)|[a-zA-Z0-9-_]+`

必須: はい

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

DeleteProvisionedConcurrencyConfig

関数に対してプロビジョニングされた同時実行数の設定を削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2019-09-30/functions/FunctionName/provisioned-concurrency?Qualifier=Qualifier
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetAccountSettings

AWSリージョンのアカウントの制限と使用の詳細を取得します。

リクエストの構文

```
GET /2016-08-19/account-settings/ HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは URI パラメータを使用しません。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "AccountLimit": {
      "CodeSizeUnzipped": number,
      "CodeSizeZipped": number,
      "ConcurrentExecutions": number,
      "TotalCodeSize": number,
      "UnreservedConcurrentExecutions": number
   },
   "AccountUsage": {
      "FunctionCount": number,
      "TotalCodeSize": number
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AccountLimit

同時実行性とコードストレージに関連する制限。

型: AccountLimit オブジェクト

AccountUsage

関数の数と使用中のストレージ量。

型: AccountUsage オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3

- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetAlias

Lambda 関数のエイリアスの詳細を返します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases/Name HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Name

エイリアスの名前。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "AliasArn": "string",
   "Description": "string",
   "FunctionVersion": "string",
   "Name": "string",
   "RevisionId": "string",
   "RoutingConfig": {
      "AdditionalVersionWeights": {
         "string" : number
      }
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AliasArn

エイリアスの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

Name

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)`

RevisionId

エイリアスを更新するときに変更される一意の識別子。

型: 文字列

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

型: AliasRoutingConfiguration オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード：400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetCodeSigningConfig

指定したコード署名設定に関する情報を返します。

リクエストの構文

```
GET /2020-04-22/code-signing-configs/CodeSigningConfigArn HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "CodeSigningConfig": {
      "AllowedPublishers": {
         "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
      },
      "CodeSigningConfigArn": "string",
      "CodeSigningConfigId": "string",
      "CodeSigningPolicies": {
         "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
```

```
        },
        "Description": "string",
        "LastModified": "string"
    }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfig

コード署名の設定

型: CodeSigningConfig オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetEventSourceMapping

イベントソースマッピングの詳細を返します。マッピングの識別子は、ListEventSourceMappings の出力から取得できます。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/event-source-mappings/UUID HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
      "ConsumerGroupId": "string"
   },
   "BatchSize": number,
   "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
```

```
   },
   "DocumentDBEventSourceConfig": {
      "CollectionName": "string",
      "DatabaseName": "string",
      "FullDocument": "string"
   },
   "EventSourceArn": "string",
   "FilterCriteria": {
      "Filters": [
         {
            "Pattern": "string"
         }
      ]
   },
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
   "LastModified": number,
   "LastProcessingResult": "string",
   "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
   "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number,
   "ParallelizationFactor": number,
   "Queues": [ "string" ],
   "ScalingConfig": {
      "MaximumConcurrency": number
   },
   "SelfManagedEventSource": {
      "Endpoints": {
         "string" : [ "string" ]
      }
   },
   "SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
      "ConsumerGroupId": "string"
   },
   "SourceAccessConfigurations": [
      {
         "Type": "string",
         "URI": "string"
      }
   ],
   "StartingPosition": "string",
   "StartingPositionTimestamp": number,
   "State": "string",
   "StateTransitionReason": "string",
```

```
    "Topics": [ "string" ],
    "TumblingWindowInSeconds": number,
    "UUID": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: AmazonManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを単一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

BisectBatchOnFunctionError

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は false です。

型: ブール

DestinationConfig

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: DestinationConfig オブジェクト

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: DocumentDBEventSourceConfig オブジェクト

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

FilterCriteria

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、Lambda イベントフィルタリングを参照してください。

型: FilterCriteria オブジェクト

FunctionArn

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionResponseTypes

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: `ReportBatchItemFailures`

LastModified

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

型: Timestamp

LastProcessingResult

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームとAmazon SQS イベントソースの場合、`BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 300 です。

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

> **Note**
>
> 最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 604,800 です。

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 10,000 です。

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10 です。

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: ScalingConfig オブジェクト

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: SelfManagedEventSource オブジェクト

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: SelfManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: SourceAccessConfiguration オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

StartingPosition

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

StartingPositionTimestamp

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

型: Timestamp

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります: `Creating`、`Enabling`、`Enabled`、`Disabling`、`Disabled`、`Updating`、`Deleting`。

型: 文字列

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: `^[^.]([a-zA-Z0-9\-_.]+)`

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 900 です。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetFunction

関数または関数のバージョンに関する情報を、デプロイパッケージをダウンロードするための 10 分間有効なリンクとともに返します。関数のバージョンを指定した場合は、そのバージョンに固有の詳細のみが返されます。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョンまたはエイリアスを指定して、関数の公開されたバージョンに関する詳細を取得します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Code": {
      "ImageUri": "string",
      "Location": "string",
      "RepositoryType": "string",
      "ResolvedImageUri": "string"
   },
   "Concurrency": {
      "ReservedConcurrentExecutions": number
   },
   "Configuration": {
      "Architectures": [ "string" ],
      "CodeSha256": "string",
      "CodeSize": number,
      "DeadLetterConfig": {
         "TargetArn": "string"
      },
      "Description": "string",
      "Environment": {
         "Error": {
            "ErrorCode": "string",
            "Message": "string"
         },
         "Variables": {
            "string" : "string"
         }
      },
      "EphemeralStorage": {
         "Size": number
      },
      "FileSystemConfigs": [
         {
            "Arn": "string",
            "LocalMountPath": "string"
```

```
      }
   ],
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionName": "string",
   "Handler": "string",
   "ImageConfigResponse": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "ImageConfig": {
         "Command": [ "string" ],
         "EntryPoint": [ "string" ],
         "WorkingDirectory": "string"
      }
   },
   "KMSKeyArn": "string",
   "LastModified": "string",
   "LastUpdateStatus": "string",
   "LastUpdateStatusReason": "string",
   "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
   "Layers": [
      {
         "Arn": "string",
         "CodeSize": number,
         "SigningJobArn": "string",
         "SigningProfileVersionArn": "string"
      }
   ],
   "LoggingConfig": {
      "ApplicationLogLevel": "string",
      "LogFormat": "string",
      "LogGroup": "string",
      "SystemLogLevel": "string"
   },
   "MasterArn": "string",
   "MemorySize": number,
   "PackageType": "string",
   "RevisionId": "string",
   "Role": "string",
   "Runtime": "string",
   "RuntimeVersionConfig": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
```

```
            "Message": "string"
         },
         "RuntimeVersionArn": "string"
      },
      "SigningJobArn": "string",
      "SigningProfileVersionArn": "string",
      "SnapStart": {
         "ApplyOn": "string",
         "OptimizationStatus": "string"
      },
      "State": "string",
      "StateReason": "string",
      "StateReasonCode": "string",
      "Timeout": number,
      "TracingConfig": {
         "Mode": "string"
      },
      "Version": "string",
      "VpcConfig": {
         "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
         "SecurityGroupIds": [ "string" ],
         "SubnetIds": [ "string" ],
         "VpcId": "string"
      }
   },
   "Tags": {
      "string" : "string"
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Code

関数またはバージョンのデプロイパッケージ。

型: FunctionCodeLocation オブジェクト

Concurrency

関数の予約済み同時実行。

型: Concurrency オブジェクト

Configuration

関数またはバージョンの設定。

型: FunctionConfiguration オブジェクト

Tags

関数のタグ。

型: 文字列間のマッピング

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetFunctionCodeSigningConfig

指定された関数のコード署名設定を返します。

リクエストの構文

```
GET /2020-06-30/functions/FunctionName/code-signing-config HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
```

```
Content-type: application/json

{
   "CodeSigningConfigArn": "string",
   "FunctionName": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」

- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetFunctionConcurrency

関数の予約済同時実行数の設定に関する詳細を返します。関数の同時実行数の制限を設定するには、PutFunctionConcurrency を使用します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-30/functions/FunctionName/concurrency HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json
```

```
{
   "ReservedConcurrentExecutions": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

ReservedConcurrentExecutions

関数用に予約済同時実行数。

タイプ: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetFunctionConfiguration

Lambda 関数またはバージョンのバージョン固有の設定を返します。出力には、関数のバージョン間で異なるオプションのみが含まれます。これらの設定を変更するには、UpdateFunctionConfiguration を使用します。

関数レベルの設定を含む、関数のすべての詳細を取得するには、GetFunction を使用します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/configuration?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョンまたはエイリアスを指定して、関数の公開されたバージョンに関する詳細を取得します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (|[a-zA-Z0-9$_-]+)

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Architectures": [ "string" ],
   "CodeSha256": "string",
   "CodeSize": number,
   "DeadLetterConfig": {
      "TargetArn": "string"
   },
   "Description": "string",
   "Environment": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "Variables": {
         "string" : "string"
      }
   },
   "EphemeralStorage": {
      "Size": number
   },
   "FileSystemConfigs": [
      {
         "Arn": "string",
         "LocalMountPath": "string"
      }
   ],
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionName": "string",
   "Handler": "string",
   "ImageConfigResponse": {
      "Error": {
```

```
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "ImageConfig": {
         "Command": [ "string" ],
         "EntryPoint": [ "string" ],
         "WorkingDirectory": "string"
      }
   },
   "KMSKeyArn": "string",
   "LastModified": "string",
   "LastUpdateStatus": "string",
   "LastUpdateStatusReason": "string",
   "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
   "Layers": [
      {
         "Arn": "string",
         "CodeSize": number,
         "SigningJobArn": "string",
         "SigningProfileVersionArn": "string"
      }
   ],
   "LoggingConfig": {
      "ApplicationLogLevel": "string",
      "LogFormat": "string",
      "LogGroup": "string",
      "SystemLogLevel": "string"
   },
   "MasterArn": "string",
   "MemorySize": number,
   "PackageType": "string",
   "RevisionId": "string",
   "Role": "string",
   "Runtime": "string",
   "RuntimeVersionConfig": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "RuntimeVersionArn": "string"
   },
   "SigningJobArn": "string",
   "SigningProfileVersionArn": "string",
   "SnapStart": {
```

```
      "ApplyOn": "string",
      "OptimizationStatus": "string"
   },
   "State": "string",
   "StateReason": "string",
   "StateReasonCode": "string",
   "Timeout": number,
   "TracingConfig": {
      "Mode": "string"
   },
   "Version": "string",
   "VpcConfig": {
      "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
      "SecurityGroupIds": [ "string" ],
      "SubnetIds": [ "string" ],
      "VpcId": "string"
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値はx86_64です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

CodeSha256

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

CodeSize

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

DeadLetterConfig

関数のデッドレターキュー

型: DeadLetterConfig オブジェクト

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

Environment

関数の環境変数 AWS CloudTrail ログから除外。

型: EnvironmentResponse オブジェクト

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

型: EphemeralStorage オブジェクト

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: FileSystemConfig オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionName

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限：最大長は 128 です。

パターン: `[^\s]+`

ImageConfigResponse

関数のイメージ設定値

型: ImageConfigResponse オブジェクト

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。Lambda SnapStart を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

LastModified

関数が最後に更新された日付と時刻 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

LastUpdateStatus

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful | Failed | InProgress`

LastUpdateStatusReason

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

LastUpdateStatusReasonCode

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError`

Layers

関数のレイヤー

タイプ: Layer オブジェクトの配列

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\-_/]+

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 |

dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: RuntimeVersionConfig オブジェクト

SigningJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)

SnapStart

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「Improving startup performance with Lambda SnapStart」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: SnapStartResponse オブジェクト

State

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: Pending | Active | Inactive | Failed

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが Creating のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: `Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError`

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: TracingConfigResponse オブジェクト

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: VpcConfigResponse オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」

- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetFunctionEventInvokeConfig

関数、バージョン、エイリアスの非同期呼び出しの設定を取得します。

非同期呼び出しのオプションを設定するには、PutFunctionEventInvokeConfig を使用します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 - `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN - `123456789012:function:my-function`

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "FunctionArn": "string",
   "LastModified": number,
   "MaximumEventAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

型: DestinationConfig オブジェクト

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

LastModified

設定が最後に更新された日時 (UNIX タイム秒単位)。

型: Timestamp

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 60 です。最大値は 21,600 です。

MaximumRetryAttempts

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 2 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード：400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetFunctionUrlConfig

Lambda 関数 URL の詳細を返します。

リクエストの構文

```
GET /2021-10-31/functions/FunctionName/url?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(^\$LATEST$)|((?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+))`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "AuthType": "string",
   "Cors": {
      "AllowCredentials": boolean,
      "AllowHeaders": [ "string" ],
      "AllowMethods": [ "string" ],
      "AllowOrigins": [ "string" ],
      "ExposeHeaders": [ "string" ],
      "MaxAge": number
   },
   "CreationTime": "string",
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionUrl": "string",
   "InvokeMode": "string",
   "LastModifiedTime": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「Security and auth model for Lambda function URLs」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

Cors

関数 URL のための、Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 設定。

型: Cors オブジェクト

CreationTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示す関数 URL の作成時刻。

型: 文字列

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionUrl

関数の HTTP URL エンドポイント。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 40 です。最大長は 100 です。

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- BUFFERED – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。
- RESPONSE_STREAM — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は InvokeWithResponseStream API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「クォータ引き上げをリクエスト」できます。

型: 文字列

有効な値: `BUFFERED | RESPONSE_STREAM`

LastModifiedTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示された関数の最後更新日時。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」

- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetLayerVersion

AWS Lambda レイヤーのバージョンに関する情報を、10 分間有効なレイヤーアーカイブのダウンロードリンクとともに返します。

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+)|[a-zA-Z0-9-_]+`

必須: はい

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
```

```
   "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
   "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
   "Content": {
      "CodeSha256": "string",
      "CodeSize": number,
      "Location": "string",
      "SigningJobArn": "string",
      "SigningProfileVersionArn": "string"
   },
   "CreatedDate": "string",
   "Description": "string",
   "LayerArn": "string",
   "LayerVersionArn": "string",
   "LicenseInfo": "string",
   "Version": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CompatibleArchitectures

互換性のある命令セットアーキテクチャのリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

CompatibleRuntimes

レイヤーの互換性のあるランタイム。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

Content

レイヤーバージョンの詳細。

型: LayerVersionContentOutput オブジェクト

CreatedDate

レイヤーバージョンが作成された日付 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))。

型: 文字列

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

LayerArn

レイヤーの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+

LayerVersionArn

レイヤーバージョンの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+`

LicenseInfo

レイヤーのソフトウェアライセンス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

Version

バージョン番号。

型: Long

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetLayerVersionByArn

AWS Lambda レイヤーのバージョンに関する情報を、10 分間有効なレイヤーアーカイブのダウンロードリンクとともに返します。

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers?find=LayerVersion&Arn=Arn HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

Arn

レイヤーバージョンの ARN。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
   "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
   "Content": {
      "CodeSha256": "string",
      "CodeSize": number,
      "Location": "string",
```

```
      "SigningJobArn": "string",
      "SigningProfileVersionArn": "string"
   },
   "CreatedDate": "string",
   "Description": "string",
   "LayerArn": "string",
   "LayerVersionArn": "string",
   "LicenseInfo": "string",
   "Version": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CompatibleArchitectures

互換性のある命令セットアーキテクチャのリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

CompatibleRuntimes

レイヤーの互換性のあるランタイム。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2`

| nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

Content

レイヤーバージョンの詳細。

型: LayerVersionContentOutput オブジェクト

CreatedDate

レイヤーバージョンが作成された日付 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))。

型: 文字列

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

LayerArn

レイヤーの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+

LayerVersionArn

レイヤーバージョンの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+

LicenseInfo

レイヤーのソフトウェアライセンス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

Version

バージョン番号。

型: Long

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetLayerVersionPolicy

AWS Lambda レイヤーのバージョンの許可ポリシーを返します。詳細については、「」を参照してくださいAddLayerVersionPermission

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber/policy HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+)|[a-zA-Z0-9-_]+`

必須: はい

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
```

```
    "Policy": "string",
    "RevisionId": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Policy

ポリシードキュメント。

型: 文字列

RevisionId

ポリシーの現在のリビジョンにおける一意の識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetPolicy

関数、バージョン、エイリアスのリソースベースの IAM ポリシーを返します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/policy?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

そのリソースのポリシーを取得するバージョンまたはエイリアスを指定します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Policy": "string",
   "RevisionId": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Policy

リソースベースのポリシー。

型: 文字列

RevisionId

ポリシーの現在のリビジョンにおける一意の識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード：400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetProvisionedConcurrencyConfig

関数のエイリアスまたはバージョンに対してプロビジョニングされた同時実行数の設定を取得します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-30/functions/FunctionName/provisioned-concurrency?Qualifier=Qualifier
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "AllocatedProvisionedConcurrentExecutions": number,
   "AvailableProvisionedConcurrentExecutions": number,
   "LastModified": "string",
   "RequestedProvisionedConcurrentExecutions": number,
   "Status": "string",
   "StatusReason": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AllocatedProvisionedConcurrentExecutions

割り当てられたプロビジョニング済み同時実行数。線形デプロイと Canary デプロイ時に加重エイリアスを使用するとき、関数バージョンにプロビジョニングされる同時実行の量に応じて、この値は変動します。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。

AvailableProvisionedConcurrentExecutions

使用可能なプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。

LastModified

ユーザーが最後に設定を更新した日時 (ISO 8601 形式)。

タイプ: 文字列

RequestedProvisionedConcurrentExecutions

リクエストされたプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効範囲: 最小値 は 1 です。

Status

割り当てプロセスのステータス

型: 文字列

有効な値: `IN_PROGRESS | READY | FAILED`

StatusReason

失敗した割り当ての、プロビジョニング済み同時実行を割り当てられなかった理由。

タイプ: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ProvisionedConcurrencyConfigNotFoundException

指定した設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

GetRuntimeManagementConfig

関数のバージョンに関するランタイム管理設定を取得します。ランタイム更新モードが手動の場合、これにはランタイムバージョンの ARN と、ランタイム更新モードが含まれます。ランタイム更新モードが自動または関数の更新の場合、これにはランタイム更新モードが含まれ、ARN には null が返されます。詳細については、「ランタイム更新」を参照してください。

リクエストの構文

```
GET /2021-07-20/functions/FunctionName/runtime-management-config?Qualifier=Qualifier
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

関数のバージョンを指定します。これは、$LATEST または発行済みのバージョン番号にすることができます。値が指定されていない場合は、$LATEST バージョンの設定が返されます。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "FunctionArn": "string",
   "RuntimeVersionArn": "string",
   "UpdateRuntimeOn": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

RuntimeVersionArn

関数が使用するように設定されているランタイムのARN です。ランタイム更新モードが手動の場合は ARN が返され、それ以外の場合は `null` が返されます。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 26 です。最大長は 2,048 です。

パターン: `^arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}::runtime:.+$`

UpdateRuntimeOn

関数の現在のランタイム更新モードです。

型: 文字列

有効な値: `Auto | Manual | FunctionUpdate`

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

Invoke

Lambda 関数を呼び出します。関数は、同期的に (レスポンスを待って)、または非同期的に呼び出すことが可能です。デフォルトでは、Lambda は関数を同期的に呼び出します (つまり InvocationType は RequestResponse です)。関数を非同期的に呼び出すには、InvocationType を Event に設定します。Lambda は、同期呼び出しの場合にのみ ClientContext オブジェクトを関数に渡します。

同期呼び出しの場合、エラーを含む関数レスポンスの詳細が、レスポンス本文とヘッダーに含まれます。どちらの呼び出しタイプについても、詳細は、実行ログおよびトレースに記載されています。

エラーが発生すると、関数が複数回呼び出される可能性があります。再試行の動作は、エラータイプ、クライアント、イベントソース、呼び出しタイプによって異なります。たとえば、関数を非同期に呼び出してエラーが返された場合、Lambda は関数を最大 2 回実行します。詳細については、「Lambda でのエラー処理と自動再試行」を参照してください。

非同期呼び出しの場合、Lambda はイベントを、関数に送信する前にキューに追加します。関数に、キューに対応する十分な容量がない場合、イベントが失われる可能性があります。場合によっては、エラーが発生しなくても、関数が同じイベントを複数回受信することがあります。処理されなかったイベントを保持するには、デッドレターキューで関数を設定します。

API レスポンスのステータスコードには、関数エラーは反映されません。エラーコードは、許可エラー、クォータエラー、または関数のコードと設定に関する問題など、関数の実行を妨げるエラーのためのものです。例えば、関数の実行がアカウントレベル (ConcurrentInvocationLimitExceeded) または関数レベル (ReservedFunctionConcurrentInvocationLimitExceeded) のいずれかで同時実行制限を超過する原因となる場合、Lambda は TooManyRequestsException を返します。

タイムアウトが長い関数では、同期呼び出し中、レスポンスを待っている間にクライアントが切断される場合があります。HTTP クライアント、SDK、ファイアウォール、プロキシ、またはオペレーティングシステムを構成して、タイムアウトまたはキープアライブ設定での長い接続を許可するようにしてください。

このオペレーションには lambda:InvokeFunction アクションに対するアクセス許可が必要です。クロスアカウントの呼び出しに対する許可を設定する方法の詳細については、他のアカウントに関数のアクセス権の付与を参照してください。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions/FunctionName/invocations?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
```

```
X-Amz-Invocation-Type: InvocationType
X-Amz-Log-Type: LogType
X-Amz-Client-Context: ClientContext

Payload
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

ClientContext

コンテキストオブジェクトで関数に渡される、呼び出し側クライアントに関する最大 3,583 バイトの base64 でエンコードされたデータです。Lambda は、同期呼び出しの場合にのみ `ClientContext` オブジェクトを関数に渡します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

InvocationType

次のオプションから選択します。

- `RequestResponse` (デフォルト) – 関数を同期的に呼び出します。関数がレスポンスを返すかタイムアウトするまで、接続を開いたままにします。API レスポンスには、関数レスポンスと追加データが含まれます。

- Event – 関数を非同期的に呼び出します。複数回失敗するイベントを、関数のデッドレターキューに送信します (設定されている場合)。API レスポンスには、ステータスコードのみが含まれます。
- DryRun – パラメータ値を検証し、ユーザーまたはロールが、関数を呼び出す許可を持っていることを確認します。

有効な値: Event | RequestResponse | DryRun

LogType

Tail に設定し、実行ログをレスポンスに含めます。同期的に呼び出された関数にのみ適用されます。

有効な値: None | Tail

Qualifier

バージョンまたはエイリアスを指定して、関数の公開されたバージョンを呼び出します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (|[a-zA-Z0-9$_-]+)

リクエストボディ

リクエストは以下のバイナリデータを受け入れます。

Payload

入力として Lambda 関数に提供される JSON。

JSON を直接入力できます。例えば、--payload '{ "key": "value" }' です。ファイルパスを指定することもできます。例えば、--payload file://payload.json です。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 StatusCode
X-Amz-Function-Error: FunctionError
X-Amz-Log-Result: LogResult
X-Amz-Executed-Version: ExecutedVersion
```

```
Payload
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、以下の HTTP レスポンスが返されます。

StatusCode

HTTP ステータスコードは、成功したリクエストの 200 の範囲内にあります。RequestResponse呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 200 です。Event呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 202 です。DryRun呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 204 です。

レスポンスでは、以下の HTTP ヘッダーが返されます。

ExecutedVersion

実行された関数のバージョン。エイリアスを使用して関数を呼び出すと、エイリアスが解決したバージョンが示されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

FunctionError

エラーが存在する場合、関数の実行中にエラーが発生したことを示します。エラーの詳細は、レスポンスペイロードに含まれています。

LogResult

base64 でエンコードされた、実行ログの最後の 4 KB です。

レスポンスは、HTTP 本文として以下を返します。

Payload

関数からのレスポンス、またはエラーオブジェクト。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

EC2AccessDeniedException

VPC 設定を構成するには、追加のアクセス許可が必要です。

HTTP ステータスコード: 502

EC2ThrottledException

Amazon EC2 が、Lambda 関数用に提供された実行ロールを使用した関数の初期化中に AWS Lambda をスロットルしました。

HTTP ステータスコード: 502

EC2UnexpectedException

AWS Lambda が、Lambda 関数のセットアップ中に想定外の Amazon EC2 クライアント例外を受け取りました。

HTTP ステータスコード: 502

EFSIOException

接続されているファイルシステムの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 410

EFSMountConnectivityException

Lambda 関数が、設定されたファイルシステムに対するネットワーク接続を確立できませんでした。

HTTP ステータスコード: 408

EFSMountFailureException

許可または設定の問題が原因で、Lambda 関数は設定されたファイルシステムをマウントできませんでした。

HTTP ステータスコード: 403

EFSMountTimeoutException

Lambda 関数は、設定されたファイルシステムに対するネットワーク接続を確立しましたが、マウント操作がタイムアウトしました。

HTTP ステータスコード: 408

ENILimitReachedException

ネットワークインターフェイスの制限に達したため、AWS Lambda は Lambda 関数設定の一部として指定された VPC で Elastic Network Interface を作成できませんでした。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidRequestContentException

リクエストボディを JSON として解析できませんでした。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidRuntimeException

指定されたランタイムまたはランタイムバージョンは、サポートされていません。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidSecurityGroupIDException

Lambda 関数の VPC 設定で指定されているセキュリティグループ ID が無効です。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidSubnetIDException

Lambda 関数の VPC 設定で指定されているサブネット ID が無効です。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidZipFileException

AWS Lambda がデプロイパッケージを解凍できませんでした。

HTTP ステータスコード: 502

KMSAccessDeniedException

AWS KMS アクセスが拒否されたため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。Lambda 関数の KMS アクセス許可をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSDisabledException

使用した AWS KMS keyが無効化されているため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。Lambda 関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSInvalidStateException

使用した AWS KMS keyの状態が複合化に有効なものではないため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSNotFoundException

AWS KMS keyが見つからなかったため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

RecursiveInvocationException

他の AWS リソースと再帰的なループで関数が呼び出されていることを Lambda が検出したため、関数の呼び出しを停止しました。

HTTP ステータスコード : 400

RequestTooLargeException

リクエストペイロードが `Invoke` リクエストボディの JSON 入力クォータを超過しました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 413

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ResourceNotReadyException

関数が非アクティブなため、その VPC 接続を使用できません。VPC 接続が再度確立されるのを待ち、再試行してください。

HTTP ステータスコード: 502

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

SnapStartException

`afterRestore()` ランタイムフックでエラーが発生しました。詳細については、Amazon CloudWatch Logs をチェックしてください。

HTTP ステータスコード : 400

SnapStartNotReadyException

Lambda が関数を初期化しています。関数は、関数の状態が `Active` になったときに呼び出すことができます。

HTTP ステータスコード: 409

SnapStartTimeoutException

Lambda は、タイムアウト制限内にスナップショットを復元できませんでした。

HTTP ステータスコード: 408

SubnetIPAddressLimitReachedException

1 つ、または複数の設定されたサブネットに利用可能な IP アドレスがないことから、AWS Lambda は Lambda 関数の VPC アクセスを設定できませんでした。

HTTP ステータスコード: 502

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

UnsupportedMediaTypeException

Invokeリクエストボディのコンテンツタイプが JSON ではありません。

HTTP ステータスコード: 415

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

InvokeAsync

このアクションは非推奨になりました。

> **Important**
>
> 非同期関数呼び出しの場合は、Invoke を使用します。

関数を非同期的に呼び出します。

> **Note**
>
> InvokeAsync アクションを使用する場合、X-Ray アクティブトレーシングの使用はサポートされていないことに注意してください。X-Ray アクティブトレーシングがオンになっていても、トレース ID は関数に伝播されません。

リクエストの構文

```
POST /2014-11-13/functions/FunctionName/invoke-async/ HTTP/1.1

InvokeArgs
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下のバイナリデータを受け入れます。

InvokeArgs

入力として Lambda 関数に提供される JSON。

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 Status
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、以下の HTTP レスポンスが返されます。

Status

ステータスコード。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidRequestContentException

リクエストボディを JSON として解析できませんでした。

HTTP ステータスコード：400

InvalidRuntimeException

指定されたランタイムまたはランタイムバージョンは、サポートされていません。

HTTP ステータスコード: 502

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

InvokeWithResponseStream

Lambda 関数を設定して、レスポンスペイロードをクライアントにストリーミングで返します。詳細については、「ストリームレスポンスに Lambda 関数を設定する」を参照してください。

このオペレーションには lambda:InvokeFunction アクションに対するアクセス許可が必要です。クロスアカウントの呼び出しに対する許可を設定する方法の詳細については、他のアカウントに関数のアクセス権の付与を参照してください。

リクエストの構文

```
POST /2021-11-15/functions/FunctionName/response-streaming-invocations?
Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
X-Amz-Invocation-Type: InvocationType
X-Amz-Log-Type: LogType
X-Amz-Client-Context: ClientContext

Payload
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

ClientContext

コンテキストオブジェクトで関数に渡される、呼び出し側クライアントに関する最大 3,583 バイトの base64 でエンコードされたデータです。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

InvocationType

以下のいずれかのオプションを使用します。

- `RequestResponse` (デフォルト) – 関数を同期的に呼び出します。関数がレスポンスを返すかタイムアウトするまで、接続を開いたままにします。API オペレーションレスポンスには、関数レスポンスと追加データが含まれます。
- `DryRun` – パラメータ値を検証し、IAM ユーザーまたはロールが、関数を呼び出す許可を持っていることを確認します。

有効な値: `RequestResponse | DryRun`

LogType

`Tail` に設定し、実行ログをレスポンスに含めます。同期的に呼び出された関数にのみ適用されます。

有効な値: `None | Tail`

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストは以下のバイナリデータを受け入れます。

Payload

入力として Lambda 関数に提供される JSON。

JSON を直接入力できます。例えば、`--payload '{ "key": "value" }'` です。ファイルパスを指定することもできます。例えば、`--payload file://payload.json` です。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 StatusCode
X-Amz-Executed-Version: ExecutedVersion
Content-Type: ResponseStreamContentType
Content-type: application/json

{
   "InvokeComplete": {
      "ErrorCode": "string",
      "ErrorDetails": "string",
      "LogResult": "string"
   },
   "PayloadChunk": {
      "Payload": blob
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、以下の HTTP レスポンスが返されます。

StatusCode

リクエストが成功した場合、HTTP ステータスコードは 200 の範囲内にあります。RequestResponse呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 200 です。DryRun 呼び出しタイプの場合、ステータスコードは 204 です。

レスポンスでは、以下の HTTP ヘッダーが返されます。

ExecutedVersion

実行された関数のバージョン。エイリアスを使用して関数を呼び出すと、エイリアスが解決したバージョンが示されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\$LATEST|[0-9]+)

ResponseStreamContentType

ストリームが返すデータのタイプ。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

InvokeComplete

ストリームが終了し、すべてのペイロードチャンクが返されたときに返されるオブジェクト。

型: InvokeWithResponseStreamCompleteEvent オブジェクト

PayloadChunk

ストリーミングされたレスポンスペイロードのチャンク。

型: InvokeResponseStreamUpdate オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

EC2AccessDeniedException

VPC 設定を構成するには、追加のアクセス許可が必要です。

HTTP ステータスコード: 502

EC2ThrottledException

Amazon EC2 が、Lambda 関数用に提供された実行ロールを使用した関数の初期化中に AWS Lambda をスロットルしました。

HTTP ステータスコード: 502

EC2UnexpectedException

AWS Lambda が、Lambda 関数のセットアップ中に想定外の Amazon EC2 クライアント例外を受け取りました。

HTTP ステータスコード: 502

EFSIOException

接続されているファイルシステムの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 410

EFSMountConnectivityException

Lambda 関数が、設定されたファイルシステムに対するネットワーク接続を確立できませんでした。

HTTP ステータスコード: 408

EFSMountFailureException

許可または設定の問題が原因で、Lambda 関数は設定されたファイルシステムをマウントできませんでした。

HTTP ステータスコード: 403

EFSMountTimeoutException

Lambda 関数は、設定されたファイルシステムに対するネットワーク接続を確立しましたが、マウント操作がタイムアウトしました。

HTTP ステータスコード: 408

ENILimitReachedException

ネットワークインターフェイスの制限に達したため、AWS Lambda は Lambda 関数設定の一部として指定された VPC で Elastic Network Interface を作成できませんでした。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidRequestContentException

リクエストボディを JSON として解析できませんでした。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidRuntimeException

指定されたランタイムまたはランタイムバージョンは、サポートされていません。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidSecurityGroupIDException

Lambda 関数の VPC 設定で指定されているセキュリティグループ ID が無効です。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidSubnetIDException

Lambda 関数の VPC 設定で指定されているサブネット ID が無効です。

HTTP ステータスコード: 502

InvalidZipFileException

AWS Lambda がデプロイパッケージを解凍できませんでした。

HTTP ステータスコード: 502

KMSAccessDeniedException

AWS KMS アクセスが拒否されたため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。Lambda 関数の KMS アクセス許可をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSDisabledException

使用した AWS KMS keyが無効化されているため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。Lambda 関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSInvalidStateException

使用した AWS KMS keyの状態が複合化に有効なものではないため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

KMSNotFoundException

AWS KMS keyが見つからなかったため、Lambda は環境変数を復号化できませんでした。関数の KMS キー設定をチェックしてください。

HTTP ステータスコード: 502

RecursiveInvocationException

他の AWS リソースと再帰的なループで関数が呼び出されていることを Lambda が検出したため、関数の呼び出しを停止しました。

HTTP ステータスコード : 400

RequestTooLargeException

リクエストペイロードが Invoke リクエストボディの JSON 入力クォータを超過しました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 413

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ResourceNotReadyException

関数が非アクティブなため、その VPC 接続を使用できません。VPC 接続が再度確立されるのを待ち、再試行してください。

HTTP ステータスコード: 502

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

SnapStartException

`afterRestore()` ランタイムフックでエラーが発生しました。詳細については、Amazon CloudWatch Logs をチェックしてください。

HTTP ステータスコード : 400

SnapStartNotReadyException

Lambda が関数を初期化しています。関数は、関数の状態が `Active` になったときに呼び出すことができます。

HTTP ステータスコード: 409

SnapStartTimeoutException

Lambda は、タイムアウト制限内にスナップショットを復元できませんでした。

HTTP ステータスコード: 408

SubnetIPAddressLimitReachedException

1 つ、または複数の設定されたサブネットに利用可能な IP アドレスがないことから、AWS Lambda は Lambda 関数の VPC アクセスを設定できませんでした。

HTTP ステータスコード: 502

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

UnsupportedMediaTypeException

`Invoke`リクエストボディのコンテンツタイプが JSON ではありません。

HTTP ステータスコード: 415

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」

- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListAliases

Lambda 関数のエイリアスのリストを返します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases?
FunctionVersion=FunctionVersion&Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

FunctionVersion

関数バージョンを指定して、そのバージョンを呼び出すエイリアスのみを一覧表示します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返されるエイリアス数の制限。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Aliases": [
      {
         "AliasArn": "string",
         "Description": "string",
         "FunctionVersion": "string",
         "Name": "string",
         "RevisionId": "string",
         "RoutingConfig": {
            "AdditionalVersionWeights": {
               "string" : number
            }
         }
      }
   ],
   "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Aliases

エイリアスのリスト。

タイプ: AliasConfiguration オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListCodeSigningConfigs

コード署名の設定のリストを返します。リクエストは、コールごとに最大 10,000 の設定を返します。MaxItemsパラメータを使用して、呼び出しごとに返される設定の数を減らします。

リクエストの構文

```
GET /2020-04-22/code-signing-configs/?Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返される項目の最大数。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "CodeSigningConfigs": [
      {
         "AllowedPublishers": {
            "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
         },
         "CodeSigningConfigArn": "string",
```

```
            "CodeSigningConfigId": "string",
            "CodeSigningPolicies": {
               "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
            },
            "Description": "string",
            "LastModified": "string"
         }
      ],
      "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfigs

コード署名の設定

タイプ: CodeSigningConfig オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListEventSourceMappings

イベントソースマッピングを一覧表示します。EventSourceArn を指定して、単一のイベントソースのイベントソースマッピングのみを表示します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/event-source-mappings/?
EventSourceArn=EventSourceArn&FunctionName=FunctionName&Marker=Marker&MaxItems=MaxItems
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

- Amazon Kinesis – データストリームまたはストリームコンシューマーの ARN。
- Amazon DynamoDB Streams – ストリームの ARN。
- Amazon Simple Queue Service – キューの ARN。
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka — クラスターの ARN または VPC 接続の ARN (クロスアカウントイベントソースマッピング用)。
- Amazon MQ – ブローカーの ARN。
- Amazon DocumentDB – DocumentDB 変更ストリームの ARN。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `MyFunction`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- バージョンまたはエイリアス ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction:PROD`。

- 部分的な ARN – 123456789012:function:MyFunction。

  完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

  長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

  Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

Marker

以前の呼び出しから返されたページ割りトークン。

MaxItems

返されるイベントソースマッピングの最大数。ListEventSourceMappings は、数値を高く設定しても各レスポンスで最大 100 項目しか返さないことに注意してください。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "EventSourceMappings": [
      {
         "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
            "ConsumerGroupId": "string"
         },
         "BatchSize": number,
         "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
         "DestinationConfig": {
            "OnFailure": {
               "Destination": "string"
            },
            "OnSuccess": {
               "Destination": "string"
```

```
            }
         },
         "DocumentDBEventSourceConfig": {
            "CollectionName": "string",
            "DatabaseName": "string",
            "FullDocument": "string"
         },
         "EventSourceArn": "string",
         "FilterCriteria": {
            "Filters": [
               {
                  "Pattern": "string"
               }
            ]
         },
         "FunctionArn": "string",
         "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
         "LastModified": number,
         "LastProcessingResult": "string",
         "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
         "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
         "MaximumRetryAttempts": number,
         "ParallelizationFactor": number,
         "Queues": [ "string" ],
         "ScalingConfig": {
            "MaximumConcurrency": number
         },
         "SelfManagedEventSource": {
            "Endpoints": {
               "string" : [ "string" ]
            }
         },
         "SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
            "ConsumerGroupId": "string"
         },
         "SourceAccessConfigurations": [
            {
               "Type": "string",
               "URI": "string"
            }
         ],
         "StartingPosition": "string",
         "StartingPositionTimestamp": number,
         "State": "string",
```

```
            "StateTransitionReason": "string",
            "Topics": [ "string" ],
            "TumblingWindowInSeconds": number,
            "UUID": "string"
        }
    ],
    "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

EventSourceMappings

イベントソースマッピングのリスト。

タイプ: EventSourceMappingConfiguration オブジェクトの配列

NextMarker

レスポンスにすべてのイベントソースマッピングが含まれていない場合に返されるページ割り トークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListFunctionEventInvokeConfigs

関数の非同期呼び出しの設定リストを取得します。

非同期呼び出しのオプションを設定するには、PutFunctionEventInvokeConfig を使用します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config/list?
Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `my-function`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返される設定の最大数。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "FunctionEventInvokeConfigs": [
      {
         "DestinationConfig": {
            "OnFailure": {
               "Destination": "string"
            },
            "OnSuccess": {
               "Destination": "string"
            }
         },
         "FunctionArn": "string",
         "LastModified": number,
         "MaximumEventAgeInSeconds": number,
         "MaximumRetryAttempts": number
      }
   ],
   "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

FunctionEventInvokeConfigs

設定のリスト。

タイプ: FunctionEventInvokeConfig オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」

- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListFunctions

各バージョン固有の設定とともに、Lambda 関数のリストを返します。Lambda は、呼び出しごとに最大 50 の関数を返します。

FunctionVersionをALLに設定して、未公開バージョンに加えて各関数のすべての公開バージョンを含めます。

> **Note**
>
> ListFunctions 操作は、FunctionConfiguration フィールドのサブセットを返します。関数またはバージョンに関する追加フィールド (State、StateReasonCode、StateReason、LastUpdateStatus、LastUpdateStatusReason、LastUpdat を取得するには、GetFunction を使用してください。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/?
FunctionVersion=FunctionVersion&Marker=Marker&MasterRegion=MasterRegion&MaxItems=MaxItems
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionVersion

ALLに設定して、各関数のすべての公開バージョンのエントリを含めます。

有効な値: ALL

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MasterRegion

Lambda@Edge functions の場合、マスター関数の AWS リージョン。例えば、us-east-1 は、米国東部 (バージニア北部) 内のマスター関数からレプリケートされた Lambda@Edge 関数のみ

を含めるように関数のリストをフィルタリングします。指定する場合、FunctionVersion を ALL に設定する必要があります。

パターン: ALL|[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}

MaxItems

レスポンスで返す関数の最大数。数値を高く設定しても、ListFunctions が各レスポンスで返す項目の最大数は 50 であることに注意してください。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Functions": [
      {
         "Architectures": [ "string" ],
         "CodeSha256": "string",
         "CodeSize": number,
         "DeadLetterConfig": {
            "TargetArn": "string"
         },
         "Description": "string",
         "Environment": {
            "Error": {
               "ErrorCode": "string",
               "Message": "string"
            },
            "Variables": {
               "string" : "string"
            }
         },
         "EphemeralStorage": {
            "Size": number
         },
```

```
   "FileSystemConfigs": [
      {
         "Arn": "string",
         "LocalMountPath": "string"
      }
   ],
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionName": "string",
   "Handler": "string",
   "ImageConfigResponse": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "ImageConfig": {
         "Command": [ "string" ],
         "EntryPoint": [ "string" ],
         "WorkingDirectory": "string"
      }
   },
   "KMSKeyArn": "string",
   "LastModified": "string",
   "LastUpdateStatus": "string",
   "LastUpdateStatusReason": "string",
   "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
   "Layers": [
      {
         "Arn": "string",
         "CodeSize": number,
         "SigningJobArn": "string",
         "SigningProfileVersionArn": "string"
      }
   ],
   "LoggingConfig": {
      "ApplicationLogLevel": "string",
      "LogFormat": "string",
      "LogGroup": "string",
      "SystemLogLevel": "string"
   },
   "MasterArn": "string",
   "MemorySize": number,
   "PackageType": "string",
   "RevisionId": "string",
   "Role": "string",
```

```
            "Runtime": "string",
            "RuntimeVersionConfig": {
               "Error": {
                  "ErrorCode": "string",
                  "Message": "string"
               },
               "RuntimeVersionArn": "string"
            },
            "SigningJobArn": "string",
            "SigningProfileVersionArn": "string",
            "SnapStart": {
               "ApplyOn": "string",
               "OptimizationStatus": "string"
            },
            "State": "string",
            "StateReason": "string",
            "StateReasonCode": "string",
            "Timeout": number,
            "TracingConfig": {
               "Mode": "string"
            },
            "Version": "string",
            "VpcConfig": {
               "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
               "SecurityGroupIds": [ "string" ],
               "SubnetIds": [ "string" ],
               "VpcId": "string"
            }
         }
      ],
      "NextMarker": "string"
   }
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Functions

Lambda 関数のリスト。

タイプ: FunctionConfiguration オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3

- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListFunctionsByCodeSigningConfig

指定されたコード署名設定を使用する関数を一覧表示します。この方法を使用して、コード署名設定を削除する前に、その設定を使用している関数がないことを確認できます。

リクエストの構文

```
GET /2020-04-22/code-signing-configs/CodeSigningConfigArn/functions?
Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返される項目の最大数。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
```

```
Content-type: application/json

{
   "FunctionArns": [ "string" ],
   "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

FunctionArns

関数の ARN。

タイプ: 文字列の配列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListFunctionUrlConfigs

指定した Lambda 関数について URL のリストを返します。

リクエストの構文

```
GET /2021-10-31/functions/FunctionName/urls?Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

レスポンスに返す関数 URL の最大数。数値を高く設定しても、`ListFunctionUrlConfigs` が各レスポンスで返す項目の最大数は 50 であることに注意してください。

有効範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "FunctionUrlConfigs": [
      {
         "AuthType": "string",
         "Cors": {
            "AllowCredentials": boolean,
            "AllowHeaders": [ "string" ],
            "AllowMethods": [ "string" ],
            "AllowOrigins": [ "string" ],
            "ExposeHeaders": [ "string" ],
            "MaxAge": number
         },
         "CreationTime": "string",
         "FunctionArn": "string",
         "FunctionUrl": "string",
         "InvokeMode": "string",
         "LastModifiedTime": "string"
      }
   ],
   "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

FunctionUrlConfigs

関数 URL の設定のリスト。

型: FunctionUrlConfig オブジェクトの配列

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」

- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListLayers

AWS Lambda レイヤーをリストし、各レイヤーの最新バージョンに関する情報を表示します。ランタイム識別子を指定して、そのランタイムと互換性があることを示すレイヤーのみを一覧表示します。互換性のあるアーキテクチャを指定して、その命令セットアーキテクチャと互換性のあるレイヤーのみを含めます。

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers?
CompatibleArchitecture=CompatibleArchitecture&CompatibleRuntime=CompatibleRuntime&Marker=Marker
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CompatibleArchitecture

互換性のある命令セットアーキテクチャです。

有効な値: x86_64 | arm64

CompatibleRuntime

ランタイム識別子。例えば、java21 です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

Marker

以前の呼び出しから返されたページ割りトークン。

MaxItems

返されるレイヤーの最大数。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Layers": [
      {
         "LatestMatchingVersion": {
            "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
            "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
            "CreatedDate": "string",
            "Description": "string",
            "LayerVersionArn": "string",
            "LicenseInfo": "string",
            "Version": number
         },
         "LayerArn": "string",
         "LayerName": "string"
      }
   ],
   "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Layers

関数レイヤーのリスト。

型: LayersListItem オブジェクトの配列

NextMarker

レスポンスにすべてのレイヤーが含まれていない場合に返されるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」

- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListLayerVersions

AWS Lambda レイヤーのバージョンをリストします。削除されたバージョンはリストされません。ランタイム識別子を指定して、そのランタイムと互換性があることを示すバージョンのみを一覧表示します。互換性のあるアーキテクチャを指定して、そのアーキテクチャと互換性のあるレイヤーバージョンのみを含めます。

リクエストの構文

```
GET /2018-10-31/layers/LayerName/versions?
CompatibleArchitecture=CompatibleArchitecture&CompatibleRuntime=CompatibleRuntime&Marker=Marker
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CompatibleArchitecture

互換性のある命令セットアーキテクチャです。

有効な値: `x86_64 | arm64`

CompatibleRuntime

ランタイム識別子。例えば、`java21` です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21`

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+)|[a-zA-Z0-9-_]+`

必須: はい

Marker

以前の呼び出しから返されたページ割りトークン。

MaxItems

返されるバージョンの最大数。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "LayerVersions": [
      {
         "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
         "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
         "CreatedDate": "string",
         "Description": "string",
         "LayerVersionArn": "string",
         "LicenseInfo": "string",
         "Version": number
      }
   ],
   "NextMarker": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

LayerVersions

バージョンのリスト。

型: LayerVersionsListItem オブジェクトの配列

NextMarker

レスポンスにすべてのバージョンが含まれていない場合に返されるページ割りトークン。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListProvisionedConcurrencyConfigs

関数に対してプロビジョニングされた同時実行数の設定のリストを取得します。

リクエストの構文

```
GET /2019-09-30/functions/FunctionName/provisioned-concurrency?
List=ALL&Marker=Marker&MaxItems=MaxItems HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返される設定の数を制限する数値を指定します。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 50 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "NextMarker": "string",
   "ProvisionedConcurrencyConfigs": [
      {
         "AllocatedProvisionedConcurrentExecutions": number,
         "AvailableProvisionedConcurrentExecutions": number,
         "FunctionArn": "string",
         "LastModified": "string",
         "RequestedProvisionedConcurrentExecutions": number,
         "Status": "string",
         "StatusReason": "string"
      }
   ]
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

ProvisionedConcurrencyConfigs

プロビジョニングされた同時実行数の設定のリスト。

タイプ: ProvisionedConcurrencyConfigListItem オブジェクトの配列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」

- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListTags

関数のタグを返します。タグはGetFunctionで表示することもできます。

リクエストの構文

```
GET /2017-03-31/tags/ARN HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

ARN

関数の Amazon リソースネーム (ARN) 注: Lambda では、エイリアスまたはバージョンへのタグの追加をサポートしていません。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Tags": {
      "string" : "string"
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Tags

関数のタグ。

型: 文字列間のマッピング

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」

- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

ListVersionsByFunction

各バージョン固有の設定とともに、バージョンのリストを返します。Lambda は、呼び出しごとに最大 50 のバージョンを返します。

リクエストの構文

```
GET /2015-03-31/functions/FunctionName/versions?Marker=Marker&MaxItems=MaxItems
 HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Marker

次のページの結果を取得する以前のリクエストによって返される、ページ割りトークンを指定します。

MaxItems

返されるバージョンの最大数。数値を大きく設定しても、`ListVersionsByFunction` が各レスポンスで返す項目は最大 50 であることに注意してください。

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "NextMarker": "string",
   "Versions": [
      {
         "Architectures": [ "string" ],
         "CodeSha256": "string",
         "CodeSize": number,
         "DeadLetterConfig": {
            "TargetArn": "string"
         },
         "Description": "string",
         "Environment": {
            "Error": {
               "ErrorCode": "string",
               "Message": "string"
            },
            "Variables": {
               "string" : "string"
            }
         },
         "EphemeralStorage": {
            "Size": number
         },
         "FileSystemConfigs": [
            {
               "Arn": "string",
               "LocalMountPath": "string"
            }
         ],
         "FunctionArn": "string",
         "FunctionName": "string",
```

```
      "Handler": "string",
      "ImageConfigResponse": {
         "Error": {
            "ErrorCode": "string",
            "Message": "string"
         },
         "ImageConfig": {
            "Command": [ "string" ],
            "EntryPoint": [ "string" ],
            "WorkingDirectory": "string"
         }
      },
      "KMSKeyArn": "string",
      "LastModified": "string",
      "LastUpdateStatus": "string",
      "LastUpdateStatusReason": "string",
      "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
      "Layers": [
         {
            "Arn": "string",
            "CodeSize": number,
            "SigningJobArn": "string",
            "SigningProfileVersionArn": "string"
         }
      ],
      "LoggingConfig": {
         "ApplicationLogLevel": "string",
         "LogFormat": "string",
         "LogGroup": "string",
         "SystemLogLevel": "string"
      },
      "MasterArn": "string",
      "MemorySize": number,
      "PackageType": "string",
      "RevisionId": "string",
      "Role": "string",
      "Runtime": "string",
      "RuntimeVersionConfig": {
         "Error": {
            "ErrorCode": "string",
            "Message": "string"
         },
         "RuntimeVersionArn": "string"
      },
```

```
            "SigningJobArn": "string",
            "SigningProfileVersionArn": "string",
            "SnapStart": {
               "ApplyOn": "string",
               "OptimizationStatus": "string"
            },
            "State": "string",
            "StateReason": "string",
            "StateReasonCode": "string",
            "Timeout": number,
            "TracingConfig": {
               "Mode": "string"
            },
            "Version": "string",
            "VpcConfig": {
               "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
               "SecurityGroupIds": [ "string" ],
               "SubnetIds": [ "string" ],
               "VpcId": "string"
            }
         }
      ]
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

NextMarker

さらに結果が利用可能な場合に含まれるページ割りトークン。

型: 文字列

Versions

Lambda 関数バージョンのリスト。

型: FunctionConfiguration オブジェクトの配列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」

- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

PublishLayerVersion

zip アーカイブからAWS Lambda レイヤーを作成します。同じレイヤー名で PublishLayerVersion を呼び出すたびに、新しいバージョンが作成されます。

関数に、CreateFunctionまたはUpdateFunctionConfigurationでレイヤーを追加します。

リクエストの構文

```
POST /2018-10-31/layers/LayerName/versions HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
   "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
   "Content": {
      "S3Bucket": "string",
      "S3Key": "string",
      "S3ObjectVersion": "string",
      "ZipFile": blob
   },
   "Description": "string",
   "LicenseInfo": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: (arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+)|[a-zA-Z0-9-_]+

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

CompatibleArchitectures

互換性のある命令セットアーキテクチャのリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

必須：いいえ

CompatibleRuntimes

互換性のある関数のランタイムのリスト。ListLayersおよびListLayerVersionsのフィルタリングに使用されます。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21`

必須：いいえ

Content

関数のレイヤーアーカイブ。

型: LayerVersionContentInput オブジェクト

必須: はい

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

LicenseInfo

レイヤーのソフトウェアライセンス。これは、次のいずれかとなります。

- SPDX ライセンス識別子。例えば、MIT です。
- インターネットでホストされているライセンスの URL。例えば、https://opensource.org/licenses/MIT です。
- ライセンスのフルテキスト。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json

{
   "CompatibleArchitectures": [ "string" ],
   "CompatibleRuntimes": [ "string" ],
   "Content": {
      "CodeSha256": "string",
      "CodeSize": number,
      "Location": "string",
      "SigningJobArn": "string",
      "SigningProfileVersionArn": "string"
   },
   "CreatedDate": "string",
   "Description": "string",
```

```
    "LayerArn": "string",
    "LayerVersionArn": "string",
    "LicenseInfo": "string",
    "Version": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CompatibleArchitectures

互換性のある命令セットアーキテクチャのリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: x86_64 | arm64

CompatibleRuntimes

レイヤーの互換性のあるランタイム。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

Content

レイヤーバージョンの詳細。

型: LayerVersionContentOutput オブジェクト

CreatedDate

レイヤーバージョンが作成された日付 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))。

型: 文字列

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

LayerArn

レイヤーの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+`

LayerVersionArn

レイヤーバージョンの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+`

LicenseInfo

レイヤーのソフトウェアライセンス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

Version

バージョン番号。

型: Long

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

CodeStorageExceededException

AWS アカウントが、最大合計コードサイズを超過しました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」

- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

PublishVersion

現在のコードおよび関数の設定からバージョンを作成します。バージョンを使用して、変更されない関数のコードおよび設定のスナップショットを作成します。

関数の設定とコードが最終バージョン以降に変更されていない場合、AWS Lambdaは、バージョンを公開しません。UpdateFunctionCodeまたはUpdateFunctionConfigurationを使用して、バージョンを公開する前に関数を更新します。

クライアントは、バージョンを直接呼び出すことも、エイリアスを使用して呼び出すこともできます。エイリアスを作成するには、CreateAlias を使用します。

リクエストの構文

```
POST /2015-03-31/functions/FunctionName/versions HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "CodeSha256": "string",
   "Description": "string",
   "RevisionId": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

CodeSha256

ハッシュ値が指定された値と一致した場合のみ、バージョンを発行します。このオプションを使用して、最終更新から関数コードが変更された場合にバージョンの発行を回避します。UpdateFunctionCodeの出力からアップロードしたバージョンのハッシュを取得できます。

型: 文字列

必須: いいえ

Description

関数設定の説明を上書きするバージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、関数を更新します。このオプションを使用して、最終更新から関数の設定が変更された場合に、バージョンの公開を回避します。

型: 文字列

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 201
Content-type: application/json
```

```
{
   "Architectures": [ "string" ],
   "CodeSha256": "string",
   "CodeSize": number,
   "DeadLetterConfig": {
      "TargetArn": "string"
   },
   "Description": "string",
   "Environment": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "Variables": {
         "string" : "string"
      }
   },
   "EphemeralStorage": {
      "Size": number
   },
   "FileSystemConfigs": [
      {
         "Arn": "string",
         "LocalMountPath": "string"
      }
   ],
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionName": "string",
   "Handler": "string",
   "ImageConfigResponse": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "ImageConfig": {
         "Command": [ "string" ],
         "EntryPoint": [ "string" ],
         "WorkingDirectory": "string"
      }
   },
   "KMSKeyArn": "string",
   "LastModified": "string",
   "LastUpdateStatus": "string",
   "LastUpdateStatusReason": "string",
```

```
   "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
   "Layers": [
      {
         "Arn": "string",
         "CodeSize": number,
         "SigningJobArn": "string",
         "SigningProfileVersionArn": "string"
      }
   ],
   "LoggingConfig": {
      "ApplicationLogLevel": "string",
      "LogFormat": "string",
      "LogGroup": "string",
      "SystemLogLevel": "string"
   },
   "MasterArn": "string",
   "MemorySize": number,
   "PackageType": "string",
   "RevisionId": "string",
   "Role": "string",
   "Runtime": "string",
   "RuntimeVersionConfig": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "RuntimeVersionArn": "string"
   },
   "SigningJobArn": "string",
   "SigningProfileVersionArn": "string",
   "SnapStart": {
      "ApplyOn": "string",
      "OptimizationStatus": "string"
   },
   "State": "string",
   "StateReason": "string",
   "StateReasonCode": "string",
   "Timeout": number,
   "TracingConfig": {
      "Mode": "string"
   },
   "Version": "string",
   "VpcConfig": {
      "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
```

```
        "SecurityGroupIds": [ "string" ],
        "SubnetIds": [ "string" ],
        "VpcId": "string"
    }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 201 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値はx86_64です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

CodeSha256

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

CodeSize

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

DeadLetterConfig

関数のデッドレターキュー

型: DeadLetterConfig オブジェクト

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

Environment

関数の環境変数 AWS CloudTrail ログから除外。

型: EnvironmentResponse オブジェクト

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

型: EphemeralStorage オブジェクト

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: FileSystemConfig オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionName

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限：最大長は 128 です。

パターン: `[^\s]+`

ImageConfigResponse

関数のイメージ設定値

型: ImageConfigResponse オブジェクト

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。Lambda SnapStart を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

LastModified

関数が最後に更新された日付と時刻 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

LastUpdateStatus

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful | Failed | InProgress`

LastUpdateStatusReason

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

LastUpdateStatusReasonCode

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError`

Layers

関数のレイヤー

タイプ: Layer オブジェクトの配列

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは `Image` に設定し、.zip ファイルアーカイブでは `Zip` を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\-_/]+

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: RuntimeVersionConfig オブジェクト

SigningJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

SnapStart

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「Improving startup performance with Lambda SnapStart」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: SnapStartResponse オブジェクト

State

関数の現在の状態 状態が `Inactive` の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: `Pending | Active | Inactive | Failed`

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが `Creating` のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: `Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup |`

```
ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied
| KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError
| EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout |
InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError
```

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: TracingConfigResponse オブジェクト

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: VpcConfigResponse オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

CodeStorageExceededException

AWS アカウントが、最大合計コードサイズを超過しました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。`GetFunction` または `GetAlias` API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」

- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

PutFunctionCodeSigningConfig

関数のコード署名設定を更新します。コード署名設定への変更は、ユーザーが次にコードパッケージを関数にデプロイしようとしたときに有効になります。

リクエストの構文

```
PUT /2020-06-30/functions/FunctionName/code-signing-config HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "CodeSigningConfigArn": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

必須：はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "CodeSigningConfigArn": "string",
   "FunctionName": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

PutFunctionConcurrency

関数の同時実行数の最大値を設定して、同時実行レベルの容量を予約します。

同時実行設定は、すべての公開バージョンと未公開バージョンを含む、関数全体に適用されます。同時実行を予約すると、指定された数のイベントを同時に処理できる容量が関数に確保され、そのレベルを超えるスケーリングができなくなります。GetFunctionを使用して、関数の現在の設定を表示します。

GetAccountSettingsを使用して、リージョンの同時実行制限を表示します。関数ごとの制限が設定されていない関数に対して、100 以上の同時実行が予約されていない限り、任意の数の関数に対する同時実行を予約できます。詳細については、「Lambda 関数のスケーリング」を参照してください。

リクエストの構文

```
PUT /2017-10-31/functions/FunctionName/concurrency HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "ReservedConcurrentExecutions": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

ReservedConcurrentExecutions

関数用に予約する同時実行数。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "ReservedConcurrentExecutions": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

ReservedConcurrentExecutions

この関数用に予約済同時実行数。詳細については、「Lambda 予約済み同時実行数の管理」を参照してください。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」

- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

PutFunctionEventInvokeConfig

関数、バージョン、エイリアスで非同期呼び出しのオプションを設定します。関数、バージョン、エイリアスの設定が既に存在する場合は、このオペレーションによって設定が上書きされます。設定を除外すると、それらの設定は削除されます。他のオプションの既存の設定に影響を与えずに 1 つのオプションを設定するには、UpdateFunctionEventInvokeConfig を使用します。

デフォルトでは、関数がエラーを返した場合、Lambda は非同期呼び出しを 2 回再試行します。イベントは最大 6 時間キューに保持されます。イベントがすべての処理に失敗した場合、または非同期呼び出しキューに長時間残っている場合、Lambda はそれを破棄します。廃棄されたイベントを保持するには、UpdateFunctionConfiguration を使用してデッドレターキューを設定します。

呼び出しレコードをキュー、トピック、関数、イベントバスに送信するには、送信先を指定します。成功した呼び出し (on-success) とすべての処理試行に失敗したイベント (on-failure) に別々の送信先を設定できます。デッドレターキューに加えて、またはデッドレターキューの代わりに送信先を設定できます。

リクエストの構文

```
PUT /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "MaximumEventAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 - `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN - `123456789012:function:my-function`

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

タイプ: DestinationConfig オブジェクト

必須: いいえ

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 60 です。最大値は 21,600 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 2 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "FunctionArn": "string",
   "LastModified": number,
   "MaximumEventAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

型: DestinationConfig オブジェクト

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

LastModified

設定が最後に更新された日時 (UNIX タイム秒単位)。

型: Timestamp

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 60 です。最大値は 21,600 です。

MaximumRetryAttempts

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 2 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

PutProvisionedConcurrencyConfig

プロビジョニングされた同時実行数の設定を関数のエイリアスまたはバージョンに追加します。

リクエストの構文

```
PUT /2019-09-30/functions/FunctionName/provisioned-concurrency?Qualifier=Qualifier
 HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "ProvisionedConcurrentExecutions": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (|[a-zA-Z0-9$_-]+)

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

ProvisionedConcurrentExecutions

バージョンまたはエイリアスに割り当てるプロビジョニングされた同時実行数。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 202
Content-type: application/json

{
   "AllocatedProvisionedConcurrentExecutions": number,
   "AvailableProvisionedConcurrentExecutions": number,
   "LastModified": "string",
   "RequestedProvisionedConcurrentExecutions": number,
   "Status": "string",
   "StatusReason": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 202 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AllocatedProvisionedConcurrentExecutions

割り当てられたプロビジョニング済み同時実行数。線形デプロイと Canary デプロイ時に加重エイリアスを使用するとき、関数バージョンにプロビジョニングされる同時実行の量に応じて、この値は変動します。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。

AvailableProvisionedConcurrentExecutions

使用可能なプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。

LastModified

ユーザーが最後に設定を更新した日時 (ISO 8601 形式)。

タイプ: 文字列

RequestedProvisionedConcurrentExecutions

リクエストされたプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効範囲: 最小値 は 1 です。

Status

割り当てプロセスのステータス

型: 文字列

有効な値: `IN_PROGRESS | READY | FAILED`

StatusReason

失敗した割り当ての、プロビジョニング済み同時実行を割り当てられなかった理由。

タイプ: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」

- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

PutRuntimeManagementConfig

関数のバージョンのランタイム管理設定を実行します。詳細については、「ランタイム更新」を参照してください。

リクエストの構文

```
PUT /2021-07-20/functions/FunctionName/runtime-management-config?Qualifier=Qualifier
 HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "RuntimeVersionArn": "string",
   "UpdateRuntimeOn": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

関数のバージョンを指定します。これは、$LATEST または発行済みのバージョン番号にすることができます。値が指定されていない場合は、$LATEST バージョンの設定が返されます。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: (|[a-zA-Z0-9$_-]+)

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

RuntimeVersionArn

関数に使用させるランタイムバージョンの ARN です。

> **Note**
> これが必要となるのは、手動のランタイム更新モードを使用している場合のみです。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 26 です。最大長は 2,048 です。

パターン: `^arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}::runtime:.+$`

必須: いいえ

UpdateRuntimeOn

ランタイム更新モードを指定します。

- 自動 (デフォルト) – 2 フェーズのランタイムバージョンロールアウトを使用して、最新のセキュアなランタイムバージョンに自動的に更新します。ランタイム更新のメリットを常に得るためにも、これは大半のお客様にとって最良のオプションです。
- 関数の更新 – 関数が更新されると、Lambda が関数のランタイムを最新のセキュアなランタイムバージョンに更新します。このアプローチは、ランタイム更新を関数デプロイと同期させることから、ランタイム更新が適用されるタイミングを制御することができるとともに、まれに

発生するランタイム更新の非互換性を早期に検出して緩和することが可能になります。この設定を使用するときは、関数を定期的に更新して、それらのランタイムを最新の状態に保つ必要があります。

- 手動 – 関数設定でランタイムバージョンを指定します。関数は、このランタイムバージョンを恒久的に使用します。このアプローチでは、新しいランタイムバージョンに既存の関数との互換性がないというまれな状況でも、関数を以前のランタイムバージョンにロールバックすることができます。詳細については、「ランタイムバージョンをロールバックする」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `Auto | Manual | FunctionUpdate`

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "FunctionArn": "string",
   "RuntimeVersionArn": "string",
   "UpdateRuntimeOn": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

FunctionArn

関数の ARN です。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

RuntimeVersionArn

関数が使用するように設定されているランタイムのARN です。ランタイム更新モードが手動の場合は ARN が返され、それ以外の場合は null が返されます。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 26 です。最大長は 2,048 です。

パターン: `^arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}::runtime:.+$`

UpdateRuntimeOn

ランタイム更新モードです。

型: 文字列

有効な値: `Auto | Manual | FunctionUpdate`

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

RemoveLayerVersionPermission

AWS Lambda レイヤーのバージョンの許可ポリシーからステートメントを削除します。詳細については、「AddLayerVersionPermission」を参照してください。

リクエストの構文

```
DELETE /2018-10-31/layers/LayerName/versions/VersionNumber/policy/StatementId?
RevisionId=RevisionId HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

LayerName

レイヤーの名前または Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+)|[a-zA-Z0-9-_]+`

必須: はい

RevisionId

リビジョン ID が指定した ID と一致する場合にのみ、ポリシーを更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたポリシーを変更しないようにします。

StatementId

ステートメントが追加されたときに指定された識別子。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 100 です。

Pattern: `([a-zA-Z0-9-_]+)`

必須: はい

VersionNumber

バージョン番号。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。`GetFunction` または `GetAlias` API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

RemovePermission

AWS のサービス、または別の AWS アカウントから function-use 許可を取り消します。GetPolicyの出力からステートメントの ID を取得できます。

リクエストの構文

```
DELETE /2015-03-31/functions/FunctionName/policy/StatementId?
Qualifier=Qualifier&RevisionId=RevisionId HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 – `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

関数の公開バージョンからアクセス許可を削除するには、バージョンまたはエイリアスを指定します。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、ポリシーを更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたポリシーを変更しないようにします。

StatementId

削除するアクセス許可のステートメント ID。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 100 です。

Pattern: `([a-zA-Z0-9-_.]+)`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。`GetFunction` または `GetAlias` API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

TagResource

関数にタグを追加します。

リクエストの構文

```
POST /2017-03-31/tags/ARN HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "Tags": {
      "string" : "string"
   }
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

ARN

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Tags

関数に適用するタグのリスト

型: 文字列から文字列へのマッピング

必須: はい

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

UntagResource

関数からタグを削除します。

リクエストの構文

```
DELETE /2017-03-31/tags/ARN?tagKeys=TagKeys HTTP/1.1
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

ARN

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

TagKeys

関数から削除するタグキーのリスト。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストにリクエスト本文がありません。

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 204
```

レスポンス要素

アクションが成功した場合、サービスは空の HTTP 本文を持つ HTTP 204 レスポンスを返します。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」

- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

UpdateAlias

Lambda 関数エイリアスの設定を更新します。

リクエストの構文

```
PUT /2015-03-31/functions/FunctionName/aliases/Name HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "Description": "string",
   "FunctionVersion": "string",
   "RevisionId": "string",
   "RoutingConfig": {
      "AdditionalVersionWeights": {
         "string" : number
      }
   }
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 - `MyFunction`。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction`。
- 一部の ARN - `123456789012:function:MyFunction`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Name

エイリアスの名前。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: (?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\$LATEST|[0-9]+)

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、関数を更新します。このオプションを使用して、最終読み取りから変更されたエイリアスが変更されないようにします。

型: 文字列

必須: いいえ

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

タイプ: AliasRoutingConfiguration オブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "AliasArn": "string",
   "Description": "string",
   "FunctionVersion": "string",
   "Name": "string",
   "RevisionId": "string",
   "RoutingConfig": {
      "AdditionalVersionWeights": {
         "string" : number
      }
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AliasArn

エイリアスの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

Name

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)`

RevisionId

エイリアスを更新するときに変更される一意の識別子。

型: 文字列

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

型: AliasRoutingConfiguration オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。`GetFunction` または `GetAlias` API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」

- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

UpdateCodeSigningConfig

コード署名設定を更新します。コード署名設定への変更は、ユーザーが次にコードパッケージを関数にデプロイしようとしたときに有効になります。

リクエストの構文

```
PUT /2020-04-22/code-signing-configs/CodeSigningConfigArn HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "AllowedPublishers": {
      "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
   },
   "CodeSigningPolicies": {
      "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
   },
   "Description": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

AllowedPublishers

このコード署名の設定用署名プロファイル。

タイプ: AllowedPublishers オブジェクト

必須: いいえ

CodeSigningPolicies

コード署名ポリシー。

タイプ: CodeSigningPolicies オブジェクト

必須: いいえ

Description

このコード署名の設定用の記述名。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "CodeSigningConfig": {
      "AllowedPublishers": {
         "SigningProfileVersionArns": [ "string" ]
      },
      "CodeSigningConfigArn": "string",
      "CodeSigningConfigId": "string",
      "CodeSigningPolicies": {
         "UntrustedArtifactOnDeployment": "string"
      },
      "Description": "string",
      "LastModified": "string"
   }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

CodeSigningConfig

コード署名の設定

型: CodeSigningConfig オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」

- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

UpdateEventSourceMapping

イベントソースマッピングを更新します。AWS Lambdaが呼び出す関数を変更して、または呼び出しを一時停止して、後で同じ場所から再開できます。

さまざまなイベントソースの設定方法の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- Amazon DynamoDB Streams
- Amazon Kinesis
- Amazon SQS
- Amazon MQ と RabbitMQ
- Amazon MSK
- Apache Kafka
- Amazon DocumentDB

以下のエラー処理オプションは、ストリーミングソース (DynamoDB および Kinesis) でのみ使用できます。

- `BisectBatchOnFunctionError` – 関数がエラーを返す場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。
- `DestinationConfig` – 廃棄されたレコードを Amazon SQS キューまたは Amazon SNS トピックに送信します。
- `MaximumRecordAgeInSeconds` – 指定された経過期間よりも古いレコードを廃棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。
- `MaximumRetryAttempts` – 指定された再試行数の後でレコードを廃棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。
- `ParallelizationFactor` – 各シャードからの複数のバッチを同時に処理します。

各イベントソースに適用される設定パラメータについては、次のトピックを参照してください。

- Amazon DynamoDB Streams
- Amazon Kinesis

- Amazon SQS
- Amazon MQ と RabbitMQ
- Amazon MSK
- Apache Kafka
- Amazon DocumentDB

リクエストの構文

```
PUT /2015-03-31/event-source-mappings/UUID HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "BatchSize": number,
   "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "DocumentDBEventSourceConfig": {
      "CollectionName": "string",
      "DatabaseName": "string",
      "FullDocument": "string"
   },
   "Enabled": boolean,
   "FilterCriteria": {
      "Filters": [
         {
            "Pattern": "string"
         }
      ]
   },
   "FunctionName": "string",
   "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
   "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
   "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number,
   "ParallelizationFactor": number,
```

```
   "ScalingConfig": {
      "MaximumConcurrency": number
   },
   "SourceAccessConfigurations": [
      {
         "Type": "string",
         "URI": "string"
      }
   ],
   "TumblingWindowInSeconds": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを単一の呼び出しで関数に渡します。

- Amazon Kinesis – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon DynamoDB Streams – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon Simple Queue Service – デフォルトで 10。標準キューの場合、最大値は 10,000 です。FIFO キューの場合、最大値は 10 です。
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka - デフォルトで 100。最大 10,000。
- セルフマネージド型の Apache Kafka – デフォルトで 100。最大 10,000。
- Amazon MQ (ActiveMQ と RabbitMQ) – デフォルトで 100。最大 10,000。

- DocumentDB – デフォルトは 100 です。最大 10,000。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

BisectBatchOnFunctionError

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。

型: ブール

必須: いいえ

DestinationConfig

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Kafka のみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: DestinationConfig オブジェクト

必須: いいえ

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: DocumentDBEventSourceConfig オブジェクト

必須: いいえ

Enabled

true の場合、イベントソースマッピングがアクティブになります。false の場合、Lambda がポーリングと呼び出しを一時停止します。

デフォルト: True

型: ブール

必須: いいえ

FilterCriteria

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、Lambda イベントフィルタリングを参照してください。

型: FilterCriteria オブジェクト

必須: いいえ

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – MyFunction。
- 関数 ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction。
- バージョンまたはエイリアス ARN – arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:MyFunction:PROD。
- 部分的な ARN – 123456789012:function:MyFunction。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: いいえ

FunctionResponseTypes

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: `ReportBatchItemFailures`

必須：いいえ

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームとAmazon SQS イベントソースの場合、`BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 300 です。

必須: いいえ

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 604,800 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値は無制限 (-1) です。無制限 (-1) に設定すると、失敗したレコードはレコードの有効期限が切れるまで再試行されます。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10 です。

必須: いいえ

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: ScalingConfig オブジェクト

必須: いいえ

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列またはイベントソースの保護に必要な VPC コンポーネント。

タイプ: SourceAccessConfiguration オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

必須: いいえ

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 900 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 202
Content-type: application/json

{
   "AmazonManagedKafkaEventSourceConfig": {
      "ConsumerGroupId": "string"
   },
   "BatchSize": number,
   "BisectBatchOnFunctionError": boolean,
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "DocumentDBEventSourceConfig": {
      "CollectionName": "string",
      "DatabaseName": "string",
      "FullDocument": "string"
   },
   "EventSourceArn": "string",
   "FilterCriteria": {
      "Filters": [
         {
            "Pattern": "string"
         }
      ]
   },
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionResponseTypes": [ "string" ],
   "LastModified": number,
   "LastProcessingResult": "string",
   "MaximumBatchingWindowInSeconds": number,
   "MaximumRecordAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number,
```

```
    "ParallelizationFactor": number,
    "Queues": [ "string" ],
    "ScalingConfig": {
       "MaximumConcurrency": number
    },
    "SelfManagedEventSource": {
       "Endpoints": {
          "string" : [ "string" ]
       }
    },
    "SelfManagedKafkaEventSourceConfig": {
       "ConsumerGroupId": "string"
    },
    "SourceAccessConfigurations": [
       {
          "Type": "string",
          "URI": "string"
       }
    ],
    "StartingPosition": "string",
    "StartingPositionTimestamp": number,
    "State": "string",
    "StateTransitionReason": "string",
    "Topics": [ "string" ],
    "TumblingWindowInSeconds": number,
    "UUID": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、HTTP 202 レスポンスが返されます。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: AmazonManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを単一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

BisectBatchOnFunctionError

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は false です。

型: ブール

DestinationConfig

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: DestinationConfig オブジェクト

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: DocumentDBEventSourceConfig オブジェクト

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

FilterCriteria

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、Lambda イベントフィルタリングを参照してください。

型: FilterCriteria オブジェクト

FunctionArn

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionResponseTypes

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: `ReportBatchItemFailures`

LastModified

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

型: Timestamp

LastProcessingResult

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームとAmazon SQS イベントソースの場合、`BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 300 です。

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

> **Note**
>
> 最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 604,800 です。

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 10,000 です。

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10 です。

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: ScalingConfig オブジェクト

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

型: SelfManagedEventSource オブジェクト

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: SelfManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: SourceAccessConfiguration オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

StartingPosition

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

StartingPositionTimestamp

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

型: Timestamp

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります: Creating、Enabling、Enabled、Disabling、Disabled、Updating、Deleting。

型: 文字列

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: ^[^.]([a-zA-Z0-9\-_.]+)

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 900 です。

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceInUseException

オペレーションがリソースの可用性と競合しています。例えば、CREATING (作成中) 状態のイベントソースマッピングを更新しようとした、または現在 UPDATING (更新中) 状態のイベントソースマッピングを削除しようとした場合などです。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

UpdateFunctionCode

Lambda 関数のコードを更新します。関数でコード署名が有効になっている場合、コードパッケージは信頼できる発行元によって署名されている必要があります。詳細については、「Lambda でのコード署名の設定」を参照してください。

関数のパッケージタイプが Image の場合は、ImageUri 内コードパッケージを、Amazon ECR レジストリ内コンテナイメージの URI として指定する必要があります。

関数のパッケージタイプが Zip の場合は、デプロイパッケージを .zip ファイルアーカイブとして指定する必要があります。コードの .zip ファイルロケーションの Amazon S3 バケットとキーを入力します。また、ZipFile フィールドを使用してインラインで関数コードを入力することもできます。

デプロイパッケージのコードは、関数 (x86-64 または arm64) のターゲット命令セットアーキテクチャと互換性を持たせる必要があります。

バージョンを公開すると、関数のコードがロックされます。公開バージョンのコードを変更することはできません。未公開バージョンのみです。

> **Note**
>
> コンテナイメージとして定義された関数の場合、Lambda はイメージタグをイメージダイジェストに転換します。Amazon ECR では、イメージタグを新しいイメージに更新しても、Lambda は関数を自動的に更新しません。

リクエストの構文

```
PUT /2015-03-31/functions/FunctionName/code HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "Architectures": [ "string" ],
   "DryRun": boolean,
   "ImageUri": "string",
   "Publish": boolean,
   "RevisionId": "string",
   "S3Bucket": "string",
   "S3Key": "string",
   "S3ObjectVersion": "string",
   "ZipFile": blob
```

```
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。有効な値 (arm64 または x86_64) の 1 つを含む文字列配列を入力します。デフォルト値は x86_64 です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

必須：いいえ

DryRun

関数コードを変更せずにリクエストパラメータとアクセス許可を検証するには、true に設定します。

型: ブール値

必須: いいえ

ImageUri

Amazon ECR レジストリ内のコンテナイメージの URI。.zip ファイルアーカイブで定義された関数には使用しないでください。

型: 文字列

必須: いいえ

Publish

true に設定すると、コードの更新後に関数の新しいバージョンが公開されます。これは PublishVersion を個別に呼び出すのと同じ効果があります。

型: ブール値

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、関数を更新します。このオプションを使用して最後に読み取りを行った後に変更した関数を、変更しないようにします。

型: 文字列

必須: いいえ

S3Bucket

関数と同じ AWS リージョン内にある Amazon S3 バケットです。バケットは、異なる AWS アカウント内に存在する場合があります。.zip ファイルアーカイブのデプロイパッケージで定義された関数でのみ使用します。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 3 です。最大長は 63 です。

パターン: `^[0-9A-Za-z\.\-_]*(?<!\.)$`

必須: いいえ

S3Key

デプロイパッケージの Amazon S3 キーです。.zip ファイルアーカイブのデプロイパッケージで定義された関数でのみ使用します。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

S3ObjectVersion

バージョニングオブエクトの場合、使用するデプロイパッケージオブジェクトのバージョンです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

ZipFile

デプロイパッケージの base64 エンコードコンテンツ。AWSSDK および AWS CLI クライアントがエンコーディングを処理します。.zip ファイルアーカイブのデプロイパッケージで定義された関数でのみ使用します。

型: Base64 でエンコードされたバイナリデータオブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Architectures": [ "string" ],
   "CodeSha256": "string",
   "CodeSize": number,
   "DeadLetterConfig": {
      "TargetArn": "string"
```

```
   },
   "Description": "string",
   "Environment": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "Variables": {
         "string" : "string"
      }
   },
   "EphemeralStorage": {
      "Size": number
   },
   "FileSystemConfigs": [
      {
         "Arn": "string",
         "LocalMountPath": "string"
      }
   ],
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionName": "string",
   "Handler": "string",
   "ImageConfigResponse": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "ImageConfig": {
         "Command": [ "string" ],
         "EntryPoint": [ "string" ],
         "WorkingDirectory": "string"
      }
   },
   "KMSKeyArn": "string",
   "LastModified": "string",
   "LastUpdateStatus": "string",
   "LastUpdateStatusReason": "string",
   "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
   "Layers": [
      {
         "Arn": "string",
         "CodeSize": number,
         "SigningJobArn": "string",
```

```
            "SigningProfileVersionArn": "string"
         }
      ],
      "LoggingConfig": {
         "ApplicationLogLevel": "string",
         "LogFormat": "string",
         "LogGroup": "string",
         "SystemLogLevel": "string"
      },
      "MasterArn": "string",
      "MemorySize": number,
      "PackageType": "string",
      "RevisionId": "string",
      "Role": "string",
      "Runtime": "string",
      "RuntimeVersionConfig": {
         "Error": {
            "ErrorCode": "string",
            "Message": "string"
         },
         "RuntimeVersionArn": "string"
      },
      "SigningJobArn": "string",
      "SigningProfileVersionArn": "string",
      "SnapStart": {
         "ApplyOn": "string",
         "OptimizationStatus": "string"
      },
      "State": "string",
      "StateReason": "string",
      "StateReasonCode": "string",
      "Timeout": number,
      "TracingConfig": {
         "Mode": "string"
      },
      "Version": "string",
      "VpcConfig": {
         "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
         "SecurityGroupIds": [ "string" ],
         "SubnetIds": [ "string" ],
         "VpcId": "string"
      }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値はx86_64です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

CodeSha256

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

CodeSize

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

DeadLetterConfig

関数のデッドレターキュー

型: DeadLetterConfig オブジェクト

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

Environment

関数の環境変数 AWS CloudTrail ログから除外。

型: EnvironmentResponse オブジェクト

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

型: EphemeralStorage オブジェクト

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: FileSystemConfig オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionName

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限：最大長は 128 です。

パターン: `[^\s]+`

ImageConfigResponse

関数のイメージ設定値

型: ImageConfigResponse オブジェクト

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。Lambda SnapStart を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

LastModified

関数が最後に更新された日付と時刻 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

LastUpdateStatus

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful | Failed | InProgress`

LastUpdateStatusReason

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

LastUpdateStatusReasonCode

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied |`

KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

Layers

関数のレイヤー

タイプ: Layer オブジェクトの配列

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\-_/]+`

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21`

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: RuntimeVersionConfig オブジェクト

SigningJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

SnapStart

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「Improving startup performance with Lambda SnapStart」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: SnapStartResponse オブジェクト

State

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: `Pending | Active | Inactive | Failed`

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが Creating のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: `Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError`

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: TracingConfigResponse オブジェクト

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: VpcConfigResponse オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

CodeStorageExceededException

AWS アカウントが、最大合計コードサイズを超過しました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード : 400

CodeVerificationFailedException

コード署名が、署名の不一致または有効期限の検証チェックの 1 つ以上に失敗し、コード署名ポリシーが ENSORCE に設定されています。Lambda はデプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidCodeSignatureException

コード署名が整合性チェックに失敗しました。整合性チェックに失敗すると、Lambda は、コード署名ポリシーが WARN に設定されている場合でも、デプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。`GetFunction` または `GetAlias` API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

UpdateFunctionConfiguration

Lambda 関数のバージョン固有の設定を変更します。

関数を更新すると、Lambda はその関数のインスタンスとそのサポートリソースをプロビジョニングします。関数を VPC に接続する際、このプロセスには 1 分かかることがあります。この間、関数を変更することはできませんが、呼び出すことはできます。GetFunctionConfiguration からのレスポンスの LastUpdateStatus、LastUpdateStatusReason、LastUpdateStatusReasonCode フィールドは、更新が完了し、関数が新しい設定でイベントを処理していることを示します。詳細については、「Lambda 関数の状態」を参照してください。

これらの設定は、関数のバージョン間で異なる可能性があり、バージョンを公開するとロックされます。公開バージョンの設定を変更することはできません。未公開バージョンのみです。

関数の同時実行を設定するには、PutFunctionConcurrency を使用します。AWS アカウントまたは AWS のサービスに呼び出し許可を付与するには、AddPermission を使用します。

リクエストの構文

```
PUT /2015-03-31/functions/FunctionName/configuration HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "DeadLetterConfig": {
      "TargetArn": "string"
   },
   "Description": "string",
   "Environment": {
      "Variables": {
         "string" : "string"
      }
   },
   "EphemeralStorage": {
      "Size": number
   },
   "FileSystemConfigs": [
      {
         "Arn": "string",
         "LocalMountPath": "string"
      }
   ],
   "Handler": "string",
```

```
    "ImageConfig": {
       "Command": [ "string" ],
       "EntryPoint": [ "string" ],
       "WorkingDirectory": "string"
    },
    "KMSKeyArn": "string",
    "Layers": [ "string" ],
    "LoggingConfig": {
       "ApplicationLogLevel": "string",
       "LogFormat": "string",
       "LogGroup": "string",
       "SystemLogLevel": "string"
    },
    "MemorySize": number,
    "RevisionId": "string",
    "Role": "string",
    "Runtime": "string",
    "SnapStart": {
       "ApplyOn": "string"
    },
    "Timeout": number,
    "TracingConfig": {
       "Mode": "string"
    },
    "VpcConfig": {
       "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
       "SecurityGroupIds": [ "string" ],
       "SubnetIds": [ "string" ]
    }
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。

- 部分的な ARN – 123456789012:function:my-function。

  完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

  長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

  Pattern: (arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

  必須: はい

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

DeadLetterConfig

処理に失敗したときに Lambda が非同期イベントを送信するキューまたはトピックを指定する、デッドレターキュー設定です。詳細については、「デッドレターキュー」を参照してください。

型: DeadLetterConfig オブジェクト

必須: いいえ

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

Environment

実行中に関数コードからアクセス可能な環境変数

型: Environment オブジェクト

必須: いいえ

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

型: EphemeralStorage オブジェクト

必須: いいえ

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: FileSystemConfig オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

必須: いいえ

Handler

関数を実行するために Lambda が呼び出すコード内のメソッドの名前です。デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ハンドラーが必要です。形式にはファイル名を含めます。ランタイムに応じて、名前空間や他の修飾子を含めることもできます。詳細については、「Lambda プログラミングモデル」を参照してください。

型: 文字列

長さの制限：最大長は 128 です。

パターン: [^\s]+

必須: いいえ

ImageConfig

コンテナイメージ Docker ファイル の値を上書きするコンテナイメージ設定値。

型: ImageConfig オブジェクト

必須: いいえ

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される、AWS Key Management Service (AWS KMS) カスタマーマネージドキーの ARN です。Lambda SnapStart を有効にすると、Lambda はこ

のキーを関数のスナップショットの暗号化にも使用します。コンテナイメージを使用して関数をデプロイする場合、Lambda はデプロイ時にこのキーを使用して関数を暗号化します。これは、Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) でコンテナイメージを保護するために使用されるキーと同じキーではないことに注意してください。カスタマーマネージドキーを提供しない場合、Lambda はデフォルトのサービスキーを使用します。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

必須: いいえ

Layers

関数の実行環境に追加する関数レイヤーのリストです。その ARN ごとに各レイヤーを指定します (バージョンも含めます)。

型: 文字列の配列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+`

必須: いいえ

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

必須: いいえ

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量です。関数のメモリを増やすと、関数の CPU 割り当ても増えます。デフォルト値は 128 MB です。値には、1 MB の任意の倍数を指定できます。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 128 です。最大値は 10,240 です。

必須: いいえ

RevisionId

リビジョン ID が指定された ID と一致する場合にのみ、関数を更新します。このオプションを使用して最後に読み取りを行った後に変更した関数を、変更しないようにします。

型: 文字列

必須: いいえ

Role

関数の実行ロールの Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\-_/]+`

必須: いいえ

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21`

必須 : いいえ

SnapStart

関数の SnapStart 設定です。

型: SnapStart オブジェクト

必須: いいえ

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒)。デフォルト値は 3 秒です。最大許容値は 900 秒です。詳細については、「Lambda 実行環境」を参照してください。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 1 です。

必須: いいえ

TracingConfig

Mode を Active に設定し、X-Ray で着信リクエストのサブセットをサンプリングおよびトレースします。

型: TracingConfig オブジェクト

必須: いいえ

VpcConfig

VPC の AWS リソースへのネットワーク接続の場合は、VPC のセキュリティグループとサブネットのリストを指定します。関数を VPC に接続すると、関数はその VPC 経由でしかリソースとインターネットにアクセスできません。詳細については、「VPC 内のリソースにアクセスするように Lambda 関数を設定する」を参照してください。

型: VpcConfig オブジェクト

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "Architectures": [ "string" ],
   "CodeSha256": "string",
   "CodeSize": number,
   "DeadLetterConfig": {
      "TargetArn": "string"
   },
   "Description": "string",
```

```
   "Environment": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "Variables": {
         "string" : "string"
      }
   },
   "EphemeralStorage": {
      "Size": number
   },
   "FileSystemConfigs": [
      {
         "Arn": "string",
         "LocalMountPath": "string"
      }
   ],
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionName": "string",
   "Handler": "string",
   "ImageConfigResponse": {
      "Error": {
         "ErrorCode": "string",
         "Message": "string"
      },
      "ImageConfig": {
         "Command": [ "string" ],
         "EntryPoint": [ "string" ],
         "WorkingDirectory": "string"
      }
   },
   "KMSKeyArn": "string",
   "LastModified": "string",
   "LastUpdateStatus": "string",
   "LastUpdateStatusReason": "string",
   "LastUpdateStatusReasonCode": "string",
   "Layers": [
      {
         "Arn": "string",
         "CodeSize": number,
         "SigningJobArn": "string",
         "SigningProfileVersionArn": "string"
      }
```

```
    ],
    "LoggingConfig": {
       "ApplicationLogLevel": "string",
       "LogFormat": "string",
       "LogGroup": "string",
       "SystemLogLevel": "string"
    },
    "MasterArn": "string",
    "MemorySize": number,
    "PackageType": "string",
    "RevisionId": "string",
    "Role": "string",
    "Runtime": "string",
    "RuntimeVersionConfig": {
       "Error": {
          "ErrorCode": "string",
          "Message": "string"
       },
       "RuntimeVersionArn": "string"
    },
    "SigningJobArn": "string",
    "SigningProfileVersionArn": "string",
    "SnapStart": {
       "ApplyOn": "string",
       "OptimizationStatus": "string"
    },
    "State": "string",
    "StateReason": "string",
    "StateReasonCode": "string",
    "Timeout": number,
    "TracingConfig": {
       "Mode": "string"
    },
    "Version": "string",
    "VpcConfig": {
       "Ipv6AllowedForDualStack": boolean,
       "SecurityGroupIds": [ "string" ],
       "SubnetIds": [ "string" ],
       "VpcId": "string"
    }
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値はx86_64です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

CodeSha256

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

CodeSize

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

型: Long

DeadLetterConfig

関数のデッドレターキュー

型: DeadLetterConfig オブジェクト

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

Environment

関数の環境変数 AWS CloudTrail ログから除外。

型: EnvironmentResponse オブジェクト

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

型: EphemeralStorage オブジェクト

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: FileSystemConfig オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

FunctionName

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限：最大長は 128 です。

パターン: `[^\s]+`

ImageConfigResponse

関数のイメージ設定値

型: ImageConfigResponse オブジェクト

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。Lambda SnapStart を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

LastModified

関数が最後に更新された日付と時刻 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

LastUpdateStatus

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に `Successful` に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful | Failed | InProgress`

LastUpdateStatusReason

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

LastUpdateStatusReasonCode

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied |`

KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

Layers

関数のレイヤー

タイプ: Layer オブジェクトの配列

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 128 です。最大値は 10,240 です。

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは Image に設定し、.zip ファイルアーカイブでは Zip を設定します。

型: 文字列

有効な値: Zip | Image

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\-_/]+`

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21`

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラー

型: RuntimeVersionConfig オブジェクト

SigningJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

SnapStart

ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「Improving startup performance with Lambda SnapStart」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: SnapStartResponse オブジェクト

State

関数の現在の状態 状態が Inactive の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: `Pending | Active | Inactive | Failed`

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが Creating のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: `Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError`

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 1

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: TracingConfigResponse オブジェクト

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: VpcConfigResponse オブジェクト

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

CodeSigningConfigNotFoundException

指定されたコード署名設定が存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

CodeVerificationFailedException

コード署名が、署名の不一致または有効期限の検証チェックの 1 つ以上に失敗し、コード署名ポリシーが ENSORCE に設定されています。Lambda はデプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidCodeSignatureException

コード署名が整合性チェックに失敗しました。整合性チェックに失敗すると、Lambda は、コード署名ポリシーが WARN に設定されている場合でも、デプロイをブロックします。

HTTP ステータスコード : 400

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

PreconditionFailedException

指定された RevisionId が、Lambda 関数またはエイリアスの最新 RevisionId と一致しません。`GetFunction` または `GetAlias` API 操作を呼び出して、リソースの最新の RevisionId を取得します。

HTTP ステータスコード: 412

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

UpdateFunctionEventInvokeConfig

関数、バージョン、エイリアスの非同期呼び出しの設定を更新します。

非同期呼び出しのオプションを設定するには、PutFunctionEventInvokeConfig を使用します。

リクエストの構文

```
POST /2019-09-25/functions/FunctionName/event-invoke-config?Qualifier=Qualifier
 HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "MaximumEventAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数、バージョン、またはエイリアスの名前。

名前の形式

- 関数名 - `my-function` (名前のみ)、`my-function:v1` (エイリアス付き)。
- 関数 ARN - `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN - `123456789012:function:my-function`

バージョン番号またはエイリアスを任意の形式に追加できます。完全な ARN にのみ適用される長さの制限。関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

バージョン番号またはエイリアス名。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(|[a-zA-Z0-9$_-]+)`

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

タイプ: DestinationConfig オブジェクト

必須: いいえ

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 60 です。最大値は 21,600 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 2 です。

必須: いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "DestinationConfig": {
      "OnFailure": {
         "Destination": "string"
      },
      "OnSuccess": {
         "Destination": "string"
      }
   },
   "FunctionArn": "string",
   "LastModified": number,
   "MaximumEventAgeInSeconds": number,
   "MaximumRetryAttempts": number
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

型: DestinationConfig オブジェクト

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

LastModified

設定が最後に更新された日時 (UNIX タイム秒単位)。

型: Timestamp

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 60 です。最大値は 21,600 です。

MaximumRetryAttempts

関数がエラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 2 です。

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

UpdateFunctionUrlConfig

Lambda 関数 URL の設定を更新します。

リクエストの構文

```
PUT /2021-10-31/functions/FunctionName/url?Qualifier=Qualifier HTTP/1.1
Content-type: application/json

{
   "AuthType": "string",
   "Cors": {
      "AllowCredentials": boolean,
      "AllowHeaders": [ "string" ],
      "AllowMethods": [ "string" ],
      "AllowOrigins": [ "string" ],
      "ExposeHeaders": [ "string" ],
      "MaxAge": number
   },
   "InvokeMode": "string"
}
```

URI リクエストパラメータ

リクエストでは、次の URI パラメータを使用します。

FunctionName

Lambda 関数の名前

名前の形式

- 関数名 – `my-function`。
- 関数 ARN – `arn:aws:lambda:us-west-2:123456789012:function:my-function`。
- 部分的な ARN – `123456789012:function:my-function`。

完全な ARN にのみ適用される長さの制限 関数名のみを指定する場合、64 文字の長さに制限されます。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

Pattern: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: はい

Qualifier

エイリアス名。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 128 です。

Pattern: `(^\$LATEST$)|((?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+))`

リクエストボディ

リクエストは以下の JSON 形式のデータを受け入れます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、`AWS_IAM` に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に `NONE` を設定します。詳細については、「Security and auth model for Lambda function URLs」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `NONE | AWS_IAM`

必須：いいえ

Cors

関数 URL のための、Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 設定。

型: Cors オブジェクト

必須: いいえ

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- `BUFFERED` – これはデフォルトのオプションです。Lambda は `Invoke` API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。

- RESPONSE_STREAM — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は InvokeWithResponseStream API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「クォータ引き上げをリクエスト」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

必須：いいえ

レスポンスの構文

```
HTTP/1.1 200
Content-type: application/json

{
   "AuthType": "string",
   "Cors": {
      "AllowCredentials": boolean,
      "AllowHeaders": [ "string" ],
      "AllowMethods": [ "string" ],
      "AllowOrigins": [ "string" ],
      "ExposeHeaders": [ "string" ],
      "MaxAge": number
   },
   "CreationTime": "string",
   "FunctionArn": "string",
   "FunctionUrl": "string",
   "InvokeMode": "string",
   "LastModifiedTime": "string"
}
```

レスポンス要素

アクションが成功すると、サービスは HTTP 200 レスポンスを返します。

サービスから以下のデータが JSON 形式で返されます。

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「Security and auth model for Lambda function URLs」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

Cors

関数 URL のための、Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 設定。

型: Cors オブジェクト

CreationTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示す関数 URL の作成時刻。

型: 文字列

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

FunctionUrl

関数の HTTP URL エンドポイント。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 40 です。最大長は 100 です。

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- BUFFERED – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。

- RESPONSE_STREAM — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は InvokeWithResponseStream API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「クォータ引き上げをリクエスト」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

LastModifiedTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示された関数の最後更新日時。

型: 文字列

エラー

すべてのアクションに共通のエラーについては、「共通エラー」を参照してください。

InvalidParameterValueException

リクエストに含まれているパラメータの 1 つが無効です。

HTTP ステータスコード : 400

ResourceConflictException

リソースが既に存在しているか、別のオペレーションが進行中です。

HTTP ステータスコード: 409

ResourceNotFoundException

リクエストで指定されたリソースは存在しません。

HTTP ステータスコード: 404

ServiceException

AWS Lambda サービスで内部エラーが発生しました。

HTTP ステータスコード: 500

TooManyRequestsException

リクエストスループット制限を超えました。詳細については、「Lambda クォータ」を参照してください。

HTTP ステータスコード: 429

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 「AWS コマンドラインインターフェイス」
- 「AWS SDK for .NET」
- 「AWS SDK for C++」
- 「AWS SDK for Go」
- 「AWS SDK for Java V2」
- AWS SDK for JavaScript V3
- 「AWS SDK for PHP V3」
- 「AWS SDK for Python」
- AWS SDK for Ruby V3

データ型

AWS Lambda API には、さまざまなアクションに使用される複数のデータ型が含まれています。このセクションでは、各データ型について詳しく説明します。

> **Note**
>
> データ型構造内の各要素の順序は保証されません。アプリケーションは特定の順序を想定するべきではありません。

以下のデータ型 (タイプ) がサポートされています。

- AccountLimit
- AccountUsage
- AliasConfiguration
- AliasRoutingConfiguration
- AllowedPublishers
- AmazonManagedKafkaEventSourceConfig
- CodeSigningConfig
- CodeSigningPolicies
- Concurrency
- Cors
- DeadLetterConfig
- DestinationConfig
- DocumentDBEventSourceConfig
- Environment
- EnvironmentError
- EnvironmentResponse
- EphemeralStorage
- EventSourceMappingConfiguration
- FileSystemConfig
- Filter

- FilterCriteria
- FunctionCode
- FunctionCodeLocation
- FunctionConfiguration
- FunctionEventInvokeConfig
- FunctionUrlConfig
- ImageConfig
- ImageConfigError
- ImageConfigResponse
- InvokeResponseStreamUpdate
- InvokeWithResponseStreamCompleteEvent
- InvokeWithResponseStreamResponseEvent
- Layer
- LayersListItem
- LayerVersionContentInput
- LayerVersionContentOutput
- LayerVersionsListItem
- LoggingConfig
- OnFailure
- OnSuccess
- ProvisionedConcurrencyConfigListItem
- RuntimeVersionConfig
- RuntimeVersionError
- ScalingConfig
- SelfManagedEventSource
- SelfManagedKafkaEventSourceConfig
- SnapStart
- SnapStartResponse
- SourceAccessConfiguration
- TracingConfig

- TracingConfigResponse
- VpcConfig
- VpcConfigResponse

AccountLimit

同時実行性とストレージに関連する制限。すべてのファイルとストレージのサイズはバイト単位です。

目次

CodeSizeUnzipped

関数のデプロイパッケージとレイヤーが抽出されるときの最大サイズ。

Type: Long

必須: いいえ

CodeSizeZipped

Lambda に直接アップロードされるときのデプロイパッケージの最大サイズ。サイズの大きいファイルには Amazon S3 を使用します。

Type: Long

必須: いいえ

ConcurrentExecutions

関数用に予約する最大同時実行数。

タイプ: 整数

必須: いいえ

TotalCodeSize

すべてのデプロイパッケージとレイヤーアーカイブに使用できるストレージ領域の容量。

Type: Long

必須: いいえ

UnreservedConcurrentExecutions

関数の同時実行の最大数から、PutFunctionConcurrency による個別関数用に予約された容量を差し引きます。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

AccountUsage

関数の数と使用中のストレージ量。

目次

FunctionCount

Lambda 関数の数。

Type: Long

必須: いいえ

TotalCodeSize

デプロイパッケージとレイヤーアーカイブで使用されているストレージ領域の量 (バイト単位)。

Type: Long

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

AliasConfiguration

Lambda 関数のエイリアスに関する設定情報を提供します。

目次

AliasArn

エイリアスの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

Description

エイリアスの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

FunctionVersion

エイリアスが呼び出す関数バージョン。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: `(\$LATEST|[0-9]+)`

必須: いいえ

Name

エイリアスの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 128 です。

パターン: `(?!^[0-9]+$)([a-zA-Z0-9-_]+)`

必須: いいえ

RevisionId

エイリアスを更新するときに変更される一意の識別子。

型: 文字列

必須: いいえ

RoutingConfig

エイリアスのルーティング設定。

タイプ: AliasRoutingConfiguration オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

AliasRoutingConfiguration

Lambda 関数エイリアスのトラフィック移行の設定

目次

AdditionalVersionWeights

2 番目のバージョンと、これにルーティングされたトラフィックの割合。

タイプ: ダブルマップへの文字列。

キーの長さ制限: 最小長は 1 です。最大長は 1024 です。

キーパターン: `[0-9]+`

値の範囲: 最小値 は 0.0 です。最大値は 1.0 です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

AllowedPublishers

コードパッケージに署名できる署名プロファイルのリスト。

目次

SigningProfileVersionArns

各署名プロファイルの Amazon リソースネーム (ARN)。署名プロファイルは、コードパッケージに署名できる信頼できるユーザーを定義します。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 1 項目です。最大数は 20 項目です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須：はい

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

目次

ConsumerGroupId

参加する Kafka コンシューマーグループの識別子。コンシューマーグループ ID は、すべての Kafka イベントソースの中で一意でなければなりません。コンシューマーグループ ID を指定して Kafka イベントソースマッピングを作成した後は、この値を更新することはできません。詳細については、カスタマイズ可能なコンシューマーグループ IDを参照してください。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 200 です。

パターン: `[a-zA-Z0-9-\/*:_+=.@-]*`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

CodeSigningConfig

コード署名設定の詳細。

目次

AllowedPublishers

許可されたパブリッシャーのリスト。

タイプ: AllowedPublishers オブジェクト

必須: はい

CodeSigningConfigArn

コード署名設定の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:code-signing-config:csc-[a-z0-9]{17}`

必須: はい

CodeSigningConfigId

コード署名設定の一意の識別子。

型: 文字列

Pattern: `csc-[a-zA-Z0-9-_\.]{17}`

必須: はい

CodeSigningPolicies

コード署名ポリシーは、署名の不一致または有効期限の検証失敗アクションを制御します。

タイプ: CodeSigningPolicies オブジェクト

必須: はい

LastModified

コード署名設定が最後に変更された日時 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))。

型: 文字列

必須: はい

Description

コード署名設定の説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

CodeSigningPolicies

コード署名設定ポリシーは、署名の不一致または有効期限の、検証の失敗アクションを指定します。

目次

UntrustedArtifactOnDeployment

デプロイ検証の失敗のためのコード署名構成ポリシー。ポリシーを `Enforce` に設定した場合、署名の検証チェックが失敗すると、Lambda はデプロイリクエストをブロックします。ポリシーを `Warn` に設定した場合、Lambda はデプロイを許可し、CloudWatch ログを作成します。

デフォルト値: `Warn`

型: 文字列

有効な値: `Warn | Enforce`

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

Concurrency

目次

ReservedConcurrentExecutions

この関数用に予約済同時実行数。詳細については、「Lambda 予約済み同時実行数の管理」を参照してください。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

Cors

Lambda 関数 URL のための Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 設定。関数 URL に任意のオリジンからアクセスするための権限は、CORS を使用することで付与できます。また、CORS を使用して、関数 URL へのリクエストに含まれている、特定の HTTP ヘッダーやメソッドのアクセス権限を制御することもできます。

目次

AllowCredentials

関数 URL へのリクエスト内で、Cookie やその他の認証情報を許可するかどうかを指定します。デフォルトは `false` です。

型: ブール

必須: いいえ

AllowHeaders

オリジンが関数 URL へのリクエスト内に含めることができる HTTP ヘッダー。例えば、`Date`、`Keep-Alive`、`X-Custom-Header` などが挙げられます。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 100 項目です。

長さの制限：最大長は 1,024 です。

パターン: `.*`

必須: いいえ

AllowMethods

関数 URL の呼び出し時に許可される HTTP メソッド。例として、`GET`、`POST`、`DELETE`、およびワイルドカード文字 (*) が挙げられます。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 6 項目です。

長さの制限: 最大長は 6 です。

パターン: .*

必須: いいえ

AllowOrigins

関数 URL にアクセスできるオリジン。任意の数の特定のオリジンを、カンマで区切ってリストできます。例: https://www.example.com、http://localhost:60905。

または、ワイルドカード文字 (*) を使用して、すべてのオリジンにアクセス権を付与することもできます。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 100 項目です。

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 253 です。

パターン: .*

必須: いいえ

ExposeHeaders

関数 URL を呼び出しているオリジンに公開する、関数レスポンス内の HTTP ヘッダー。例えば、Date、Keep-Alive、X-Custom-Header などが挙げられます。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 100 項目です。

長さの制限：最大長は 1,024 です。

パターン: .*

必須: いいえ

MaxAge

ウェブブラウザがプリフライトリクエストの結果をキャッシュできる最大時間 (秒単位)。この値はデフォルトで 0 に設定されており、ブラウザによる結果のキャッシュは行われません。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 86400 です。

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

DeadLetterConfig

失敗した非同期呼び出しのデッドレターキュー。

目次

TargetArn

Amazon SQS キューまたは Amazon SNS トピックの Amazon リソースネーム (ARN) です。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

DestinationConfig

Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する構成オブジェクト。

目次

OnFailure

失敗した呼び出しの送信先設定。

タイプ: OnFailure オブジェクト

必須: いいえ

OnSuccess

成功した呼び出しの送信先設定。

タイプ: OnSuccess オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

目次

CollectionName

データベース内で使用するコレクションの名前。コレクションを指定しない場合、Lambda はすべてのコレクションを使用します。

型: 文字列

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 57 です。

パターン: `(^(?!(system\x2e)))(^[_a-zA-Z0-9])([^$]*)`

必須: いいえ

DatabaseName

DocumentDB クラスター内で使用するデータベースの名前。

型: 文字列

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 63 です。

パターン: `[^ /\.$\x22]*`

必須: いいえ

FullDocument

ドキュメントの更新オペレーション中に DocumentDB がイベントストリームに送信する内容を決定します。UpdateLookup に設定すると、DocumentDB は、ドキュメント全体のコピーとともに、変更について記述するデルタを送信します。それ以外の場合、DocumentDB は、変更を含む部分的なドキュメントのみを送信します。

型: 文字列

有効な値: `UpdateLookup | Default`

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

Environment

関数の環境変数を設定。環境変数を使用すると、コードを更新せずに関数の動作を調整できます。環境変数は、関数のバージョン固有の構成に保存される文字列のペアです。

目次

Variables

各環境変数はキーと値のペア。詳細については、Using Lambda environment variables をご参照ください。

型: 文字列から文字列へのマッピング

キーパターン: `[a-zA-Z]([a-zA-Z0-9_])+`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

EnvironmentError

適用できなかった環境変数のエラーメッセージ。

目次

ErrorCode

エラーコードです。

型: 文字列

必須: いいえ

Message

エラーメッセージです。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

EnvironmentResponse

環境変数を更新または読み取る操作の結果です。操作が正常に実行された場合は、レスポンスに環境変数が含まれています。失敗した場合は、レスポンスにエラーに関する詳細情報が含まれています。

目次

Error

適用できなかった環境変数のエラーメッセージ。

タイプ: EnvironmentError オブジェクト

必須: いいえ

Variables

環境変数のキーバリューペア。AWS CloudTrail ログから除外。

型: 文字列から文字列へのマッピング

キーパターン: `[a-zA-Z]([a-zA-Z0-9_])+`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

目次

Size

関数の /tmp ディレクトリのサイズです。

型: 整数

有効範囲: 最小値 は 512 です。最大値は 10,240 です。

必須: はい

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

EventSourceMappingConfiguration

AWSリソースと Lambda 関数間のマッピング。詳細については、「CreateEventSourceMapping」を参照してください。

目次

AmazonManagedKafkaEventSourceConfig

Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK) のイベントソースに関する特定の設定です。

型: AmazonManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

必須: いいえ

BatchSize

Lambda がストリームまたはキューから取り出し、関数に送信する各バッチ内の最大レコード数。Lambda は、同期呼び出しのペイロード上限 (6 MB) まで、バッチ内のすべてのレコードを単一の呼び出しで関数に渡します。

デフォルト値: サービスによって異なります。Amazon SQS の場合、デフォルトは 10 です。他のすべてのサービスでは、デフォルトは 100 です。

関連設定: `BatchSize` を 10 より大きい値に設定する場合は、`MaximumBatchingWindowInSeconds` を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

BisectBatchOnFunctionError

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 関数がエラーを返した場合は、バッチを 2 つに分割して再試行します。デフォルト値は false です。

タイプ: ブール値

必須: いいえ

DestinationConfig

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka イベントソースのみ) Lambda がイベントを処理した後のイベントの送信先を指定する設定オブジェクト。

型: DestinationConfig オブジェクト

必須: いいえ

DocumentDBEventSourceConfig

DocumentDB イベントソースの特定の構成設定。

型: DocumentDBEventSourceConfig オブジェクト

必須: いいえ

EventSourceArn

イベントソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

FilterCriteria

Lambda がイベントを処理する必要があるかどうかを判断するフィルター条件を定義するオブジェクトです。詳細については、Lambda イベントフィルタリングを参照してください。

型: FilterCriteria オブジェクト

必須: いいえ

FunctionArn

Lambda 関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

FunctionResponseTypes

(Kinesis、DynamoDB Streams、Amazon SQS) イベントソースマッピングに適用されている現在のレスポンスタイプの列挙型のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 1 項目です。

有効な値: `ReportBatchItemFailures`

必須：いいえ

LastModified

イベントソースマッピングが最後に更新された日付、またはその状態が変更された日付 (Unix タイム秒単位)。

タイプ: タイムスタンプ

必須: いいえ

LastProcessingResult

関数の最後の Lambda 呼び出しの結果。

型: 文字列

必須: いいえ

MaximumBatchingWindowInSeconds

Lambda が関数を呼び出すまで費やすレコード収集の最大時間 (秒)。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は、秒単位で 0 秒から 300 秒までの任意の値に設定できます。

ストリームと Amazon SQS イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 0 秒に設定されます。Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka、Amazon MQ、および DocumentDB イベントソースの場合、バッチ処理ウィンドウはデフォルトで 500 ミリ秒に設定されます。`MaximumBatchingWindowInSeconds` は秒単位の増分でしか変更できないため、バッチ処理ウィンドウのデフォルト値 (500 ミリ秒) を変更すると、元に戻せなくなることに注意してください。デフォルトのバッチ処理ウィンドウを復元するには、新しいイベントソースマッピングを作成する必要があります。

関連設定: ストリームとAmazon SQS イベントソースの場合、BatchSize を 10 より大きい値に設定する場合は、MaximumBatchingWindowInSeconds を 1 以上に設定する必要があります。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 300 です。

必須: いいえ

MaximumRecordAgeInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した経過期間よりも古いレコードを破棄します。デフォルト値は -1 で、最大経過時間は無限です。値が無限に設定されている場合、Lambda が古いレコードを廃棄することはありません。

> **Note**
>
> 最大レコード保存期間の最小有効値は 60 秒です。60 未満で -1 より大きい値はパラメータの絶対範囲内ですが、指定できません。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 604,800 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 指定した再試行数の後でレコードを破棄します。デフォルト値の -1 により、最大再試行回数は無限に設定されます。MaximumRetryAttempts が無限の場合、Lambda はイベントソースでレコードの有効期限が切れるまで、失敗したレコードを再試行します。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は -1 です。最大値は 10,000 です。

必須: いいえ

ParallelizationFactor

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) 各シャードから同時に処理するバッチの数。デフォルト値は 1 です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 1 です。最大値は 10 です。

必須: いいえ

Queues

(Amazon MQ) 消費する Amazon MQ ブローカーの送信先キューの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,000 です。

パターン: `[\s\S]*`

必須: いいえ

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。詳細については、「Configuring maximum concurrency for Amazon SQS event sources」(Amazon SQS イベントソースの最大同時実行数の設定) を参照してください。

型: ScalingConfig オブジェクト

必須: いいえ

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

タイプ: SelfManagedEventSource オブジェクト

必須: いいえ

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

型: SelfManagedKafkaEventSourceConfig オブジェクト

必須: いいえ

SourceAccessConfigurations

認証プロトコルの配列、VPC コンポーネント、イベントソースを保護して定義する仮想ホスト。

タイプ: SourceAccessConfiguration オブジェクトの配列

配列メンバー: 最小数は 0 項目です。最大数は 22 項目です。

必須: いいえ

StartingPosition

読み取りを開始するストリームの場所です。Amazon Kinesis および Amazon DynamoDB Streams イベントソースに必要です。AT_TIMESTAMP は、Amazon Kinesis ストリーム、Amazon DocumentDB、Amazon MSK、およびセルフマネージド Apache Kafka でのみサポートされます。

型: 文字列

有効な値: TRIM_HORIZON | LATEST | AT_TIMESTAMP

必須：いいえ

StartingPositionTimestamp

StartingPosition が AT_TIMESTAMP に設定されている場合、読み取りを開始する時間 (Unix 時間単位) です。StartingPositionTimestamp を現在よりも先の日時に指定することはできません。

タイプ：タイムスタンプ

必須: いいえ

State

イベントソースマッピングの状態。次のうちの 1 つになる可能性があります: Creating、Enabling、Enabled、Disabling、Disabled、Updating、Deleting。

型: 文字列

必須: いいえ

StateTransitionReason

ユーザーまたは Lambda がイベントソースマッピングを最後に変更したかどうかを示します。

型: 文字列

必須: いいえ

Topics

Kafka トピックの名前。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 249 です。

パターン: `^[^.]([a-zA-Z0-9\-_.]+)`

必須: いいえ

TumblingWindowInSeconds

(Kinesis および DynamoDB Streams のみ) DynamoDB および Kinesis Streams イベントソースの処理ウィンドウの期間 (秒)。値が 0 秒である場合、タンブリングウィンドウがないことを示します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 900 です。

必須: いいえ

UUID

イベントソースマッピングの識別子。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++

- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

FileSystemConfig

Lambda 関数と Amazon EFS ファイルシステム間の接続に関する詳細。

目次

Arn

ファイルシステムへのアクセスを提供する Amazon EFS アクセスポイントの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 200 です。

パターン: `arn:aws[a-zA-Z-]*:elasticfilesystem:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:access-point/fsap-[a-f0-9]{17}`

必須: はい

LocalMountPath

関数がファイルシステムにアクセスできる `/mnt/` で始まるパス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 160 です。

パターン: `^/mnt/[a-zA-Z0-9-_.]+$`

必須 : はい

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

Filter

イベントフィルタリングパターンを定義する `FilterCriteria` オブジェクト内の構造です。

目次

Pattern

フィルターパターンです。フィルターパターンの構文に関する詳細については、「フィルタールール構文」を参照してください。

タイプ: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 4096 です。

パターン: `.*`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

FilterCriteria

イベントソース用のフィルターが含まれるオブジェクトです。

内容

Filters

フィルターのリストです。

タイプ: Filter オブジェクトの配列

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

FunctionCode

Lambda 関数のコード。Amazon S3 内のオブジェクトを指定する、.zip ファイルアーカイブデプロイパッケージを直接アップロードする、またはコンテナイメージの URI を指定することができます。

目次

ImageUri

Amazon ECR レジストリ内のコンテナイメージの URI。

型: 文字列

必須: いいえ

S3Bucket

関数と同じ AWS リージョン内にある Amazon S3 バケットです。バケットは、異なる AWS アカウント内に存在する場合があります。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 3 です。最大長は 63 です。

パターン: `^[0-9A-Za-z\.\-_]*(?<!\.)$`

必須: いいえ

S3Key

デプロイパッケージの Amazon S3 キーです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

S3ObjectVersion

バージョニングオブジェクトの場合、使用するデプロイパッケージオブジェクトのバージョンです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

ZipFile

デプロイパッケージの base64 エンコードコンテンツ。AWSSDK および AWS CLI クライアントがエンコーディングを処理します。

型: Base64 でエンコードされたバイナリデータオブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

FunctionCodeLocation

関数のデプロイパッケージに関する詳細。

目次

ImageUri

Amazon ECR レジストリ内のコンテナイメージの URI。

型: 文字列

必須: いいえ

Location

デプロイパッケージをダウンロードするために使用できる署名付き URL。

型: 文字列

必須: いいえ

RepositoryType

ファイルをホストしているサービス。

型: 文字列

必須: いいえ

ResolvedImageUri

イメージの解決された URL。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++

- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

FunctionConfiguration

関数の設定に関する詳細。

目次

Architectures

関数がサポートする命令セットアーキテクチャです。アーキテクチャは、有効な値の 1 つを含む文字列配列です。デフォルトアーキテクチャ値はx86_64です。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 定数は 1 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

必須：いいえ

CodeSha256

関数のデプロイパッケージの SHA256 ハッシュ

型: 文字列

必須: いいえ

CodeSize

関数のデプロイパッケージのサイズ (バイト単位)

Type: Long

必須: いいえ

DeadLetterConfig

関数のデッドレターキュー

型: DeadLetterConfig オブジェクト

必須: いいえ

Description

関数の説明

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

Environment

関数の環境変数 AWS CloudTrail ログから除外。

型: EnvironmentResponse オブジェクト

必須: いいえ

EphemeralStorage

関数の /tmp ディレクトリのサイズ (MB 単位) です。デフォルト値は 512 ですが、512 から 10,240 MB の範囲内で任意の整数を指定できます。詳細については、「エフェメラルストレージの設定 (コンソール)」を参照してください。

型: EphemeralStorage オブジェクト

必須: いいえ

FileSystemConfigs

Amazon EFS ファイルシステムの接続設定

型: FileSystemConfig オブジェクトの配列

配列メンバー: 最大数は 1 項目です。

必須: いいえ

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_\.]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

FunctionName

関数の名前

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 170 です。

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:)?([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:)?(\d{12}:)?(function:)?([a-zA-Z0-9-_\.]+)(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

Handler

Lambda が関数の実行を開始するために呼び出す関数です。

型: 文字列

長さの制限：最大長は 128 です。

パターン: `[^\s]+`

必須: いいえ

ImageConfigResponse

関数のイメージ設定値

型: ImageConfigResponse オブジェクト

必須: いいえ

KMSKeyArn

関数の環境変数を暗号化するために使用される AWS KMS key。Lambda SnapStart を有効にすると、このキーは関数のスナップショットの暗号化にも使用されます。このキーが返されるのは、カスタマーマネージドキーを設定している場合のみです。

型: 文字列

パターン: `(arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:[a-z0-9-.]+:.*)|()`

必須: いいえ

LastModified

関数が最後に更新された日付と時刻 (ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD))

型: 文字列

必須: いいえ

LastUpdateStatus

関数で最後に実行された更新のステータス これは、関数の作成完了後、最初に Successful に設定されます。

型: 文字列

有効な値: `Successful | Failed | InProgress`

必須 : いいえ

LastUpdateStatusReason

関数で最後に実行された更新の理由

型: 文字列

必須: いいえ

LastUpdateStatusReasonCode

関数で最後に実行された更新の理由コード

型: 文字列

有効な値: `EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError`

必須 : いいえ

Layers

関数のレイヤー

型: Layer オブジェクトの配列

必須: いいえ

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

型: LoggingConfig オブジェクト

必須: いいえ

MasterArn

Lambda@Edge 関数の場合、メイン関数の ARN。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

MemorySize

ランタイム時に関数で使用できるメモリの量

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 128 です。最大値は 10,240 です。

必須: いいえ

PackageType

デプロイパッケージのタイプ コンテナイメージでは `Image` に設定し、.zip ファイルアーカイブでは `Zip` を設定します。

型: 文字列

有効な値: `Zip | Image`

必須 : いいえ

RevisionId

関数またはエイリアスの最後に更新されたリビジョン

型: 文字列

必須: いいえ

Role

関数の実行ロール

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:iam::\d{12}:role/?[a-zA-Z_0-9+=,.@\-_/]+`

必須: いいえ

Runtime

関数のランタイムの識別子 デプロイパッケージが .zip ファイルアーカイブの場合は、ランタイムが必要です。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21`

必須 : いいえ

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラーです。

型: RuntimeVersionConfig オブジェクト

必須: いいえ

SigningJobArn

署名ジョブの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの ARN

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

SnapStart

`ApplyOn` を `PublishedVersions` に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。詳細については、「Improving startup performance with Lambda SnapStart」(Lambda SnapStart を使用した起動パフォーマンスの向上) を参照してください。

型: SnapStartResponse オブジェクト

必須: いいえ

State

関数の現在の状態 状態が `Inactive` の場合、関数を呼び出すことで再アクティブ化できます。

型: 文字列

有効な値: `Pending | Active | Inactive | Failed`

必須 : いいえ

StateReason

関数の現在の状態の理由

型: 文字列

必須: いいえ

StateReasonCode

関数の現在の状態の理由コード コードが Creating のときは、関数を呼び出したり変更したりすることはできません。

型: 文字列

有効な値: Idle | Creating | Restoring | EniLimitExceeded | InsufficientRolePermissions | InvalidConfiguration | InternalError | SubnetOutOfIPAddresses | InvalidSubnet | InvalidSecurityGroup | ImageDeleted | ImageAccessDenied | InvalidImage | KMSKeyAccessDenied | KMSKeyNotFound | InvalidStateKMSKey | DisabledKMSKey | EFSIOError | EFSMountConnectivityError | EFSMountFailure | EFSMountTimeout | InvalidRuntime | InvalidZipFileException | FunctionError

必須 : いいえ

Timeout

Lambda が関数を停止するまでに関数に許可する実行時間 (秒) です。

型: 整数

有効な範囲: 最小値 は 1 です。

必須: いいえ

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定

型: TracingConfigResponse オブジェクト

必須: いいえ

Version

Lambda 関数のバージョン

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

パターン: (\$LATEST|[0-9]+)

必須: いいえ

VpcConfig

関数のネットワーク設定

型: VpcConfigResponse オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

FunctionEventInvokeConfig

目次

DestinationConfig

処理のために関数に送信された後のイベントの宛先。

送信先

- 関数 - Lambda 関数の Amazon リソースネーム (ARN)。
- キュー - 標準 SQS キューの ARN。
- トピック - 標準 SNS トピックの ARN。
- イベントバス - Amazon EventBridge イベントバスの ARN。

タイプ: DestinationConfig オブジェクト

必須: いいえ

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

LastModified

設定が最後に更新された日時 (UNIX タイム秒単位)。

タイプ: タイムスタンプ

必須: いいえ

MaximumEventAgeInSeconds

Lambda が処理のために関数に送信するリクエストの最大存続時間です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 60 です。最大値は 21,600 です。

必須: いいえ

MaximumRetryAttempts

関数が エラーを返すときの最大再試行回数です。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。最大値は 2 です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

FunctionUrlConfig

Lambda の関数 URL についての詳細。

目次

AuthType

関数 URL が使用する認証のタイプ。アクセスを認証されたユーザーのみに制限する場合、AWS_IAM に設定します。IAM 認証をバイパスしてパブリックエンドポイントを作成する場合は、値に NONE を設定します。詳細については、「Security and auth model for Lambda function URLs」(Lambda 関数 URL におけるセキュリティと認証モデル) を参照してください。

型: 文字列

有効な値: NONE | AWS_IAM

必須: はい

CreationTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示す関数 URL の作成時刻。

型: 文字列

必須: はい

FunctionArn

関数の Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

Pattern: arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?

必須: はい

FunctionUrl

関数の HTTP URL エンドポイント。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 40 です。最大長は 100 です。

必須: はい

LastModifiedTime

ISO-8601 形式 (YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sTZD) で示された関数の最後更新日時。

型: 文字列

必須: はい

Cors

関数 URL のための、Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 設定。

型: Cors オブジェクト

必須: いいえ

InvokeMode

以下のいずれかのオプションを使用します。

- BUFFERED – これはデフォルトのオプションです。Lambda は Invoke API オペレーションを使用して関数を呼び出します。ペイロードが完了すると、呼び出し結果が表示されます。最大ペイロードサイズは 6 MB です。
- RESPONSE_STREAM — 関数はペイロード結果が利用可能になるとストリーミングします。Lambda は InvokeWithResponseStream API オペレーションを使用して関数を呼び出します。最大レスポンスペイロードのサイズは 20 MB ですが、「クォータ引き上げをリクエスト」できます。

型: 文字列

有効な値: BUFFERED | RESPONSE_STREAM

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++

- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

ImageConfig

コンテナイメージ Dockerfile の設定を上書きする設定値。詳細については、「コンテナイメージの設定」を参照してください。

目次

Command

ENTRYPOINT とともに渡すパラメータを指定します。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 1,500 項目です。

必須: いいえ

EntryPoint

アプリケーションへのエントリポイントを指定します。通常、これはランタイム実行可能ファイルの場所です。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 1,500 項目です。

必須: いいえ

WorkingDirectory

作業ディレクトリを指定します。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 1,000 です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

ImageConfigError

`GetFunctionConfiguration` に対するエラーレスポンスです。

目次

ErrorCode

エラーコード。

型: 文字列

必須: いいえ

Message

エラーメッセージ。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

ImageConfigResponse

GetFunctionConfiguration リクエストに対するレスポンスです。

目次

Error

GetFunctionConfiguration に対するエラーレスポンスです。

型: ImageConfigError オブジェクト

必須: いいえ

ImageConfig

コンテナイメージ Dockerfile を上書きする設定値。

タイプ: ImageConfig オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

InvokeResponseStreamUpdate

ストリーミングされたレスポンスペイロードのチャンク。

目次

Payload

Lambda 関数によって返されたデータ。

型: Base64 でエンコードされたバイナリデータオブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

InvokeWithResponseStreamCompleteEvent

イベントストリームが完了したことを確認するレスポンス。

目次

ErrorCode

エラーコード。

型: 文字列

必須: いいえ

ErrorDetails

返されたエラーの詳細。

型: 文字列

必須: いいえ

LogResult

base64 でエンコードされた、実行ログの最後の 4 KB です。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

InvokeWithResponseStreamResponseEvent

レスポンスペイロードのチャンクを含むオブジェクト。ストリームが終了すると、Lambda には、`InvokeComplete` オブジェクトが含まれます。

目次

InvokeComplete

ストリームが終了し、すべてのペイロードチャンクが返されたときに返されるオブジェクト。

型: InvokeWithResponseStreamCompleteEvent オブジェクト

必須: いいえ

PayloadChunk

ストリーミングされたレスポンスペイロードのチャンク。

型: InvokeResponseStreamUpdate オブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

Layer

AWS Lambda レイヤーです。

目次

Arn

関数レイヤーの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+`

必須: いいえ

CodeSize

レイヤーアーカイブのサイズ (バイト単位) 。

Type: Long

必須: いいえ

SigningJobArn

署名ジョブの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

LayersListItem

AWS Lambda レイヤーに関する詳細。

目次

LatestMatchingVersion

レイヤーの最新バージョン。

タイプ: LayerVersionsListItem オブジェクト

必須: いいえ

LayerArn

関数レイヤーの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+`

必須: いいえ

LayerName

レイヤーの名前。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `(arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+)|[a-zA-Z0-9-_]+`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

LayerVersionContentInput

AWS Lambda レイヤーのコンテンツが含まれる ZIP アーカイブ。Amazon S3 ロケーションを指定することも、レイヤーアーカイブを直接アップロードすることもできます。

目次

S3Bucket

レイヤーアーカイブの Amazon S3 バケットです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 3 です。最大長は 63 です。

パターン: `^[0-9A-Za-z\.\-_]*(?<!\.)$`

必須: いいえ

S3Key

レイヤーアーカイブの Amazon S3 キーです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

S3ObjectVersion

バージョン管理されたオブジェクトの場合に使用する、レイヤーアーカイブオブジェクトのバージョンです。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 1,024 です。

必須: いいえ

ZipFile

レイヤーアーカイブの base64 エンコードコンテンツ。AWSSDK および AWS CLI クライアントによりエンコーディングが処理されます。

タイプ: Base64 でエンコードされたバイナリデータオブジェクト

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

LayerVersionContentOutput

AWS Lambda レイヤーのバージョンに関する詳細。

目次

CodeSha256

レイヤーアーカイブの SHA-256 ハッシュ。

型: 文字列

必須: いいえ

CodeSize

レイヤーアーカイブのサイズ (バイト単位) 。

Type: Long

必須: いいえ

Location

10 分間有効な Amazon S3 の レイヤーアーカイブへのリンク。

型: 文字列

必須: いいえ

SigningJobArn

署名ジョブの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

必須: いいえ

SigningProfileVersionArn

署名プロファイルバージョンの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

LayerVersionsListItem

AWS Lambda レイヤーのバージョンに関する詳細。

目次

CompatibleArchitectures

互換性のある命令セットアーキテクチャのリストです。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 2 項目です。

有効な値: `x86_64 | arm64`

必須：いいえ

CompatibleRuntimes

レイヤーの互換性のあるランタイム。

以下のリストには、廃止されたランタイムが含まれています。詳細については、「廃止されたランタイムでのポリシー」を参照してください。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 15 項目です。

有効な値: `nodejs | nodejs4.3 | nodejs6.10 | nodejs8.10 | nodejs10.x | nodejs12.x | nodejs14.x | nodejs16.x | java8 | java8.al2 | java11 | python2.7 | python3.6 | python3.7 | python3.8 | python3.9 | dotnetcore1.0 | dotnetcore2.0 | dotnetcore2.1 | dotnetcore3.1 | dotnet6 | nodejs4.3-edge | go1.x | ruby2.5 | ruby2.7 | provided | provided.al2 | nodejs18.x | python3.10 | java17 | ruby3.2 | python3.11 | nodejs20.x | provided.al2023 | python3.12 | java21`

必須：いいえ

CreatedDate

バージョンが作成された日付 (ISO 8601 形式)。例えば、`2018-11-27T15:10:45.123+0000` です。

型: 文字列

必須: いいえ

Description

バージョンの説明。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 256 です。

必須: いいえ

LayerVersionArn

レイヤーバージョンの ARN。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 140 です。

パターン: `arn:[a-zA-Z0-9-]+:lambda:[a-zA-Z0-9-]+:\d{12}:layer:[a-zA-Z0-9-_]+:[0-9]+`

必須: いいえ

LicenseInfo

レイヤーのオープンソースライセンス。

型: 文字列

長さの制限: 最大長は 512 です。

必須: いいえ

Version

バージョン番号。

型: Long

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

LoggingConfig

関数の Amazon CloudWatch Logs 構成の設定。

目次

ApplicationLogLevel

このプロパティを設定して、Lambda が CloudWatch に送信する関数のアプリケーションログをフィルタリングします。Lambda は、選択した詳細レベル以下でのみアプリケーションログを送信します。TRACE が最上位レベル、FATAL が最下位レベルとなります。

型: 文字列

有効な値: `TRACE | DEBUG | INFO | WARN | ERROR | FATAL`

必須：いいえ

LogFormat

Lambda が関数のアプリケーションログとシステムログを CloudWatch に送信する形式。プレーンテキストと構造化 JSON のどちらかを選択します。

型: 文字列

有効な値: `JSON | Text`

必須：いいえ

LogGroup

関数からのログの送信先となる Amazon CloudWatch ロググループの名前。デフォルトでは、Lambda 関数は `/aws/lambda/<function name>` という名前のデフォルトロググループにログを送信します。別のロググループを使用するには、既存のロググループを入力するか、新しいロググループ名を入力します。

型: 文字列

長さの制限：最小長は 1 です。最大長は 512 です。

パターン: `[\.\-_/#A-Za-z0-9]+`

必須: いいえ

SystemLogLevel

このプロパティを設定して、Lambda が CloudWatch に送信する関数のシステムログをフィルタリングします。Lambda は、選択した詳細レベル以下でのみシステムログを送信します。DEBUG が最上位レベル、WARN が最下位レベルとなります。

型: 文字列

有効な値: DEBUG | INFO | WARN

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

OnFailure

処理に失敗したイベントの送信先。

目次

Destination

送信先リソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

非同期呼び出しの記録を保持するには、Amazon SNS トピック、Amazon SQS キュー、Lambda 関数、または Amazon EventBridge イベントバスを送信先として設定できます。

Kinesis および DynamoDB イベントソースからの失敗した呼び出しの記録を保持するには、Amazon SNS トピックまたは Amazon SQS キューを送信先として設定できます。

セルフマネージド Kafka または Amazon MSK からの失敗した呼び出しの記録を保持するには、Amazon SNS トピック、Amazon SQS キュー、Amazon S3 バケットを送信先として設定できます。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 350 です。

パターン: `^$|arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

OnSuccess

正常に処理されたイベントの送信先。

目次

Destination

送信先リソースの Amazon リソースネーム (ARN) です。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 0 です。最大長は 350 です。

パターン: `^$|arn:(aws[a-zA-Z0-9-]*):([a-zA-Z0-9\-])+:([a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1})?:(\d{12})?:(.*)`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

ProvisionedConcurrencyConfigListItem

関数のエイリアスまたはバージョンの、プロビジョニングされた同時実行数の設定の詳細。

目次

AllocatedProvisionedConcurrentExecutions

割り当てられたプロビジョニング済み同時実行数。線形デプロイと Canary デプロイ時に加重エイリアスを使用するとき、関数バージョンにプロビジョニングされる同時実行の量に応じて、この値は変動します。

型: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。

必須: いいえ

AvailableProvisionedConcurrentExecutions

使用可能なプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

値の範囲: 最小値 は 0 です。

必須: いいえ

FunctionArn

エイリアスまたはバージョンの Amazon リソースネーム (ARN)。

型: 文字列

パターン: `arn:(aws[a-zA-Z-]*)?:lambda:[a-z]{2}(-gov)?-[a-z]+-\d{1}:\d{12}:function:[a-zA-Z0-9-_]+(:(\$LATEST|[a-zA-Z0-9-_]+))?`

必須: いいえ

LastModified

ユーザーが最後に設定を更新した日時 (ISO 8601 形式)。

型: 文字列

必須: いいえ

RequestedProvisionedConcurrentExecutions

リクエストされたプロビジョニング済み同時実行数。

タイプ: 整数

有効な範囲: 最小値 は 1 です。

必須: いいえ

Status

割り当てプロセスのステータス

型: 文字列

有効な値: `IN_PROGRESS | READY | FAILED`

必須：いいえ

StatusReason

失敗した割り当ての、プロビジョニング済み同時実行を割り当てられなかった理由。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

RuntimeVersionConfig

ランタイムの ARN と発生したエラーです。

内容

Error

Lambda が関数のランタイムバージョンを取得できないときのエラーレスポンスです。

型: RuntimeVersionError オブジェクト

必須: いいえ

RuntimeVersionArn

関数に使用させるランタイムバージョンの ARN です。

型: 文字列

長さ制限: 最小長は 26 です。最大長は 2,048 です。

パターン: `^arn:(aws[a-zA-Z-]*):lambda:[a-z]{2}((-gov)|(-iso(b?)))?-[a-z]+-\d{1}::runtime:.+$`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

RuntimeVersionError

関数のランタイムバージョン情報を取得できなかったときに返されるエラーです。

目次

ErrorCode

エラーコードです。

型: 文字列

必須: いいえ

Message

エラーメッセージです。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

ScalingConfig

(Amazon SQS のみ) イベントソースのスケーリング設定です。設定を削除するには、空の値を渡します。

目次

MaximumConcurrency

Amazon SQS イベントソースが呼び出せる同時インスタンスの数を制限します。

型: 整数

値の範囲: 最小値は 2 です。最大値は 1000 です。

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

SelfManagedEventSource

イベントソースのセルフマネージド Apache Kafka クラスター。

目次

Endpoints

Kafka ブローカー用のブートストラップサーバーのリストは、次の形式で示されます: `"KAFKA_BOOTSTRAP_SERVERS": ["abc.xyz.com:xxxx","abc2.xyz.com:xxxx"]`。

タイプ: 文字列マップの配列への文字列

マップエントリ: 2 つの項目の最大数。

有効なキー: `KAFKA_BOOTSTRAP_SERVERS`

配列メンバー : 最小数は 1 項目です。最大数は 10 項目です。

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 300 です。

パターン: `^(([a-zA-Z0-9]|[a-zA-Z0-9][a-zA-Z0-9\-]*[a-zA-Z0-9])\.)*([A-Za-z0-9]|[A-Za-z0-9][A-Za-z0-9\-]*[A-Za-z0-9]):[0-9]{1,5}`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

SelfManagedKafkaEventSourceConfig

セルフマネージド Apache Kafka イベントソースの特定の設定。

目次

ConsumerGroupId

参加する Kafka コンシューマーグループの識別子。コンシューマーグループ ID は、すべての Kafka イベントソースの中で一意でなければなりません。コンシューマーグループ ID を指定して Kafka イベントソースマッピングを作成した後は、この値を更新することはできません。詳細については、カスタマイズ可能なコンシューマーグループ IDを参照してください。

型: 文字列

長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 200 です。

パターン: `[a-zA-Z0-9-\/*:_+=.@-]*`

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

SnapStart

関数の Lambda SnapStart 設定です。ApplyOn を PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、初期化された実行環境のスナップショットが作成されます。

目次

ApplyOn

PublishedVersions に設定して、関数バージョンを発行するときに初期化された実行環境のスナップショットを作成します。

型: 文字列

有効な値: PublishedVersions | None

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

SnapStartResponse

関数の SnapStart 設定です。

目次

ApplyOn

PublishedVersions に設定すると、関数バージョンを発行するときに、Lambda が実行環境のスナップショットを作成します。

型: 文字列

有効な値: PublishedVersions | None

必須：いいえ

OptimizationStatus

修飾 Amazon リソースネーム (ARN) を指定すると、このレスポンス要素は、指定された機能バージョンに対して SnapStart がアクティブ化されているかどうかを示します。

型: 文字列

有効な値: On | Off

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

SourceAccessConfiguration

イベントソースへのアクセスを保護して定義するために、認証プロトコル、VPC コンポーネント、仮想ホストを指定できます。

目次

Type

イベントソースの認証プロトコル、VPC コンポーネント、仮想ホストのタイプです。例: `"Type":"SASL_SCRAM_512_AUTH"`。

- `BASIC_AUTH` – (Amazon MQ) ブローカー認証情報を保存する AWS Secrets Manager シークレット。
- `BASIC_AUTH` – (セルフマネージド Apache Kafka) Apache Kafka ブローカーの SASL/PLAIN 認証に使用されるシークレットキーの Secrets Manager ARN。
- `VPC_SUBNET` – (セルフマネージド Apache Kafka) VPC に関連付けられたサブネット。Lambda はこれらのサブネットに接続して、セルフマネージド Apache Kafka クラスターからデータをフェッチします。
- `VPC_SECURITY_GROUP` – (セルフマネージド Apache Kafka) セルフマネージド Apache Kafka ブローカーへのアクセスを管理するために使用される VPC セキュリティグループ。
- `SASL_SCRAM_256_AUTH` – (セルフマネージド Apache Kafka) セルフマネージド Apache Kafka ブローカーの SASL SCRAM-256 認証に使用されるシークレットキーの Secrets Manager ARN。
- `SASL_SCRAM_512_AUTH` – (Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka) セルフマネージド Apache Kafka ブローカーの SASL SCRAM-512 認証に使用されるシークレットキーの Secrets Manager ARN。
- `VIRTUAL_HOST` – (RabbitMQ) RabbitMQ ブローカー内の仮想ホストの名前。Lambda は、この RabbitMQ ホストをイベントソースとして使用します。このプロパティは、UpdateEventSourceMapping API コールでは指定できません。
- `CLIENT_CERTIFICATE_TLS_AUTH` – (Amazon MSK、セルフマネージド Apache Kafka) MSK/Apache Kafka ブローカーの相互 TLS 認証に使用される証明書チェーン (X.509 PEM)、プライベートキー (PKCS #8 PEM)、およびプライベートキーパスワード (オプション) が含まれるシークレットキーの Secrets Manager ARN。

- SERVER_ROOT_CA_CERTIFICATE – (セルフマネージド Apache Kafka) Apache Kafka ブローカーの TLS 暗号化に使用されるルート CA 証明書 (X.509 PEM) が含まれるシークレットキーの Secrets Manager ARN。

  型: 文字列

  有効な値: BASIC_AUTH | VPC_SUBNET | VPC_SECURITY_GROUP | SASL_SCRAM_512_AUTH | SASL_SCRAM_256_AUTH | VIRTUAL_HOST | CLIENT_CERTIFICATE_TLS_AUTH | SERVER_ROOT_CA_CERTIFICATE

  必須 : いいえ

URI

  Type で選択した構成の値。例: "URI": "arn:aws:secretsmanager:us-east-1:01234567890:secret:MyBrokerSecretName"。

  型: 文字列

  長さの制限: 最小長は 1 です。最大長は 200 です。

  パターン: [a-zA-Z0-9-\/*:_+=.@-]*

  必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

TracingConfig

関数の AWS X-Ray トレース設定。受信リクエストのサンプリングと記録には、Mode を Active に設定します。

目次

Mode

トレースモード。

型: 文字列

有効な値: `Active | PassThrough`

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

TracingConfigResponse

関数の AWS X-Ray トレース設定。

目次

Mode

トレースモード。

型: 文字列

有効な値: `Active | PassThrough`

必須：いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

VpcConfig

Lambda 関数に関連付けられている VPC セキュリティグループとサブネット。詳細については、「VPC 内のリソースにアクセスするように Lambda 関数を設定する」を参照してください。

目次

Ipv6AllowedForDualStack

デュアルスタックサブネットに接続されている VPC 機能でアウトバウンド IPv6 トラフィックを許可します。

型: ブール

必須: いいえ

SecurityGroupIds

VPC セキュリティグループ ID のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 5 つの項目の最大数。

必須: いいえ

SubnetIds

VPC サブネット ID のリスト。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 16 項目です。

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++

- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

VpcConfigResponse

Lambda 関数に関連付けられている VPC セキュリティグループとサブネット。

目次

Ipv6AllowedForDualStack

デュアルスタックサブネットに接続されている VPC 機能でアウトバウンド IPv6 トラフィックを許可します。

型: ブール

必須: いいえ

SecurityGroupIds

VPC セキュリティグループ ID のリスト。

型: 文字列の配列

配列メンバー: 5 つの項目の最大数。

必須: いいえ

SubnetIds

VPC サブネット ID のリスト。

タイプ: 文字列の配列

配列メンバー: 最大数は 16 項目です。

必須: いいえ

VpcId

VPC の ID。

型: 文字列

必須: いいえ

以下の資料も参照してください。

言語固有の AWS SDK のいずれかでこの API を使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AWS SDK for C++
- 「AWS SDK for Go」
- AWS SDK for Java V2
- AWS SDK for Ruby V3

共通パラメータ

次のリストには、すべてのアクションが署名バージョン 4 リクエストにクエリ文字列で署名するために使用するパラメータを示します。アクション固有のパラメータは、アクションのトピックに示されています。Signature Version 4 の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「AWS API リクエストの署名」を参照してください。

Action

実行するアクション。

型: 文字列

必須: はい

Version

リクエストが想定している API バージョンである、YYYY-MM-DD 形式で表示されます。

型: 文字列

必須: はい

X-Amz-Algorithm

リクエストの署名を作成するのに使用したハッシュアルゴリズム。

条件: HTTP 認証ヘッダーではなくクエリ文字列に認証情報を含める場合は、このパラメータを指定します。

型: 文字列

有効な値: `AWS4-HMAC-SHA256`

必須: 条件による

X-Amz-Credential

認証情報スコープの値で、アクセスキー、日付、対象とするリージョン、リクエストしているサービス、および終了文字列 ("aws4_request") を含む文字列です。値は次の形式で表現されます。[access_key/YYYYYYYYMMDD/リージョン/サービス/aws4_request]

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「署名付きAWS API リクエストの作成」を参照してください。

条件: HTTP 認証ヘッダーではなくクエリ文字列に認証情報を含める場合は、このパラメータを指定します。

型: 文字列

必須: 条件による

X-Amz-Date

署名を作成するときに使用する日付です。形式は ISO 8601 基本形式の YYYYMMDD'T'HHMMSS'Z' でなければなりません。例えば、日付 20120325T120000Z は、有効な X-Amz-Date の値です。

条件: X-Amz-Date はすべてのリクエストに対してオプションです。署名リクエストで使用する日付よりも優先される日付として使用できます。ISO 8601 ベーシック形式で日付ヘッダーが指定されている場合、X-Amz-Date は必要ありません。X-Amz-Date を使用すると、常に Date ヘッダーの値よりも優先されます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「AWS API リクエスト署名の要素」を参照してください。

タイプ: 文字列

必須: 条件による

X-Amz-Security-Token

AWS Security Token Service (AWS STS) へのを呼び出しで取得された一時的なセキュリティトークン。AWS STS の一時的なセキュリティ認証情報をサポートするサービスのリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「IAM と連携するAWS のサービス」を参照してください。

条件:AWS STS の一時的なセキュリティ認証情報を使用する場合、セキュリティトークンを含める必要があります。

タイプ: 文字列

必須: 条件による

X-Amz-Signature

署名する文字列と派生署名キーから計算された 16 進符号化署名を指定します。

条件: HTTP 認証ヘッダーではなくクエリ文字列に認証情報を含める場合は、このパラメータを指定します。

型: 文字列

必須: 条件による

X-Amz-SignedHeaders

正規リクエストの一部として含まれていたすべての HTTP ヘッダーを指定します。署名付きヘッダーの指定に関する詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「署名付き AWS API リクエストの作成」を参照してください。

条件: HTTP 認証ヘッダーではなくクエリ文字列に認証情報を含める場合は、このパラメータを指定します。

型: 文字列

必須: 条件による

共通エラー

このセクションでは、AWS のすべてのサービスの API アクションに共通のエラーを一覧表示しています。このサービスの API アクションに固有のエラーについては、その API アクションのトピックを参照してください。

AccessDeniedException

このアクションを実行する十分なアクセス権限がありません。

HTTP ステータスコード: 403

ExpiredTokenException

リクエストに含まれているセキュリティトークンが有効期限切れです

HTTP ステータスコード: 403

IncompleteSignature

リクエストの署名が AWS 標準に従っていません。

HTTP ステータスコード: 403

InternalFailure

リクエストの処理が、不明なエラー、例外、または障害により実行できませんでした。

HTTP ステータスコード：500

MalformedHttpRequestException

HTTP レベルでのリクエストの問題 (例えば、コンテンツエンコードで指定された解凍アルゴリズムに従って本文を解凍することはできません)。

HTTP ステータスコード：400

NotAuthorized

このアクションを実行するにはアクセス許可が必要です。

HTTP ステータスコード: 401

OptInRequired

サービスを利用するためには、AWS アクセスキー ID を取得する必要があります。

HTTP ステータスコード: 403

RequestAbortedException

返信の送信前にリクエストが中止されたときに使用できる例外 (クライアントが閉じた接続など)。

HTTP ステータスコード : 400

RequestEntityTooLargeException

HTTP レベルでのリクエストに関する問題。リクエストエンティティが大きすぎます。

HTTP ステータスコード: 413

RequestExpired

リクエストの日付スタンプの 15 分以上後またはリクエストの有効期限 (署名付き URL の場合など) の 15 分以上後に、リクエストが到着しました。または、リクエストの日付スタンプが現在より 15 分以上先です。

HTTP ステータスコード : 400

RequestTimeoutException

HTTP レベルでのリクエストに関する問題。リクエストの読み取りがタイムアウトしました。

HTTP ステータスコード: 408

ServiceUnavailable

サーバーの一時的な障害により、リクエストは失敗しました。

HTTP ステータスコード: 503

ThrottlingException

リクエストのスロットリングにより、リクエストが拒否されました。

HTTP ステータスコード : 400

UnrecognizedClientException

指定された X.509 証明書または AWS アクセスキー ID がレコード内に見つかりません。

HTTP ステータスコード: 403

UnknownOperationException

リクエストされたアクション、またはオペレーションは無効です。アクションが正しく入力されていることを確認してください。

HTTP ステータスコード: 404

ValidationError

入力が、AWS サービスで指定された制約を満たしていません。

HTTP ステータスコード : 400